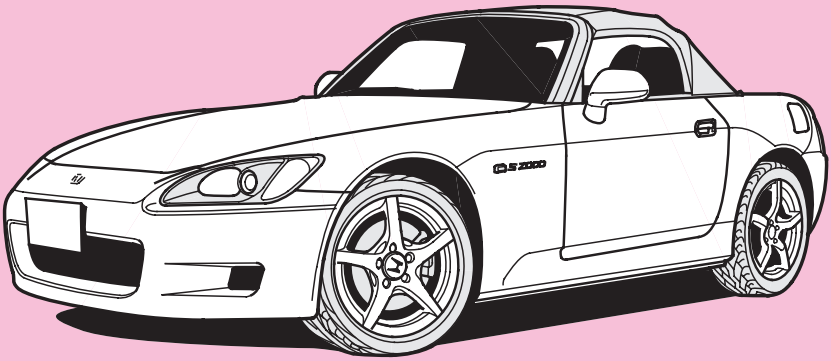
このたびはHonda車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この本は S2000 の取り扱いについて
必要事項を説明しています。
安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
ご使用前に必ずお読みください。



●運転はルールを守り、マナーよく。 ・シートベルトを着用しましょう。 ・法定速度を守りましょう。 ・子供やお年寄りをいたわりましょう。 ・駐停車は、ルールに従いましょう。 ・迷惑運転はやめましょう。 ・自然環境保護に気をくばりましょう。	●取扱説明書は、メンテナンスノートと共に、いつもお車に保管してください。 ●お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのためにこの取扱説明書およびメンテナンスノートを車につけておいてください。
●保証や点検整備に関することはメンテナンスノートに記載しておりますので、ご使用前に必ずお読みください。	●ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の読みかた

この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明しています。
また、装備、万一のときの応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

「安全ドライブのための必読 5 ポイント」

重要ですので、しっかりお読みください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車のために守っていただきたいこと
（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、異常事態の処置方法を記載しています）

知 識
知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

タイトル
階層ごとにデザインを
変えてあります

ヘッダー
ページの内容を
示しています

**ページ
インデックス**
（→4ページ）

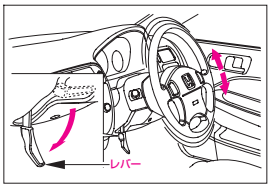
ハンドル・バックミラーの調節

チルトステアリング

ハンドルの高さを適切な位置に変えることができます。

▼

レバーを押し下げ、ハンドルの高さを適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。



⚠注意

- 走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

知識

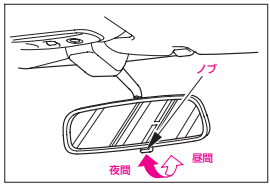
- 走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。

▼

ノブを動かして切り換えます。



角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

**●長期間使わないで
屋外におくとき**

塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

⚠注意

- 格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。そのまま走行すると、火災のおそれがあります。

説明文
装置／機構について

解説
▼
操作方法

に分けて記載しています。

安全に関する表示

※このページはサンプルページですので、記載されている内容と実車は異なります。

本書の上手な使いかた

知りたい項目の説明がすぐ探せるように、いろいろな引きかたが用意されています。



タイトルから探すとき

目次（P.5）

ページインデックス：
目次と対応しているので、目的のページが辞書を引くように探せます。



スイッチ類などの名称が
わからないとき

ビジュアル目次
（P.6〜10）



名称から探すとき

さくいん
（P.208〜217）

目　次

◆安全ドライブのための必読 5 ポイント　11

1．お出かけまえに 12　2．お子さまに思いやりを 14
3．正しい知識で最適運転 18　4．駐車や停車はしっかりと 20
5．こんなことにも注意をしよう 22

1. 車を運転する前に　27



・各部の開閉 28　・シートの調節 44
・バックミラーの調節 48　・シートベルト 50

2. 車を運転するときに　55



・メーター 56　・表示灯 60　・警告灯 62
・スイッチの使いかた 68　・運転のしかた 76
・バリアブルギヤレシオステアリング(VGS) 82　・リミテッドスリップデフ(LSD) 84

3. 安全装備　85



・SRSエアバッグシステム 86　・シートベルトプリテンショナー 94
・アンチロックブレーキシステム(ABS) 96　・その他の安全装備 98

4. ドライブを快適にする装備　99



・エアコン 100　・オーディオ 108　・室内装備品 130

5. 万一のとき　135



・工具・スペアタイヤ・発炎筒 136　・故障したとき 138　・事故が起きたとき 140
・けん引 142　・パンクしたとき 146　・オーバーヒートしたとき 154
・電気系統が異常のとき 156

6. 車の手入れ　169



・点検・整備について 170　・日常の手入れ 172　・車にあった部品の使用 186

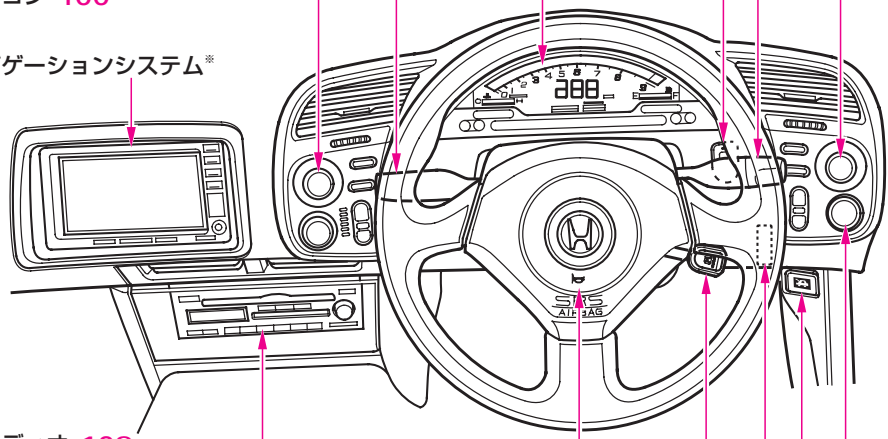
7. 車との上手なつきあいかた　187



・積雪・寒冷時の取り扱い 188　・こんなときは 198

・サービスデータ　202
・さくいん　208
・こんなことでお困りのとき　巻末

ビジュアル目次



オーディオリモートコントロールスイッチ 119

ライト／方向指示器(ウィンカー)スイッチ 70、71

リヤデフロスタースイッチ 74

メーター 56
- 表示灯 60
- 警告灯 62

ワイパー／ウォッシャースイッチ 72

エアコン 100

ナビゲーションシステム※

オーディオ 108

ホーンスイッチ 75

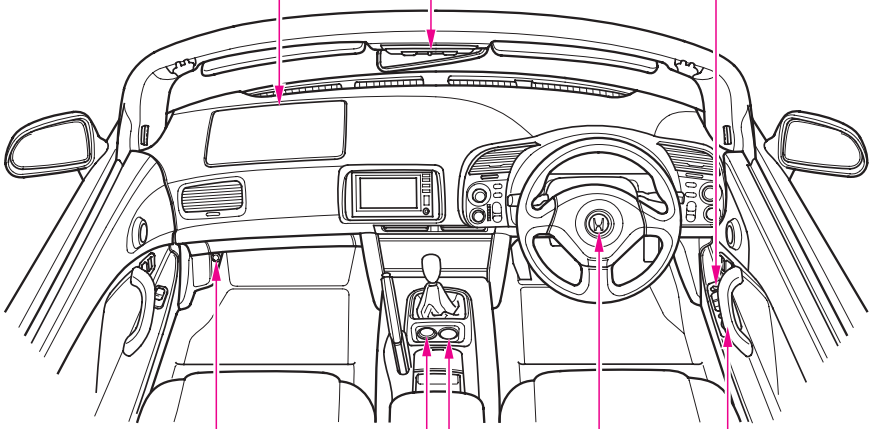
エンジンスイッチ 68

ヒューズボックス 158

ボンネット解錠ノブ 32

エンジンスタートスイッチ 69

※：ナビゲーションシステム装備車は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をご覧ください。



SRSエアバッグシステム(助手席用) 86

室内灯／スポットランプ 130、131

パワーウィンドースイッチ 38

ドアミラー調節スイッチ 48

SRSエアバッグシステム(運転席用) 86

ソフトトップ開閉スイッチ 40

非常点滅表示灯(ハザード)スイッチ 71

発炎筒 136

ビジュアル目次

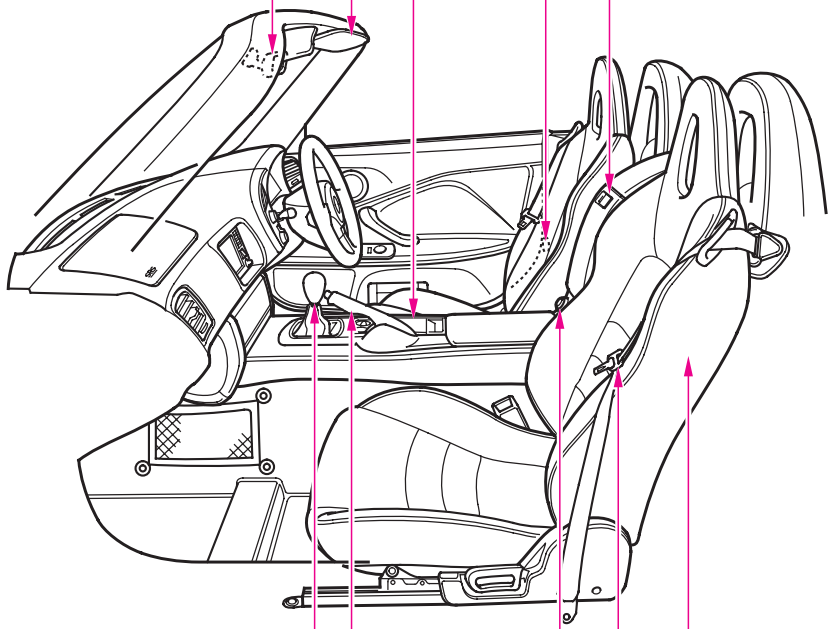
コンソールボックス 133

フューエルリッドオープナー 36

灰皿／カップホルダー 132、133

サンバイザー 131

ルームミラー 48



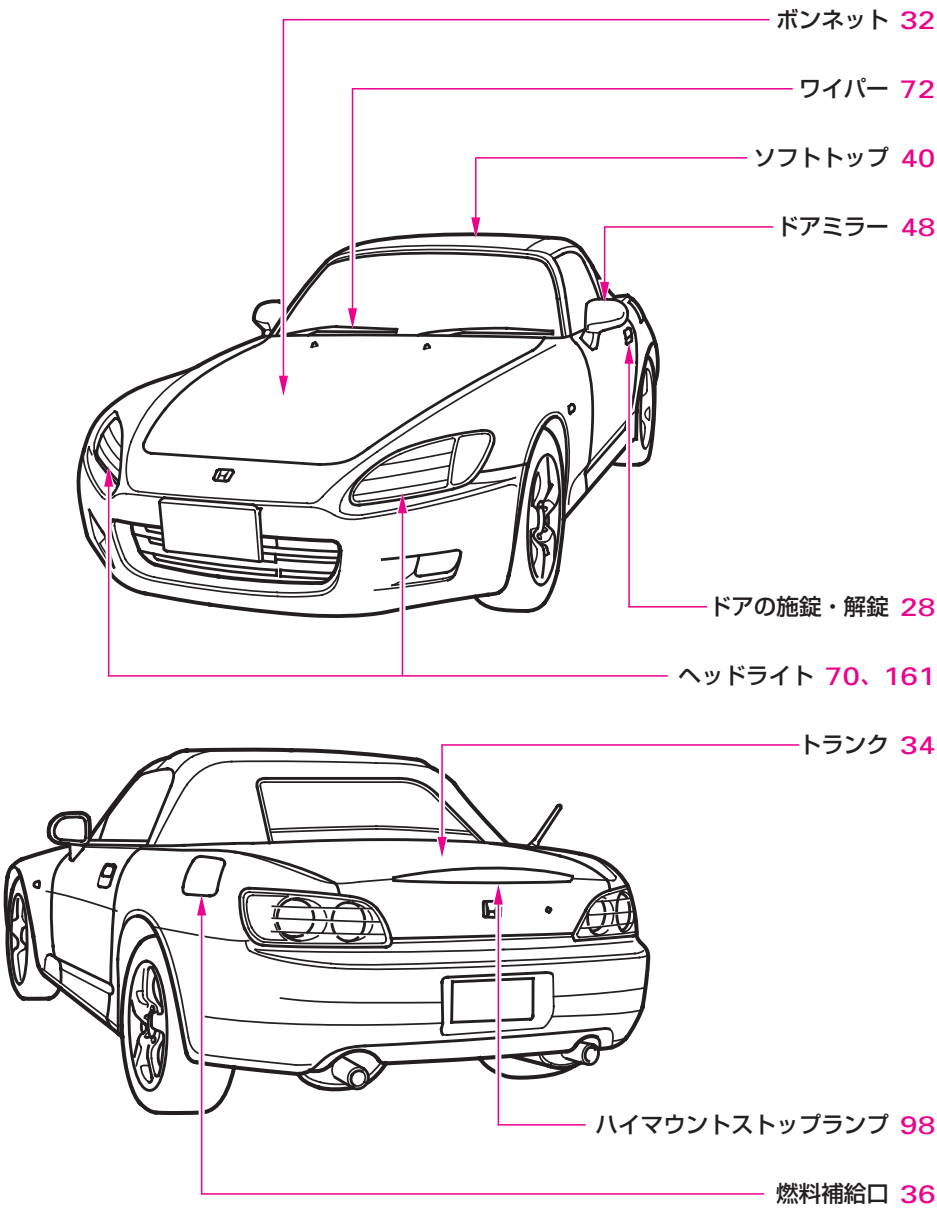
チェンジレバー 80

パーキングブレーキ 78

アクセサリーソケット 134

シートベルト 50

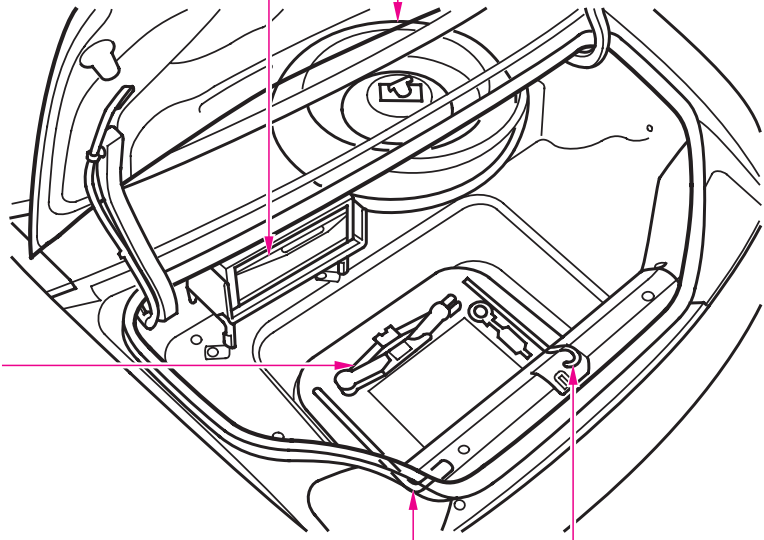
シート 44


ボンネット 32
ワイパー 72
ソフトトップ 40
ドアミラー 48
ドアの施錠・解錠 28
ヘッドライト 70、161
トランク 34
ハイマウントストップランプ 98
燃料補給口 36

ビジュアル目次

応急用スペアタイヤ 148

ナビゲーションシステム本体※



ジャッキ 146

工具 137

※：ナビゲーションシステム装備車は、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をご覧ください。

安全ドライブのための

必読5ポイント

ご使用の前に知っておいていただきたいこと、
守っていただきたいことをまとめてあります。

POINTS 5

●お出かけまえに …… 12
●お子さまに思いやりを …… 14
●正しい知識で最適運転 …… 18
●駐車や停車はしっかりと …… 20
●こんなことにも注意をしよう …… 22

1 お出かけまえに・・・

点検をわすれずに。
＜メンテナンスノート参照＞

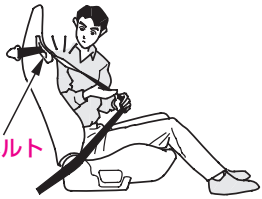
- 道路運送車両法により、法定定期点検と日常点検が義務づけられています。
  安全・快適にお使いいただくために、Hondaの点検要領に従って必ず点検してください。
  日常点検は車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
- 普段と違う点に気づいたら、ホンダベルノ店で点検を受けてください。（音、におい、ブレーキ液の不足、地面に油のあとが残っている時・・・）
- 走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚などを感じたら早めに点検しましょう。

シートベルトを正しく着用。
＜50ページ参照＞

- 運転する人はもちろん、同乗する人にも必ず着用させてください。
- シートに深く腰かけてください。
- 腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。



- シートベルトガイドにベルトが通っていることと、ベルトにねじれがないことを確かめてください。



- ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにしてください。



- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。



燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

引火、爆発のおそれがあります。

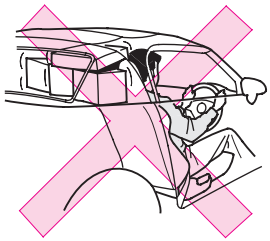


運転のさまたげになるものには注意を。

- **運転者の足もとに、物を置かないでください。**
- **フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。**
  ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできないおそれがあります。

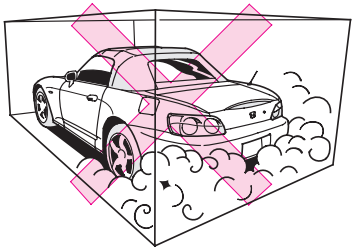


- **手荷物はシートの高さを越えないようにしましょう。**
  後方視界をさまたげたり、急ブレーキのときなどに荷物がとび出すおそれがあります。



排気ガスには十分に気をつけて。

- **排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。**
  車内や屋内などに排気ガスが充満し一酸化炭素中毒のおそれがあります。



- **排気管に穴や亀裂があったり、排気音の異常に気づいたらホンダベルノ店で点検を受けてください。**
  車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

2 お子さまに思いやりを

お子さまは後席のある車に。
＜この車にお子さまを乗せることはおすすめしません＞

- 不意の動作が気になったり、スイッチ・レバー類のいたずらなど運転のさまたげになるおそれがあります。また、事故が起きた場合、後席のほうが安全といわれています。
- インストルメントパネルに手をついたり、顔や胸を近づけた状態での乗車は、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。

やむをえずお子さまを乗せるときは。

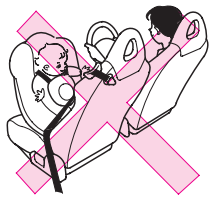
- **インストルメントパネルに顔や胸などが近づかないようにシートを後ろに下げてください。また、インストルメントパネルに手や足などを置かないでください。**
- **お子さまにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシート※をお使いください。**
  お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず危険です。

※：乳児用シート、幼児用シート、学童用シートをまとめた総称として「チャイルドシート」と呼んでいます。

- **お子さまのくびやあごにシートベルトがあたる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。**
  - シートベルトをそのまま使うと衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
  - チャイルドシートは安全装備です。国土交通大臣が型式を指定または認定したマークが付いているもの、もしくはアメリカやヨーロッパなどの安全基準に合格しているものを必ず選んでください。
  - チャイルドシートの形状などによっては、正しく取り付けできないものがあります。この車に合ったチャイルドシートを使用してください。
  - ご購入、ご使用に際してはホンダベルノ店にご相談ください。

●**チャイルドシートは確実に取り付けてください。**
お子さまを乗せるときは、チャイルドシートが車に確実に取り付けられていることを確認してください。
また、お子さまの体をチャイルドシートにきちんと固定してください。
シートベルトの種類やチャイルドシートの種類によっては、固定金具(ロッキングクリップ)が必要になることがあります。
シートベルトの種類　→52ページ
詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

●**助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。**
・SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け危険です。
・幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



●**シートベルトが正しく着用できないようなお子さまと一緒のときは、乳児用シートや幼児用シート(後ろ向き装着)を取り付けられる別の車をお使いください。**

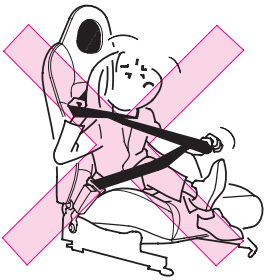
●**チャイルドシートを取り外したまま車内に放置しないでください。**
ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
お子さまを乗せないときでも確実に取り付けるか、家などに保管してください。

ドア、ウィンドー、ソフトトップ、シートの操作は必ず大人が。

- 手、足、くびなどをはさまないよう、気をつけてください。
- パワーウィンドーのメインスイッチは、“OFF”にしておきましょう。
  <38ページ参照>
- 走行中、一時停止のときなど、手や頭、物などを出さないよう、注意してください。
  思わぬ障害物で事故のおそれがあります。

お子さまをシートベルトで遊ばせないで。

- チャイルドシート固定機構付きシートベルトでは、ベルトをすべて引き出すと完全にベルトを戻すまでは引き出し方向には動きません。
  ベルトを身体に巻きつけたりして遊んでいると、固定機構が作動してベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。



車から離れるときは、お子さまも一緒に連れて。

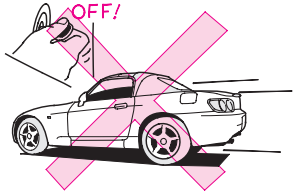
- お子さまだけを車内に残さないでください。
  - 炎天下の車内は、高温になり危険です。
  - お子さまのいたずらにより車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。



3 正しい知識で最適運転

●**走行中ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。**
ハンドル操作のさまたげになり大変危険です。

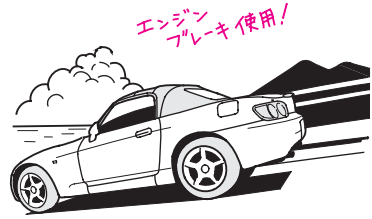
●**走行中はエンジンを止めないでください。**
・ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキのききが悪くなります。
・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなり、ハンドル操作が重くなります。
・エンジンスイッチを“0”にすると、キーが抜けることがあり、ハンドルがロックされ危険です。



長い下り坂ではエンジンブレーキを。

●**ブレーキペダルを踏み続けて走行するとブレーキが過熱して、ききが悪くなることがあります。**

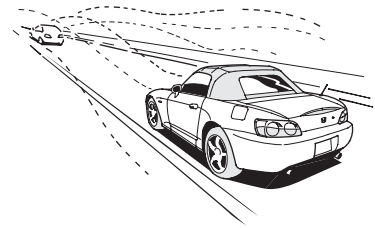
●**長い下り坂では、走行速度に合わせ、ギヤを一段ずつ落として、エンジンブレーキを併用してください。**



エンジンブレーキ：
走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力のことで、低速ギヤほどよくききます。

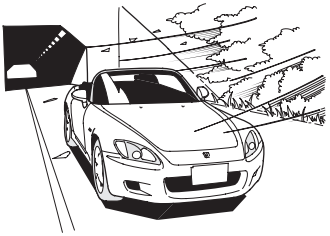
霧が出たときは。

●**霧が出たときは、視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレールや前の車の尾灯などをめやすにして、速度を落として運転してください。**



横風の強い日は。

●**横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に下げて進路を立て直してください。**
トンネルの出口、橋・土手の上、山を削った切り通し、大型トラックを追い越したり、追い越されたりするときなどには、特に横風の影響を受けやすいので十分注意してください。



雨天時の走行には注意を。

●**雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため、通常より注意深い運転が必要です。**
急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、スピードを落として安全運転に心がけてください。

●**わだちなどの水のたまりやすい場所では、ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。**
ハイドロプレーニング現象とは
→198ページ

●**冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。**
エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

水たまりに入ったあとはブレーキのきき具合を確認。

●**水たまり走行後や洗車後は、低速で走行しながらブレーキペダルを軽く踏んできき具合を確認してください。**
ぬれたブレーキはききが悪かったり、ぬれていない片側だけがきいてハンドルをとられることがあります。

●**ブレーキのききが悪いときは、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキのききが回復するまで、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。**

走行中異常があったら。

●**警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。**
＜62ページ参照＞
点灯したまま走行を続けると、思わぬ事故のもとになったり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。

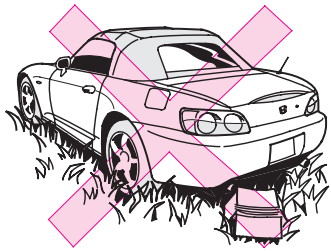
●**走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずに、ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。**
急ブレーキや急ハンドルは車のコントロールを失うことがあり危険です。

●**床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。**
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

4 駐車や停車はしっかりと

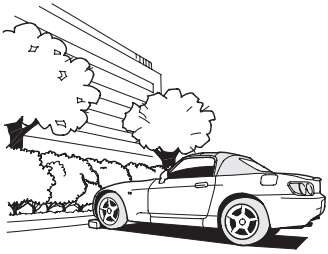
可燃物には注意を。

●**枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、駐停車しないでください。**
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。



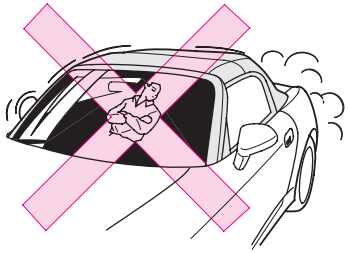
植込みなどにも注意して。

●**植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、車の向きを決めましょう。**



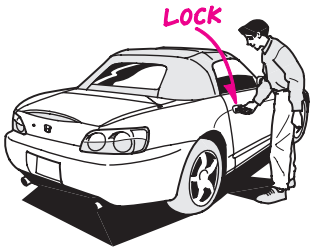
仮眠するときはエンジンを止める。

●**エンジンを必ず止めてください。**
無意識にチェンジレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
また、無意識にアクセルペダルを踏み続けたりした場合、オーバーヒートなどを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が発生するおそれがあります。
さらに風向や周囲の状況等によっては、車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒のおそれもあります。



車から離れるときには施錠を。

●**必ずパーキングブレーキをかけ、エンジンを止め、ドアを施錠してください。**
●**車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。**
●**お子さまも連れていきましょう。**



車の移動はエンジンをかけて。

●**車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。**
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。

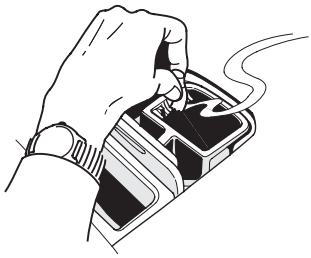
坂道での駐車は。

●**パーキングブレーキをかけ、チェンジレバーを平地や下り坂ではRに、上り坂では1に入れてください。**
さらに、タイヤに輪止めをすると効果があります。

5 こんなことにも注意をしよう

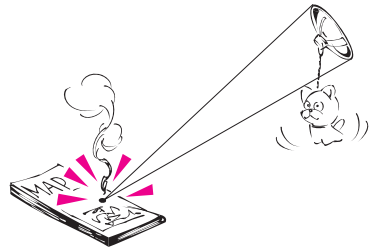
タバコの吸いがらは火を消して。

- **タバコ、マッチなどは、確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。**
- **灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすいものを入れたりしないでください。**



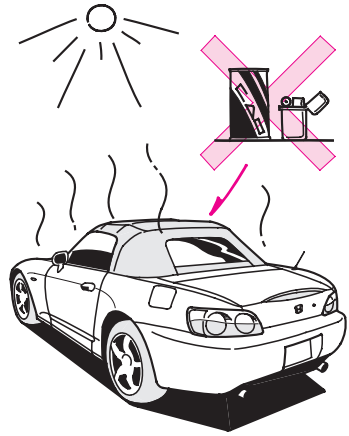
アクセサリーの取り付けには注意を。

- **ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。**
  視界をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたり、思わぬ事故のもとになります。



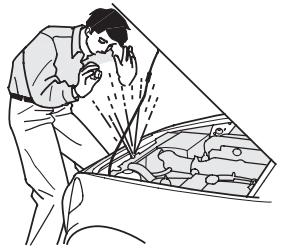
車内にライターや炭酸飲料缶などを放置しないで。

炎天下での駐車などで車内温度が上昇すると、ライターなどの可燃物は自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。



ラジエーターキャップに気をつけて。

●**ラジエーターキャップが熱いときは、外さないでください。**
蒸気や熱湯が吹き出し危険です。



動物を乗せるときは、動きまわらないように注意して。

運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあります。

携帯電話の使用は停車中に。

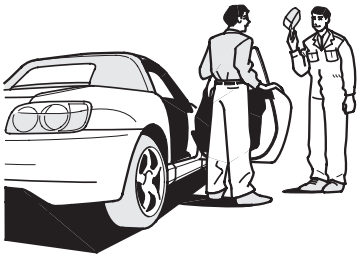
●**運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。**
運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造はしない。

●**Honda純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を、使用しないでください。**
・適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
・Hondaが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

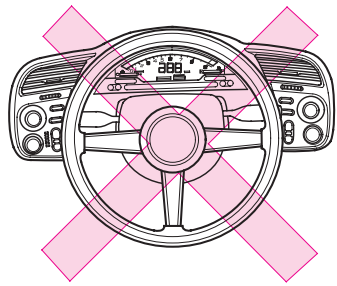
●**ホイールは、S2000専用品をご使用ください。**
専用品以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすことがあります。
ホンダベルノ店にご相談ください。

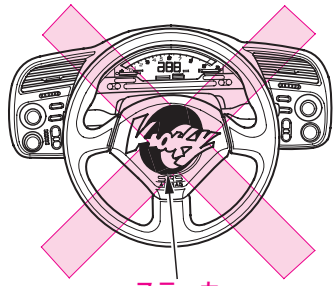
●**無線装置や自動車電話などの取り付けの際には、必ずホンダベルノ店にご相談ください。**
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

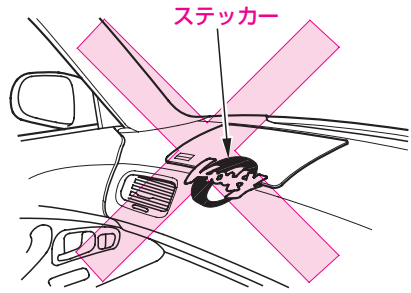


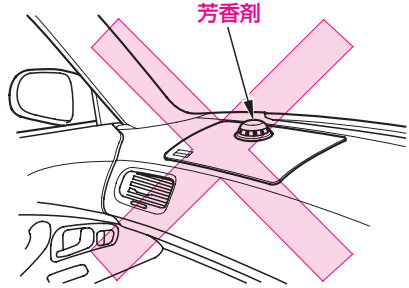
●**運転席および助手席に、SRSエアバッグシステムが装備されています。ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりしないでください。**
インストルメントパネル上面には、ステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。

・SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物がとぶことがあり危険です。
・次の場合は、必ず、ホンダベルノ店にご相談ください。
①ハンドルまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
⑤インストルメントパネルまわりの修理





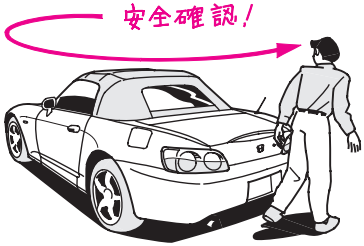




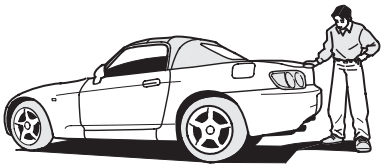
発進するときは、まわりの状況に十分注意して。

車のまわりには運転席から見えないところ(死角)があります。発進するときは子供や障害物など車のまわりの状況に十分注意してください。

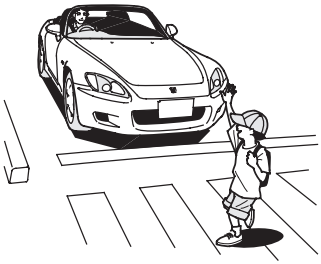
●駐車後に発進するときは、車のまわりの安全確認を十分に行ってください。



●後退するときに十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方を確認してください。
バックミラーでは確認しきれない死角(車の直後など)があります。



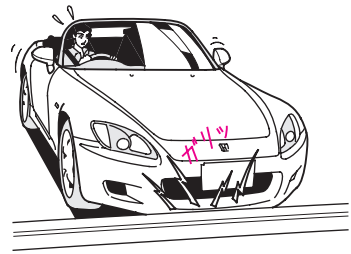
●信号待ちなどの停車後に発進するときは、つねにまわりの状況に目を配り、安全確認を十分に行ってください。

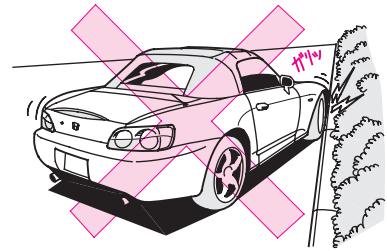


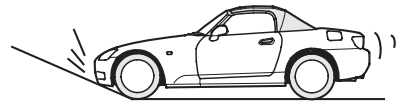
車止めなどに注意して。

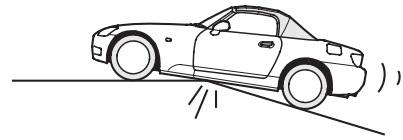
●**次のような場合には、フロントバンパー、マフラーおよび床下を損傷するおそれがありますので、十分に注意してください。**

- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車
- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂から平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過









1

車を運転する前に

●各部の開閉

キー……28
ドアの施錠・解錠……28
ボンネット……32
トランク……34
燃料補給口……36
パワーウィンドー……38
ソフトトップ……40

●シートの調節

正しい運転姿勢……44
シート……46

●バックミラーの調節

ルームミラー……48
ドアミラー……48

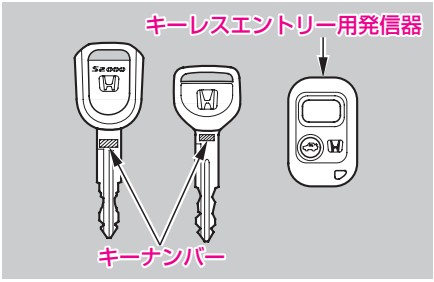
●シートベルト

シートベルト……50
着用のしかた……54

各部の開閉

キー

キーは、エンジンの始動、停止のほかに、ドアやコンソールボックスの施錠・解錠、トランクの解錠に使えます。



キーレスエントリー用発信器はドアの施錠・解錠、トランクの解錠がキーを使わずにできます。

キーレスエントリー　→30ページ
キーレストランクオープナー　→34ページ

知 識

- キーナンバーを控えておいてください。キーを紛失したときは、キーナンバーをホンダベルノ店へご連絡いただければ、購入することができます。
  キーレスエントリー用発信器を紛失したときは、ホンダベルノ店へご連絡ください。

ドアの施錠・解錠

⚠注意

- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは、走行中にドアが開き思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

知 識

- ドアは不用意に開けると後続車などがぶつかることがあるので周囲の安全を確かめてから開けてください。
- 強風時にドアを開閉するときは、風にあおられないよう注意してください。
- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。また、車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。
- 運転席ドアの解錠・施錠に連動して、室内灯が点灯・消灯します。

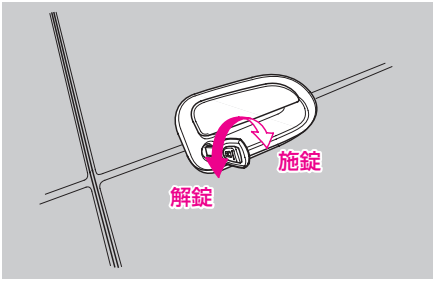
室内灯　→130ページ

パワードアロック

運転席ドアを施錠(解錠)すると、助手席ドアも同時に施錠(解錠)します。

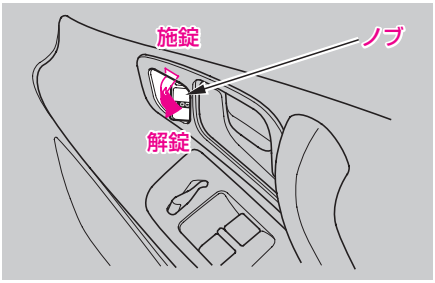
●車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。



●車内から行う場合

ノブを矢印の方向に動かします。



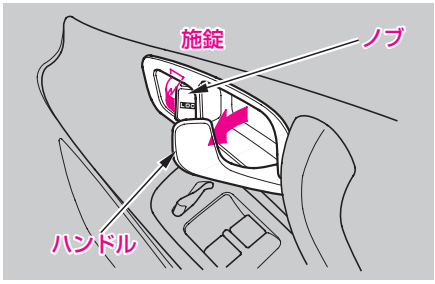
●キーを使わないで施錠する場合

知 識

- キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

運転席ドア

①ドアのハンドルを引いたままノブを施錠の方向に動かします。



②ドアを閉めます。

助手席ドア

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めます。

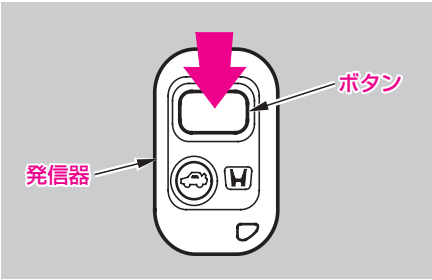
●キーレスエントリー

ドアの施錠・解錠がキーを使わずにできます。

▼

発信器のボタンを押すと運転席および助手席ドアが施錠(解錠)され、もう一度押すと解錠(施錠)されます。

キーレスエントリーで施錠・解錠を行うと非常点滅表示灯が施錠時は1回、解錠時は2回点滅します。



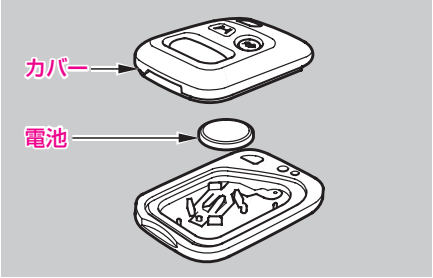
知 識

- 発信器には、精密な電子部品が組み込まれています。発信器の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・直射日光が当たるところやインストルメントパネルの上など、高温になるところに置かないでください。
  - ・衝撃を与えないでください。
  - ・水にぬらさないでください。
- 微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。
- キーレスエントリー用発信器で解錠してから約30秒以内にドアを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときやドアが開いているときは、キーレスエントリーは作動しません。
- 車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠されていることを確認してください。

発信器のボタンを押しても作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。

使用電池・・・・・・・・・ボタン電池CR1616

カバーに傷を付けないようにコイン等に布を巻いてカバーを外し、電池を交換します。



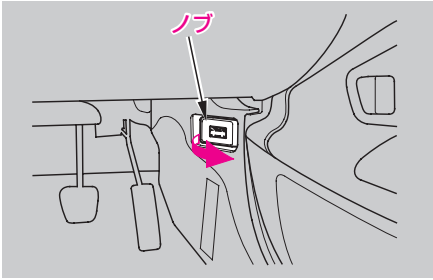
知 識

- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 電池はHonda販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

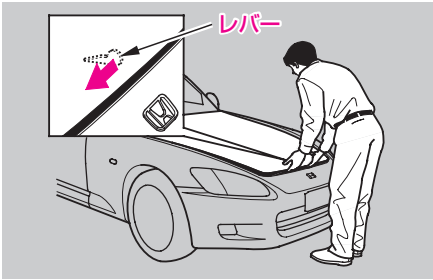
ボンネット

●開けかた

①運転席足元のノブを引きます。



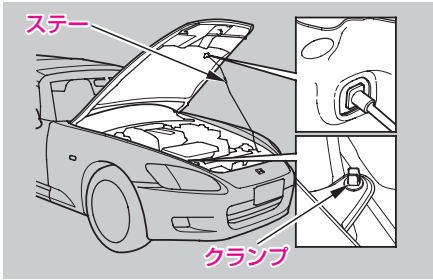
②ボンネット前部が少し浮き上がるので、レバーを左へ押しながら開けます。



知 識

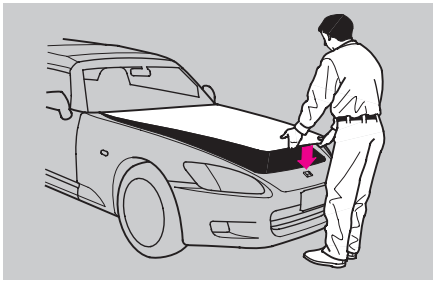
- ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けないでください。ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷します。

③必ずステーを確実にかけ、固定します。



●閉めかた

ステーを外し、クランプに納めます。
ボンネットを静かに下げ、手を離します。



ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。

⚠注意

- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。

知 識

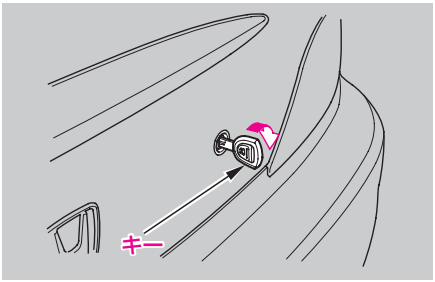
- ボンネットを開けているときに、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- ボンネットが完全に閉まっていないままで走行すると開くことがあります。走行前に必ず確認してください。

トランク

●解錠

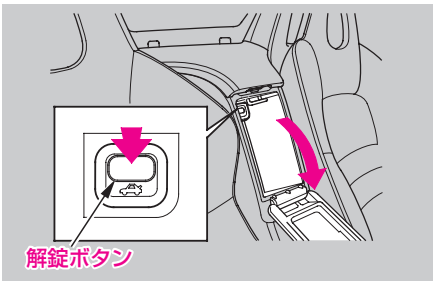
車外から行う場合

キーを確実に差し込んで矢印の方向に回します。



車内から行う場合
(電動トランクオープナー)

コンソールボックス内にある解錠ボタン(電動トランクオープナー)を押します。



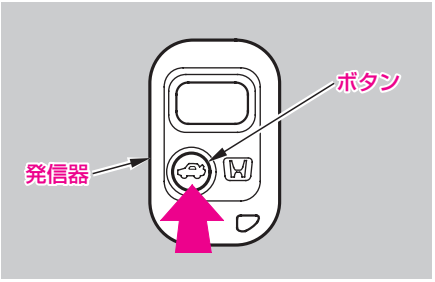
コンソールボックス　→133ページ

キーレストランクオープナー

キーレスエントリー用発信器を使ってトランクの解錠ができます。

▼

発信器のボタンを約1秒押し続けるとトランクが解錠されます。



キーレスエントリー　→30ページ

●施錠

トランクを閉めれば施錠できます。



⚠注意

- トランクを閉めるときは手などをはさまないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
  やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- トランクルーム内には人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- トランクは中から開けることはできません。お子さまが入らないよう注意してください。

知 識

- トランクは途中までしか開けていないと自重で閉まることがあります。
- 風にあおられて閉まることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- トランクを開けたまま走行しないでください。
  車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。
- トランクを閉めるときは次のことに気をつけてください。
  - ・キーをトランク内に置き忘れないようにしてください。
  - ・トランク上面を強く押さえないでください。
- 差し込んだキーを持ってトランクを開閉しないでください。
  キーシリンダーを破損するおそれがあります。

燃料補給口

燃料補給口は車の左側後方にあります。

指定燃料：無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）

タンク容量：50ℓ

⚠警告

- 燃料補給時は火気厳禁です。
  燃料は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。
  - エンジンは必ず止めてください。
  - タバコなどの火気を近づけないでください。
- 燃料補給作業は静電気を除去してから行ってください。
  静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

アドバイス

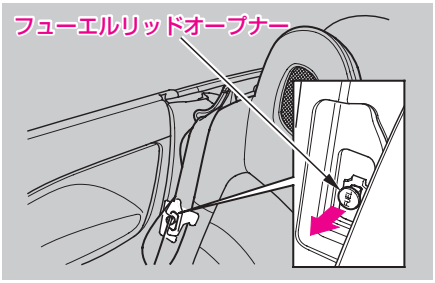
- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
  - 有鉛ガソリンを補給すると、触媒装置などを損ないます。
  - 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
  - 軽油や粗悪ガソリンを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

知 識

- 無鉛プレミアムガソリンが入手できない場合には、無鉛レギュラーガソリンをお使いになることもできますが、この場合エンジン性能を十分に発揮できません。

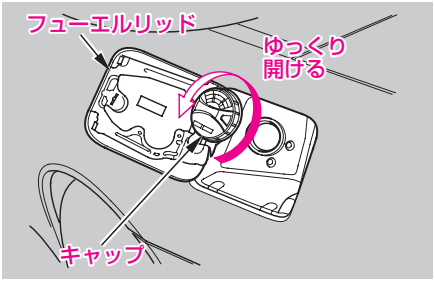
●開けかた

①運転席右後方にあるフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開けます。



②フューエルキャップを開ける前に、身体の静電気除去を行います。

③キャップをゆっくり回して開けます。



⚠注意

- キャップはゆっくり開けてください。
  急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

知 識

- 車体や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 燃料補給作業は、静電気を放電した人のみで行ってください。
- 燃料補給中に車内にもどったりすると再び帯電することがあります。
- 燃料補給は自動停止後に追加補給しないでください。気温の変化によりあふれることがあります。

●閉めかた

キャップを“カチッ”という音が2回以上するまで締め付けます。フューエルリッドは手で押さえつければ閉まります。

⚠注意

- キャップが確実に閉まっていることを確認してください。
  確実に閉まっていないと走行中に燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

パワーウィンドー

エンジンスイッチが“II”のとき、ウィンドーの開閉ができます。

▼

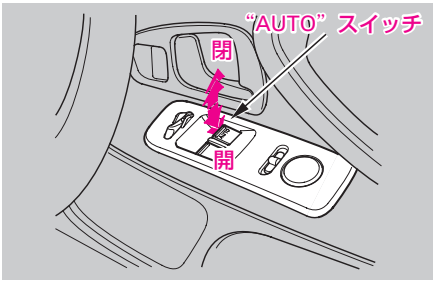
開閉は、それぞれのドアにあるスイッチで操作します。

・運転席スイッチは、助手席ウィンドーも操作できます。

●運転席ウィンドーの開閉

スイッチを軽く操作している間、作動します。
強く操作すると、自動で全開(全閉)します。

開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。



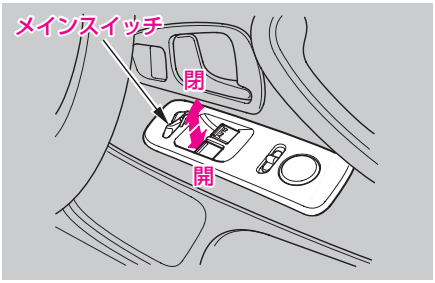
自動開閉中にウィンドーを停止させるときは、スイッチを作動方向とは逆へ軽く操作します。

●助手席ウィンドーの開閉

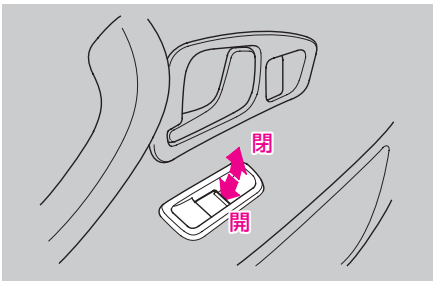
メインスイッチを“ON”にしてから、スイッチを操作します。
スイッチを操作している間、作動します。

開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。

・運転席ドアスイッチ



・助手席ドアスイッチ



助手席ウィンドーを動かなくしたいとき(メインスイッチ)

メインスイッチを“OFF”にしておけば、助手席ウィンドーは作動しません。



⚠警告

●パワーウィンドーを閉めるときは、手やくびなどをはさまないようにしてください。
ドアガラスにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

●車から離れるときはキーを抜き、お子さまも一緒に連れて行ってください。
いたずらなど誤った操作をして思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

●ウィンドーの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
●小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまが誤って操作しないよう、メインスイッチを“OFF”にしておきましょう。

●はさみ込み防止機構（運転席のみ）

運転席ウィンドーを自動で閉じているときに、窓枠とドアガラスの間に異物のはさみ込みを検知するとはさみ込み防止機構が作動し、ドアガラスの上昇が停止して自動で下降します。

⚠注意

●ウィンドーを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように注意してください。

知 識

●故障などではさみ込み防止機構が作動してしまい、ウィンドーを自動で閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
●環境や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
●バッテリーやヒューズを交換した場合は、オート作動ができなくなります。
その場合は、エンジンを始動しドアガラスを一番下まで下げてから、スイッチを引き上げ続け、ウィンドーを締め切った状態で、約１秒間スイッチを保持すると機能が復帰します。

ソフトトップ

ソフトトップの開閉操作は、次の条件をすべて満たしたときのみ操作することができます。

・エンジンスイッチが“II”のとき
・車が停止しているとき
・パーキングブレーキがかかっているとき

⚠警告

●ソフトトップを開閉するときは、手やくびなどをはさまないようにしてください。
ソフトトップにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

●ソフトトップは、いっぱいまで開けた状態、または、閉めて左右ともロックフックで固定した状態で使用してください。
これ以外の状態では、風にあおられるなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●走行中または一時停止時に、頭や手、物などを出さないでください。
思わぬ障害物や急ブレーキをかけたときなどに、事故につながるおそれがあります。

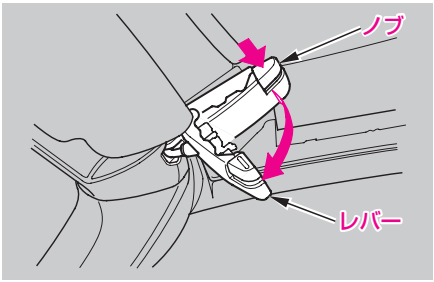
知 識

- ソフトトップを開閉するときは、次のような場所で行ってください。
  - 駐停車禁止区域外で安全なところ
  - ソフトトップ上方に障害物がないところ
    （ソフトトップの開閉軌跡は、ソフトトップ上方約35cmまで上がります）
  - 急な斜面でないところ
- 信号待ちのときなど、他の交通の妨げになるおそれのある場合には、開閉操作を行わないでください。走行中は、開閉操作が出来なくなります。
- 走行する前に、ソフトトップが確実にロックされていることを確認してください。また、走行中は、ロックを解除しないでください。
- 外気温が低いとき（約 5 °C以下）には、ソフトトップの開閉操作をしないでください。ソフトトップを傷める場合があります。
- ソフトトップを開けるときは、リヤトレイ上のものを取り除いてください。ものを置いたまま開けると、リヤガラスの電熱線などを傷つけるおそれがあります。
- ソフトトップを開けるときは、リヤデフロスタースイッチが“OFF”になっていることを確認してください。
- ソフトトップを開けるときは、ソフトトップの汚れ（砂粒など）を取り除いてください。汚れているとソフトトップクロスを傷めたり、リヤガラスを傷つけたりする場合があります。
- ソフトトップが濡れているときは、必ず水気を拭き取って乾燥させてから開けてください。
  濡れたまま収納すると、車内への水の浸入、ソフトトップクロスの劣化、縮みやカビなどの原因となります。
- ソフトトップの上に乗ったり、物を置かないでください。
  破損や変形の原因となります。
- 車から離れるときは、ソフトトップが完全に閉まっていることを確かめてください。
- 長期間保管時には、屋内でもソフトトップは閉めておいてください。ソフトトップをたたんで収納したままにしておくと、しわができるおそれがあります。
- ソフトトップが作動しないとき

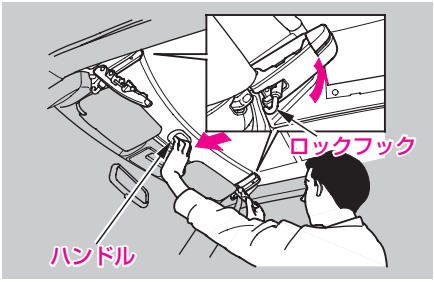
→167ページ

●開けかた

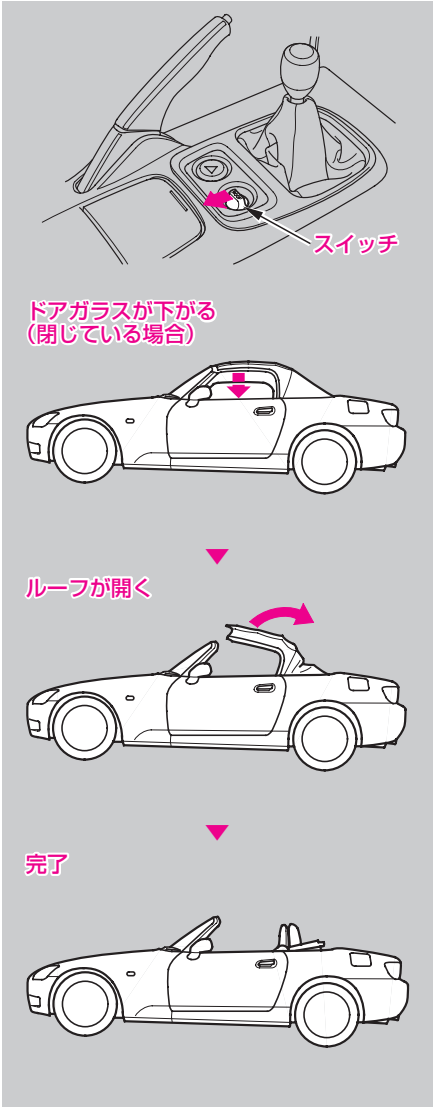
①左右 2 ヶ所にあるレバーを、ノブを押しながら下げます。



②ハンドルを下に引きながら、ロックフックを外し、レバーをカチッと音がするまで戻します。

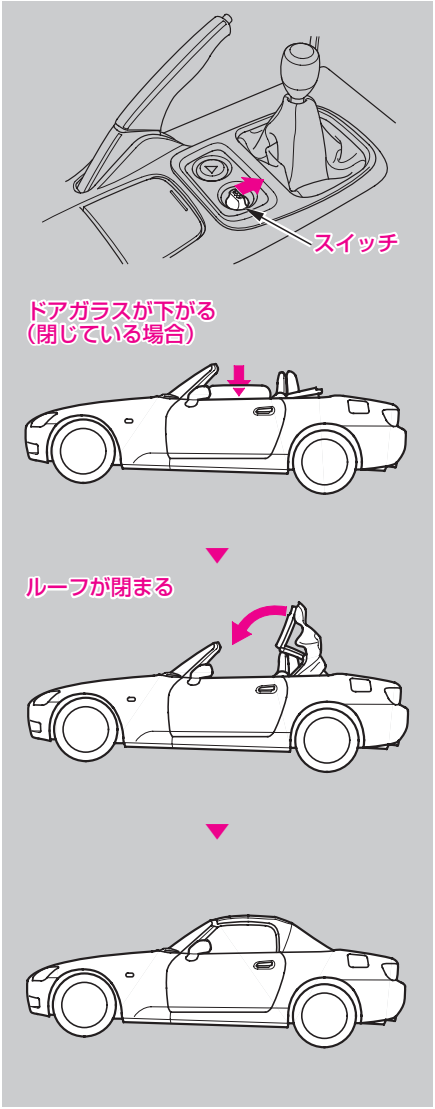


③ソフトトップが開ききるまでスイッチを後方に押し続けます。

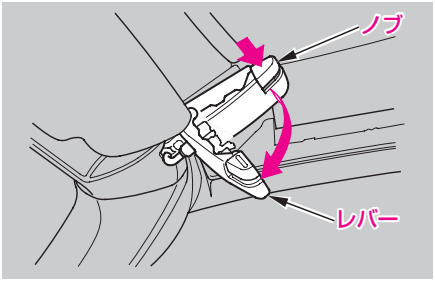


●閉めかた

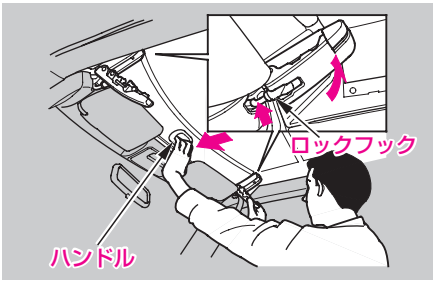
①ソフトトップが閉まりきるまでスイッチを前方に押し続けます。



②左右2ヶ所にあるレバーを、ノブを押しながら下げます。

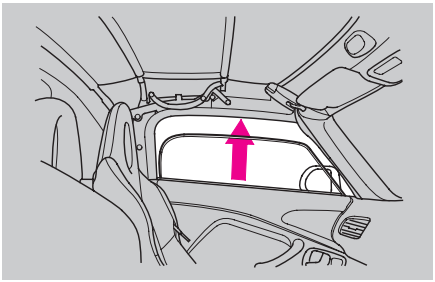


③ハンドルを下に引きながら、ロックフックをかけ、レバーをカチッと音がするまで戻すと固定します。



④パワーウィンドースイッチを引き上げて、ドアガラスを上昇させます。

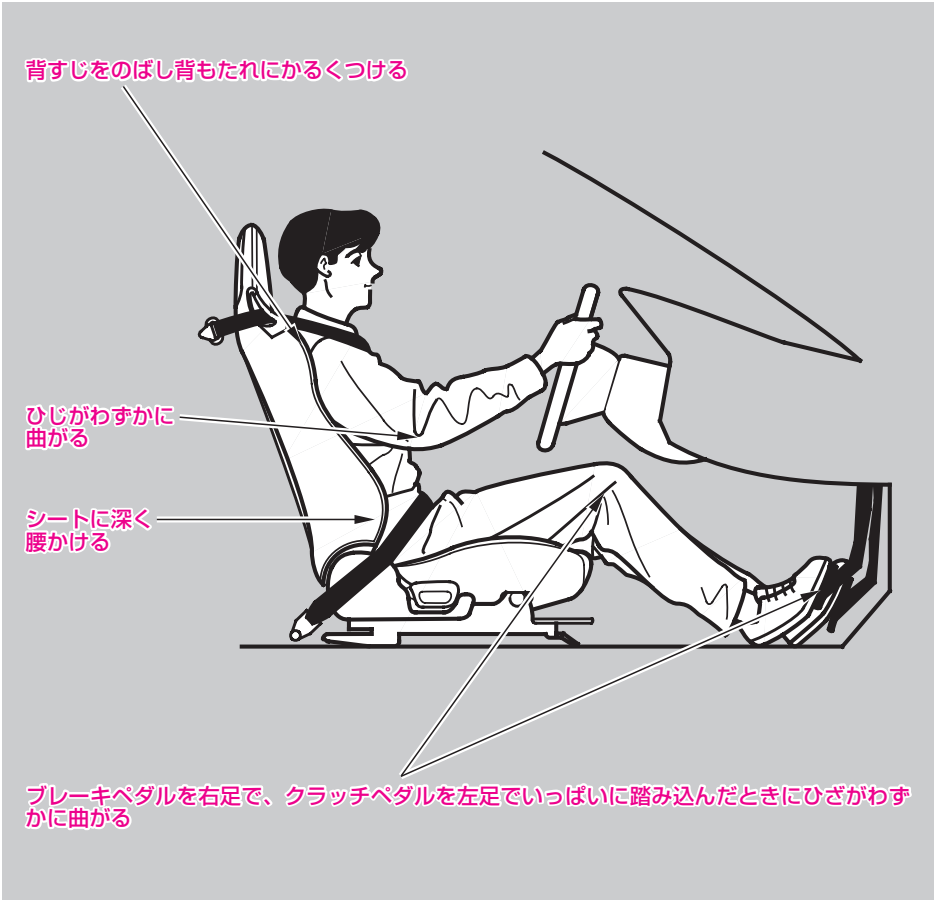
パワーウィンドー　→38ページ



シートの調節

正しい運転姿勢

運転者は正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。



同乗者も、シートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。
助手席同乗者はインストルメントパネルに顔や胸が必要以上に近づかないように、シートを後ろに下げます。

⚠警告

- シートに深く腰かけてください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRSエアバッグに必要以上に近づくと、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - ・運転者は正しい運転姿勢がとれる範囲で、シートを後ろに下げてください。
  - ・助手席同乗者はインストルメントパネルに近づかないように、シートを後ろに下げてください。

⚠注意

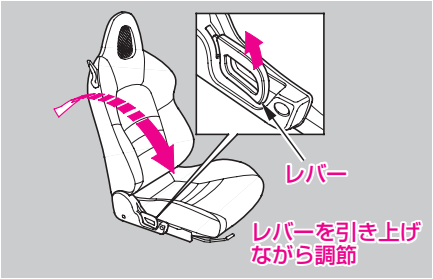
- 走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  調節は走行する前に行い、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 背もたれと背中の間にクッションなどをいれないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。
- シートの下に物を置かないでください。
  物がはさまってシートが固定されず思わぬ事故につながるおそれがあります。

シート

●前後位置の調節



●背もたれの調節





バックミラーの調節

ルームミラー

知 識

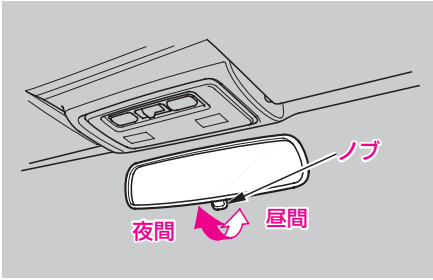
- 走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。

▼

ノブを動かして切り換えます。



角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

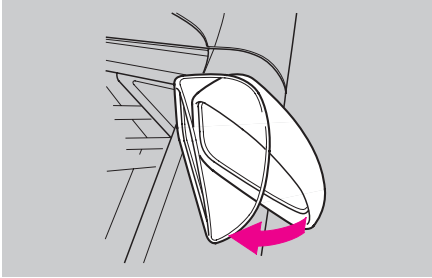
ドアミラー

知 識

- ミラーを格納したまま走行しないでください。また、走行中はミラーの調節を行わないでください。

●格納のしかた

ミラーを折りたたむことができます。狭い所へ駐車をするときに便利です。
走行するときは、必ず元に戻してください。

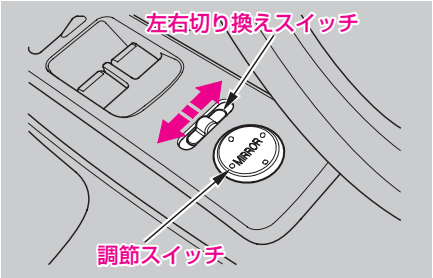


●角度調節のしかた

エンジンスイッチが“II”のときスイッチを操作すると、ミラーの角度調節ができます。

▼

①左右切り換えスイッチを調節したい方に動かします。
②調節スイッチで角度を調節します。

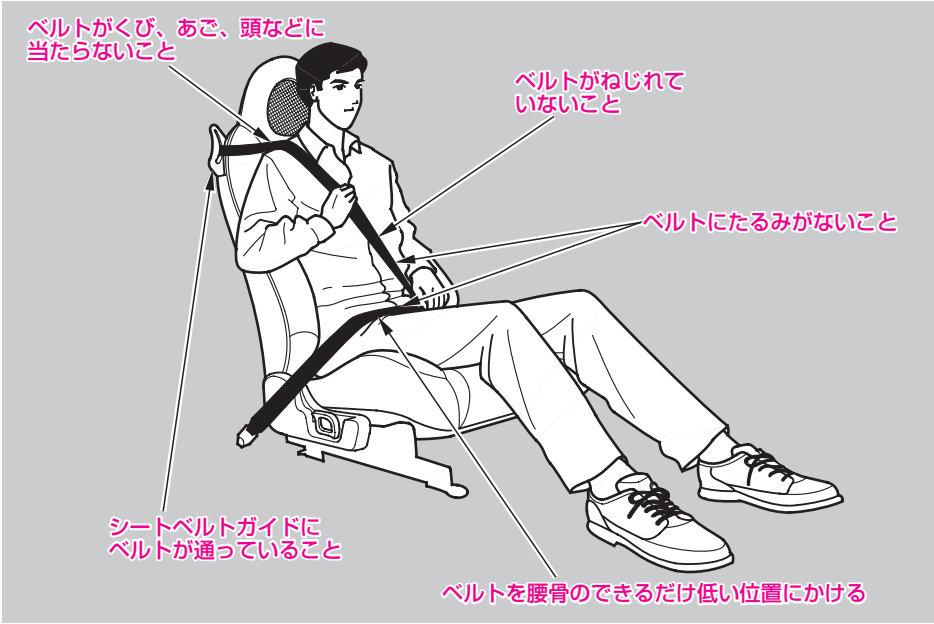


直接手で鏡面を動かして角度を調節することもできます。

シートベルト

シートベルト

シートベルトは、車を運転するまえに運転者は正しい運転姿勢で着用し、同乗者にも必ず着用させてください。

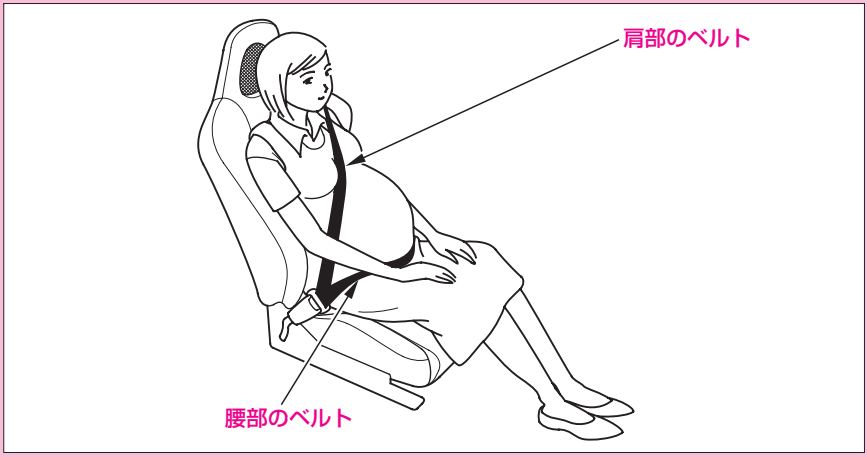


⚠警告

- シートベルトは全員が着用してください。
  着用しないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。
- シートに深く腰かけてください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにもシートベルトを着用させるか、チャイルドシートをお使いください。
  お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けたり死亡するおそれがあります。

⚠注意

- シートベルトを正しく着用していないと本来の機能をはたさず、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
  - ・ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。
    ベルトが腰骨からずれていると腹部などに強い圧迫を受けます。
  - ・ベルトはねじれがないように着用してください。
    ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力がかかります。
  - ・ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。
  - ・一本のベルトを二人以上で使用しないでください。
  - ・三点式シートベルトは腕の下に通して着用しないでください。
    ベルトが肩に十分かかっていないと前方に投げ出されるおそれがあります。
  - ・ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけないでください。
- 妊娠中のかたや疾患のあるかたもシートベルトを着用してください。
  ただし、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、医師に確認してください。
  - ・妊娠中のかたは、三点式シートベルトを使用してください。
  - ・妊娠中のかたは、ベルトを着用するときは、腰部のベルトを腹部からさけて腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして身体に密着させてください。
    また、肩部のベルトは腹部からさけて胸部にかかるようにしてください。



●シートベルトの種類

ELR付三点式シートベルトを採用しています。

●三点式シートベルト

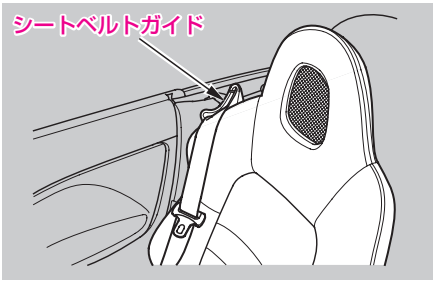
体の動きにあわせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

シートベルト警告灯

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでメーター内のシートベルト警告灯が点灯し続けます。

シートベルトガイド

シートベルトを使用するときは、ベルトをガイドの中に通して使用します。



シートベルトプリテンショナー

→94ページ

●お子さまを乗せるときは

・お子さまにもシートベルトを着用させてください。
ただし、装備されているシートベルトは大人用ですので、ベルトがくびやあごに当たる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シート（前向き装着）や学童用シートを使用してください。シートベルトをそのまま使うと、衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。

⚠警告

●助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
・やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。
・乳児用シート、幼児用シート（後ろ向き装着）が必要なお子さまと一緒のときは、これらのシートを取り付けられる別の車をお使いください。

知 識

●幼児用シート、学童用シートは、お子さまの体重や身長によりお使いになれるタイプや取り付け方法が異なります。
また、チャイルドシートの形状などによっては正しく取り付けできないものがあります。この車に合ったチャイルドシートを使用してください。
Honda純正品をご用意しています。ご購入、ご使用に際してはホンダベルノ店にご相談ください。

●シートベルトの取り扱い、手入れ

・ベルトを着用した状態で万一、事故にあった場合は機能を損なっている可能性があるため、ベルト一式を交換してください。
シートベルトは、座席に乗員がいなくても、SRSエアバックが作動するような事故にあった場合は、プリテンショナーも作動するため、ベルト一式を交換してください。
また、ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどができたときも交換してください。
・シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。
・ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたしてふき取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。

着用のしかた

●三点式シートベルト

①シートベルトがシートベルトガイドに通っていることを確かめます。

→52ページ

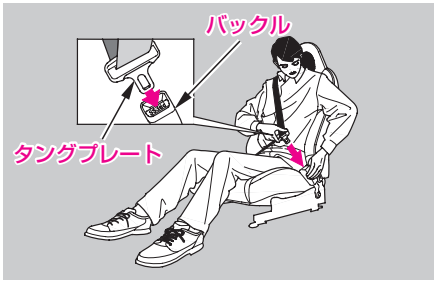
②正しい運転姿勢でシートにすわります。

→44ページ

③タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



④ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。

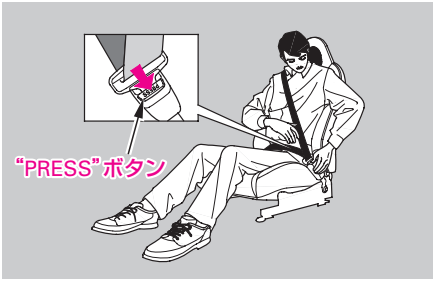


⑤ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。

⑥ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように引き、たるみがないように身体に密着させます。



⑦外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。



2

車を運転するときに

●メーター ……56
イルミネーション
コントロール……59

●表示灯……60

●警告灯……62
警告灯の電球切れの点検……67

●スイッチの使いかた
エンジンスイッチ……68
エンジンスタートスイッチ……69
ライトスイッチ……70
方向指示器(ウィンカー)
スイッチ……71
非常点滅表示灯(ハザード)
スイッチ……71
ワイパー／ウォッシャー
スイッチ……72
リヤデフロスタースイッチ……74
ホーンスイッチ……75

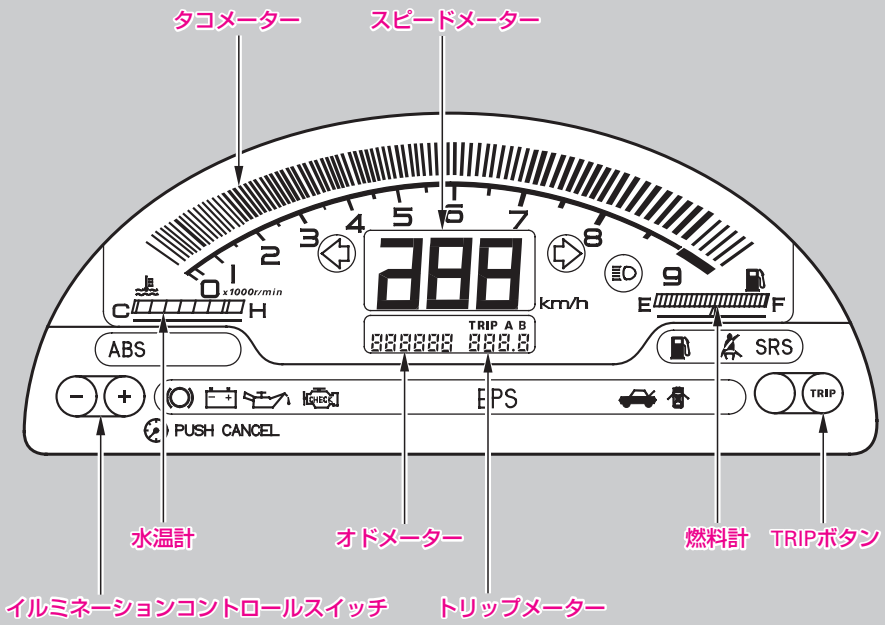
●運転のしかた
エンジンのかけかた……76
パーキングブレーキ……78
チェンジレバーの操作……80

●バリアブルギヤレシオ
ステアリング(VGS) ……82

●リミテッドスリップデフ
(LSD)
LSDのしくみ……84
取り扱いについて……84

メーター

イラストは代表例を掲載しています。



スピードメーター
エンジンスイッチを“II”にすると点灯し、走行速度をkm/hで示します。

タコメーター
エンジンスイッチを“II”にすると点灯し、1分間あたりのエンジン回転数を示します。

アドバイス
- エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。
  限界回転数 ·····8,900 rpm

知 識
- 表示部に液晶を採用しているため、極低温時にメーターの応答性が遅くなることがあります。

オドメーター
エンジンスイッチが“II”のとき、走行した累計をkmで示します。

トリップメーター
エンジンスイッチが“II”のとき、“TRIP Ⓐ”または“TRIPⒷ”が表示され、区間距離をkmで示します。
表示はTRIPボタンを短く押すごとに「···“TRIPⒶ”→“TRIPⒷ”→“TRIPⒶ”···」の順に切り換わります。
例えば、
“TRIPⒶ”で出発からの距離
を測りながら、
“TRIPⒷ”で給油してからの距離
を測るといったようなことができます。
リセットはTRIPボタンを“ピッ”と音がするまで(約1秒)押します。
この場合、表示されている方だけ(例えば“TRIPⒶ”が表示されていれば“TRIP Ⓐ”だけ)がリセットされます。

燃料計

エンジンスイッチを“II”にすると点灯し、燃料の残量を示します。
“E”に近づいたら早めに補給してください。

燃料補給について　→36ページ

水温計

エンジンスイッチを“II”にすると点灯し、エンジン冷却水の温度を示します。

アドバイス

- 赤いマークが点灯した場合はオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めてエンジンを冷やしてください。
  そのまま走行を続けるとエンジン故障の原因となります。
  オーバーヒートしたとき
  →154ページ

イルミネーション コントロール

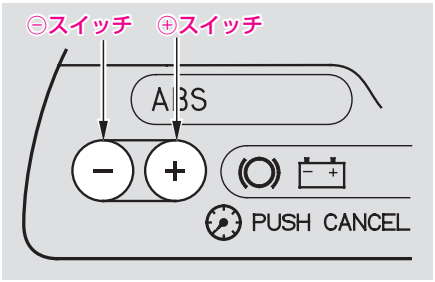
メーター表示の明るさが、車幅灯点灯時と消灯時にそれぞれ 6 段階に調節できます。

▼

エンジンスイッチが“II”のとき、スイッチを押して明るさを調節します。

明るくするとき…
⊕スイッチを押します。
暗くするとき……
⊖スイッチを押します。

車外の明るさに応じてお好みで調節してください。

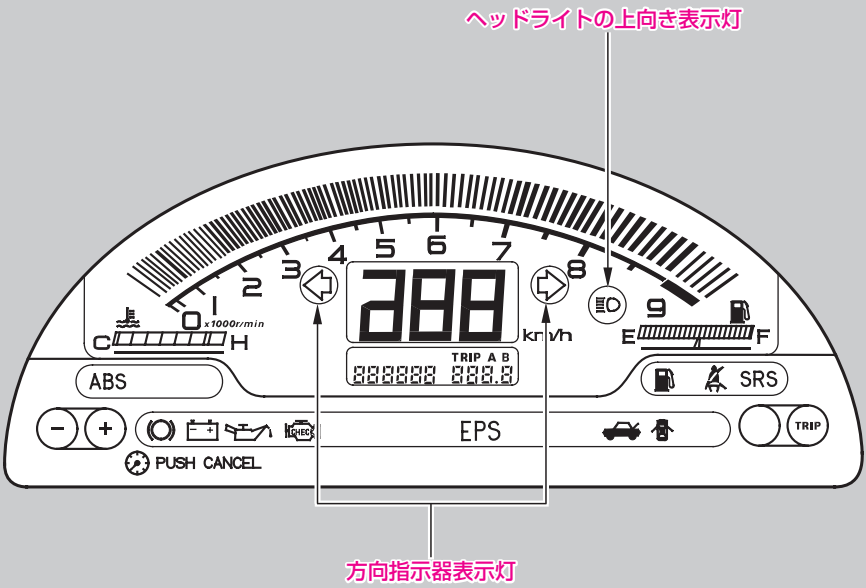


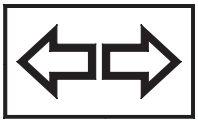
知 識

- 車幅灯点灯時に⊕スイッチを約 1 秒以上押し続けると、車幅灯点灯時の減光が解除されます。また、次の動作をしたときは、解除前の設定に戻ります。
  - ⊖スイッチを押したとき
  - 再度、エンジンスイッチを“II”にしたとき
  - 再度、車幅灯を点灯したとき

表示灯

イラストは代表例を掲載しています。





方向指示器表示灯

方向指示器のランプの点滅状態を表示します。

知 識

- 電球が切れたときや、ワット(W)数の違ったものを使ったときは、表示灯の点滅周期が異常になります。

電球(バルブ)の交換　→160ページ
電球(バルブ)のワット数
→204ページ

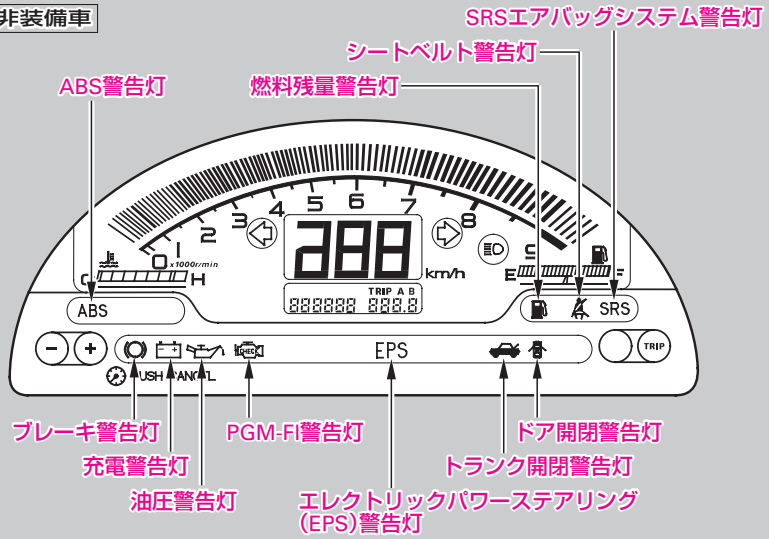


ヘッドライトの上向き(ハイビーム)表示灯

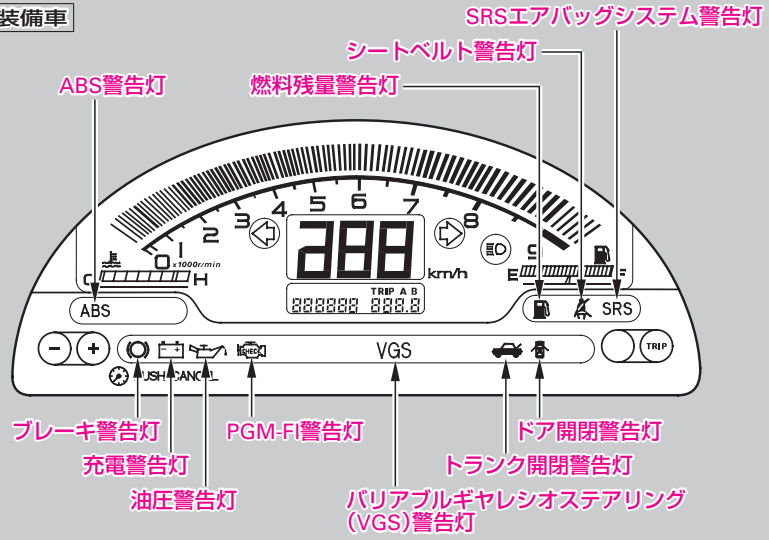
ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

警告灯

VGS非装備車



VGS装備車





油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

▼

点灯したときは

エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにホンダベルノ店へご連絡ください。

アドバイス

- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。



ブレーキ警告灯

パーキングブレーキレバーが完全に戻っていないときやブレーキ液量がいちじるしく減少しているときに点灯します。

▼

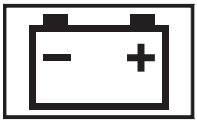
点灯したときは

走行中点灯したときやパーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、

①ブレーキ液量を点検します。

②下限より下がっていたらただちにホンダベルノ店へご連絡ください。

ブレーキ液量が下限以下になっていないのに点灯するときや、パーキングブレーキをかけても点灯しないときは、お早めにホンダベルノ店で点検を受けてください。



充電警告灯

充電系統が異常のときに点灯します。

▼

点灯したときは

運転中に点灯した場合は、電気の消費を減らすため、ヒーター・エアコンスイッチを“OFF”にして、ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。



PGM-FI警告灯

エンジン制御システムが異常のときに点灯します。

触媒装置が異常のときには点滅します。

▼

点灯したときは

運転中に点灯した場合は、高速走行を避けて、ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。

点滅したときは

①走行中に点滅した場合は、枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分間以上エンジンを止めて、冷えるまでお待ちください。

②エンジン再始動後、警告灯が消灯しないときや再び点滅するときは、触媒装置保護のため、急加速、急減速などの無理な運転を避け、50km/h以下の速度で、最寄りのホンダベルノ店まで走行し点検を受けてください。

アドバイス

- エンジン各気筒の失火状態を検知し、警告灯を点滅させる機能を持っています。警告灯が点滅した状態で運転は続けないでください。触媒装置を焼損することがあります。



EPS

エレクトリックパワーステアリング(EPS)警告灯

VGS非装備車

EPSが異常のときに点灯します。

▼

点灯したときは

運転中に点灯したとき(安全な場所に停車してからエンジンを再始動し、その後走行中に消灯していれば正常です。)は、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダベルノ店で点検を受けてください。

知 識

- 警告灯が点灯しているときは、パワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が重くなります。
- 停車中または極低速でハンドル操作をくり返したときなどシステムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が除々に重くなります。
  システムの温度が下がると復帰します。
  システム保護がはたらくような使いかたを連続的にくり返すと、システム破損の原因となります。

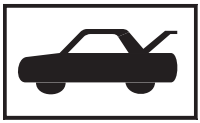
VGS

バリアブルギヤレシオステアリング(VGS)警告灯

VGS装備車

VGSが異常のときに点灯します。

→83ページ



トランク開閉警告灯

トランクが完全に閉まっていないときに点灯します。

▼

トランクを完全に閉めてください。



ドア開閉警告灯

ドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

▼

ドアを完全に閉めてください。



燃料残量警告灯

燃料タンク内のガソリン残量が 8 ℓ 前後になったときに点灯します。

燃料の補給　→36ページ



シートベルト警告灯

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまで点灯し続けます。





SRSエアバッグシステム警告灯（シートベルトプリテンショナー警告灯兼用）

SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。

SRSエアバッグシステム警告灯
→93ページ
シートベルトプリテンショナー警告灯
→95ページ



アンチロックブレーキシステム（ABS）警告灯

ABSが異常のときに点灯します。

→97ページ

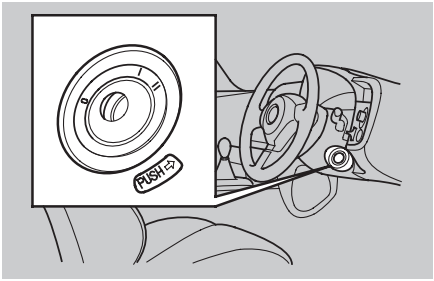
警告灯の電球切れの点検

エンジンスイッチを“II”にしたとき、下記の警告灯類が点灯するのが正常です。点灯しないときは、ホンダベルノ店へご連絡ください。

- **油圧警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **ブレーキ警告灯**
  （パーキングブレーキレバーを完全に戻すと消灯）
- **充電警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **PGM-FI警告灯**
  （数秒後消灯）
- **エレクトリックパワーステアリング（EPS）警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **バリアブルギヤレシオステアリング（VGS）警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **SRSエアバッグシステム警告灯**
  （約 6 秒後消灯）
- **アンチロックブレーキシステム（ABS）警告灯**
  （数秒後消灯）

スイッチの使いかた

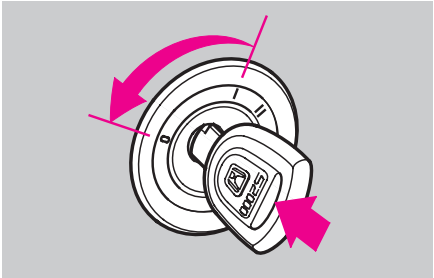
エンジンスイッチ



0	キーを抜き差しする位置です。
I	エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。
II	運転するときの位置です。

キーを抜くとき

“ I ”でキーを押し込んで“ 0 ”まで回してキーを抜きます。



知 識

- キーを抜くとハンドルがロックされます。

“ 0 ”から“ I ”にキーが回らないとき

ハンドルを左右に回しながらキーを回せば容易に回ります。

⚠警告

- 走行中はエンジンを止めないでください。
  エンジンスイッチを“0”にするとキーが抜けることがあり、ハンドルがロックされ、思わぬ事故につながります。

知 識

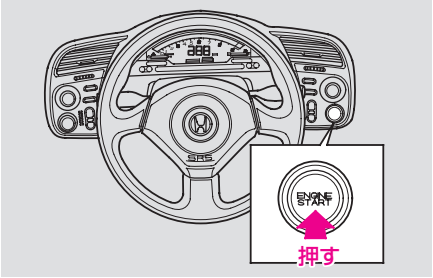
- エンジンを止めた状態で“II”のまま、長時間放置しないでください。バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。
- 車から離れるときは、バッテリー保護のため必ず“0”にしてください。

●キー抜き忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“I”または“0”でキーを差し込んだまま車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。

エンジンスタートスイッチ

エンジンスイッチが“II”のときに、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み、スイッチを押している間、スターターモーターが回転しエンジンを始動させます。

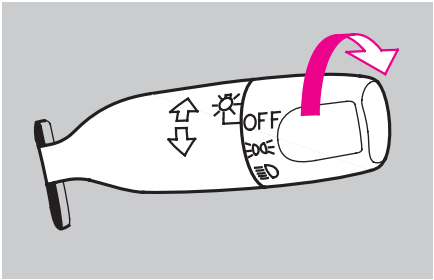


エンジンのかけかた　→76ページ

ライトスイッチ

●ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチの位置に関係なく次のように点灯、消灯します。



スイッチの位置		
ヘッドライト	—	点灯
計器類照明灯 車幅灯・尾灯 番号灯	点灯	点灯

知 識

- エンジンが止まっている状態で、ライト類を点灯したままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。

●ライト消し忘れ警告ブザー

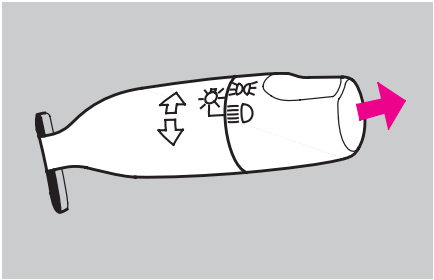
エンジンスイッチが“ I ”または“ 0 ”で、ライトを消し忘れたまま車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りライトの消し忘れを知らせます。

●ヘッドライトの上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)の切り換え

レバーを前方へ押すと上向きになります。戻すと下向きになります。

上向きのときは、メーター内の表示灯が点灯します。

ヘッドライトの上向き(ハイビーム)表示灯 →61ページ

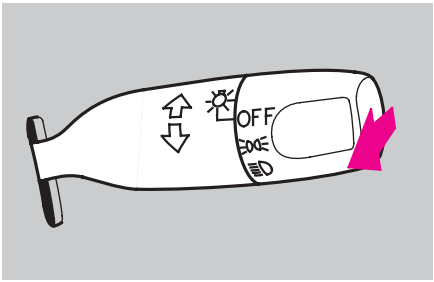


知 識

- 対向車のあるときや市街地走行など、上向きが不適切なときは下向きにします。

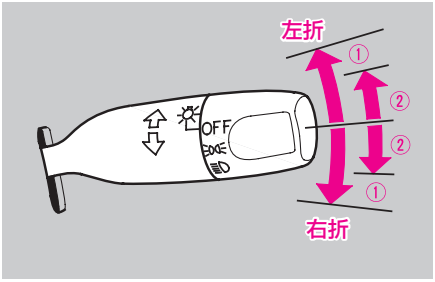
●追越合図(パッシング)

レバーを手前に引いている間、上向きが点灯します。



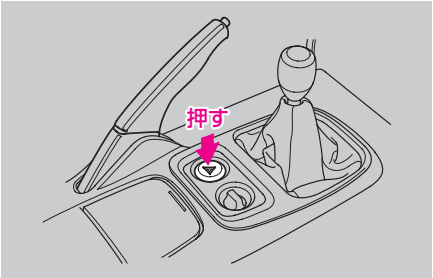
方向指示器(ウィンカー)スイッチ

エンジンスイッチが"II"のとき使えます。
ふだんは①の位置で使います。
この位置ではハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは手で戻してください。
車線変更などでは②の位置に軽く手で押さえながら使います。



非常点滅表示灯(ハザード)スイッチ

スイッチを押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。
故障でやむをえず路上駐車するとき使います。



知　識

- 非常時にのみお使いください。
  完全充電の新しいバッテリーでも約 2 時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ワイパー／ウォッシャースイッチ

⚠注意

●寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
ウォッシャー液が凍りついて視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

●空ぶきをしないでください。ガラス面に傷をつけたり、ブレード（ゴム部）を傷めたりします。
●ウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを切ってください。
ウォッシャー液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。
●寒冷時、ブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがありますのでヒーターでフロントガラスを暖めてください。
凍りついたまま動かすとブレード（ゴム部）を傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。
デフロスター　→105ページ

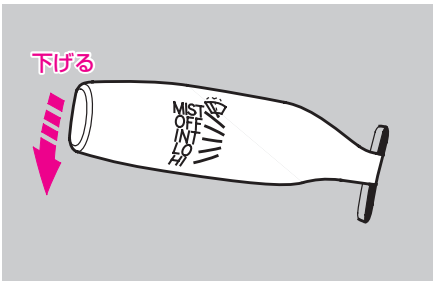
知 識

●ワイパーを作動中にガラスに雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを“OFF”、エンジンスイッチを“0”または“I”にしてワイパーが作動できるように雪などの障害物を取り除いてください。
●ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
モーターの負荷が大きい状態が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。
数分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常通り使用できるようになります。

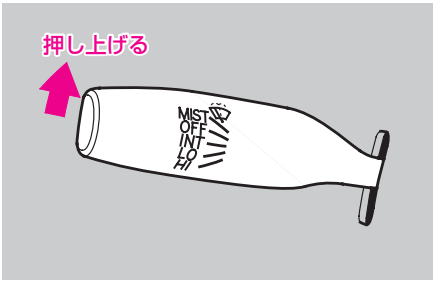
エンジンスイッチが“II”のとき使えます。

●フロントガラス

ワイパースイッチ



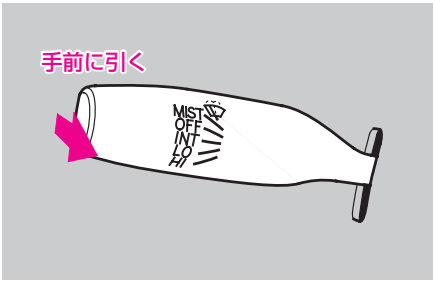
OFF ····· 停止
INT（間欠） ····· 雨量の少ないとき
LO（低速） ····· 普通雨量のとき
HI（高速） ····· 雨量の多いとき



MIST
レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときなどに使うと便利です。

ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。

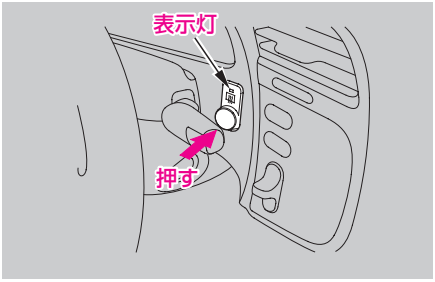


リヤデフロスタースイッチ

リヤガラスを暖め、曇りを取ることができます。

▼

エンジンスイッチが“II”のときスイッチを押すと“ON”になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯は消灯します。

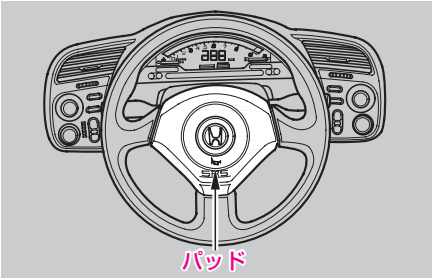


知 識

- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら“OFF”にしてください。“ON”のままであっても、約15分経過後自動的に“OFF”になります。また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。
- リヤガラスの内側に電熱線が装着されています。電熱線は傷つきやすいので清掃のときは電熱線に沿ってやわらかい布でふいてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。
- ソフトトップを開けているときは、スイッチを“ON”にしないでください。
  誤ってスイッチを“ON”にすると電熱線が損傷するおそれがあります。

ホーンスイッチ

ハンドルのパッドを押すとホーンが鳴ります。



運転のしかた

エンジンのかけかた

⚠警告

- バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動をしないでください。
  バッテリーが破裂するおそれがあります。
- 車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。
  車内や屋内などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

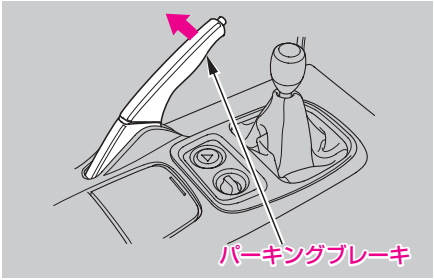
⚠注意

- エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

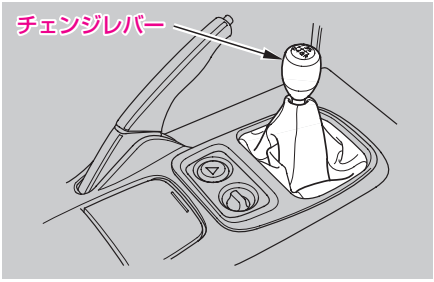
アドバイス

- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、排気系や燃料系の異常が考えられますので、必ずホンダベルノ店で点検を受けてください。

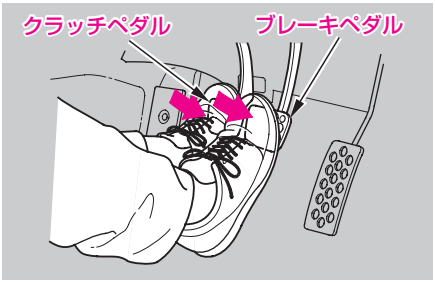
①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
パーキングブレーキの操作　→78ページ



②チェンジレバーをN（ニュートラル）にしてください。
チェンジレバーの操作　→80ページ

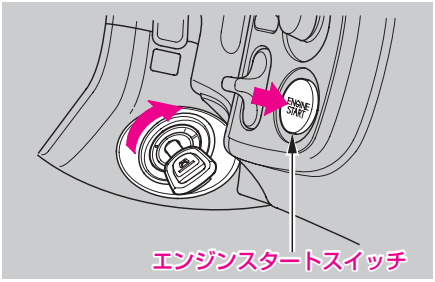


③ブレーキペダルをしっかりと踏み、クラッチペダルもいっぱいに踏み込みます。



④エンジンスイッチを“II”の位置まで回します。

⑤アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでエンジンスタートスイッチを押してスターターを回してください。



・クラッチ・スタートシステム

思わぬ事故を防ぐため、クラッチペダルをいっぱいに踏み込まないとスターターが回らないようになっています。

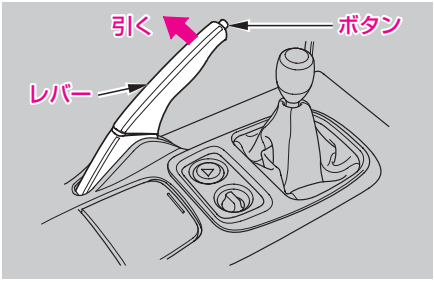
知 識

- 消費電力の大きいライト類、エアコン、リヤデフロスターのスイッチは“OFF”にした方が始動は容易になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、スターターは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度キーを“I”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
- エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。エンジンが始動したらアクセルペダルを徐々に戻してください。
- エンジン始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。
- エンジン始動時や、エンジンが冷えているときに、エンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これは排気ガス制御システムのエアーポンプが作動している音で異常ではありません。

パーキングブレーキ

かけるとき

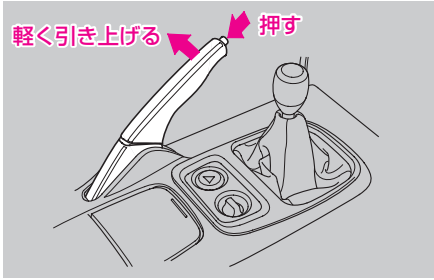
ボタンを押さずにレバーをいっぱいに引きます。



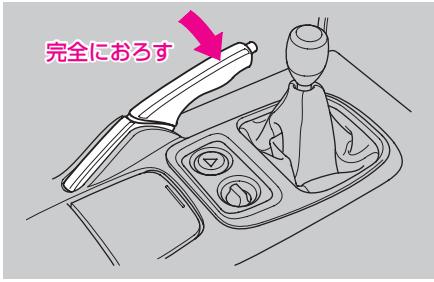
後輪ブレーキがききます。

解除するとき

①レバーを軽く引き上げながら、ボタンを押します。



②ボタンを押したまま、レバーを下に完全におろします。



⚠注意

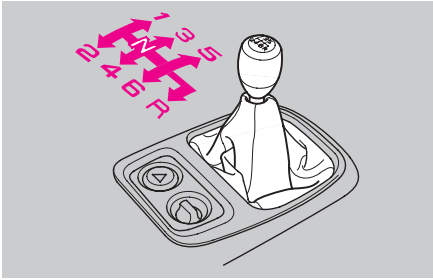
●パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知 識

●駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。
寒冷時のパーキングブレーキの取り扱い →194ページ

チェンジレバーの操作

●チェンジレバー



変速するときは、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んで、チェンジレバーを確実に操作します。

Rに入れるとき



アドバイス

- 車が完全に止まらないうちはRに入れないでください。
  トランスミッション破損の原因となります。

知 識

- 炎天下に長時間駐車すると、シフトノブが熱くなることがあります。

●速度範囲

エンジンを過回転させないために、下表の各チェンジレバー位置での速度範囲を参考に、シフトダウンしてください。

レバーの位置	速度範囲
1	0 ～65km/h
2	15～100km/h
3	25～140km/h
4	35km/h～
5	40km/h～
6	45km/h～

⚠注意

- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
  シフトダウンする際の車速には十分注意してください。

アドバイス

- エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。
  限界回転数 ･･･････8,900 rpm

知 識

- 法定速度を守って走行してください。
- 1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。
- エンジンの回転をあやまって限界回転数以上(レッドゾーン)で運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

バリアブルギヤレシオステアリング（VGS）

VGS装備車

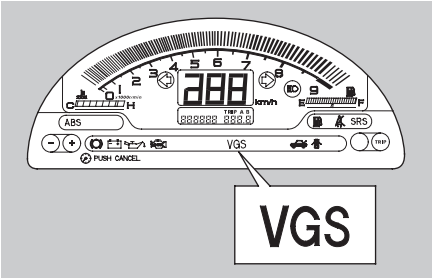
VGSは、ハンドルの操作量と車速により、車輪の切れ角が変わるシステムです。VGS非装備車に比べ、ハンドルの操作量が同じでも車輪の切れ角は、低速時には大きく、高速時には小さく連続的に変化します。
特に低速時は、ハンドルの操作量に対して車輪の切れ角が大きくなりますので、慣れるまで十分に注意してください。

知 識

- 停車中または極低速でハンドル操作をくり返したときなどシステムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドルの操作が徐々に重くなります。
  システムの温度が下がると復帰します。
  システム保護がはたらくような使いかたを連続的にくり返すと、システム破損の原因となります。

●バリアブルギヤレシオステアリング(VGS)警告灯

メーター内に組み込まれており、システムが異常のときに点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに点灯しエンジン始動後に消灯するのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダベルノ店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
    (安全な場所に停車してからエンジンを再始動し、その後走行中に消灯していれば正常です。)
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは消灯しないとき

  警告灯が点灯しているときは、パワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が重くなります。

リミテッドスリップデフ(LSD)

LSDのしくみ

LSDは駆動力を左右輪に最適配分し、有効に伝達するための装置です。
このLSDは、ヘリカルギヤを使ったトルク感応型となっています。
トルク感応型のLSDの特性として、旋回時に振動を感じることがあります。

取り扱いについて

アドバイス

- 後輪は左右共、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとLSDに悪影響をあたえます。

知 識

- 後輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを前輪に装着し、外した標準タイヤを後輪に取り付けてください。

3

安全装備

●SRSエアバッグシステム
SRSエアバッグシステムの
しくみ……86
作動するとき……88
作動しないとき……89
SRSエアバッグシステムの
効果を十分に発揮させる
ために……90
お子さまを乗せるときは……91
取り扱いについて……92

●シートベルト
プリテンショナー
シートベルトプリテンショナー
のしくみ……94
取り扱いについて……95

●アンチロックブレーキシステム
（ABS）
ABSのしくみ ……96
運転のしかた……96
取り扱いについて……97

●その他の安全装備……98

SRSエアバッグシステム
（運転席／助手席用シートベルト補助乗員保護装置）

SRSエアバッグシステムのしくみ

●SRSエアバッグシステムとは

前方向からの衝突により、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和する装置です。

SRSエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- SRSエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときSRSエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

*SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略でシートベルトの補助拘束装置の意味

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃（正しくシートベルトを着用していてもハンドルに顔面があたり、けがをするような場合）を感知するとシステムが作動し、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和します。

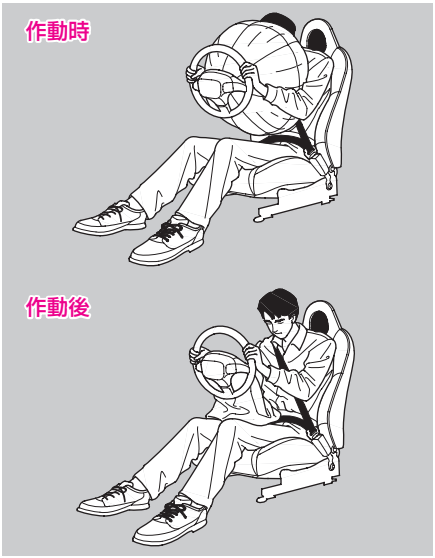
⚠注意

- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

知 識

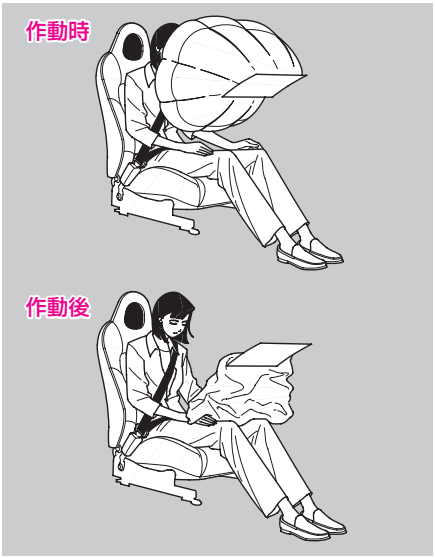
- 車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 膨らんだSRSエアバッグはすぐにしぼみます。視界をさまたげません。
- SRSエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物(カスなど)が目や皮膚などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
  皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激することがあります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  ホンダベルノ店で交換してください。

運転席用SRSエアバッグシステム



助手席用SRSエアバッグシステム

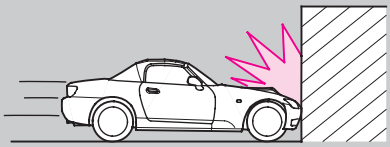
助手席用SRSエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。



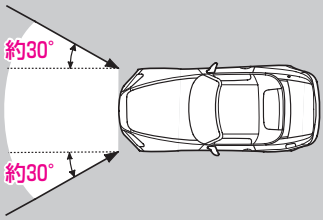
作動するとき

次のような場合に作動します。

20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき



車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

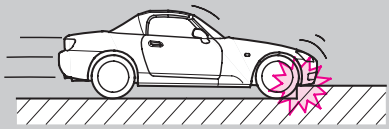


知 識

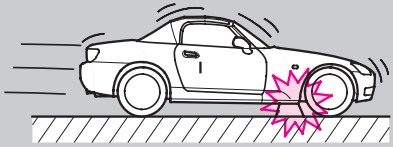
- 衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形するもの）に衝突した場合、SRSエアバッグが作動するときの速度（車速）は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。車両に衝撃を受けないように十分に速度を落とし障害物をさけて走行してください。

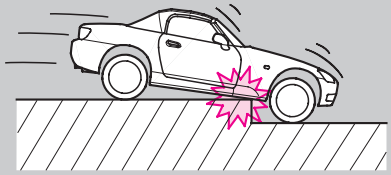
縁石などに衝突したとき



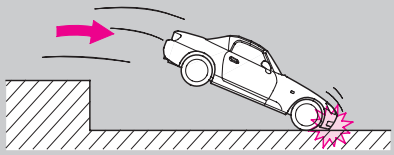
突起物などに衝突したとき



深い穴や溝などに落ちたとき

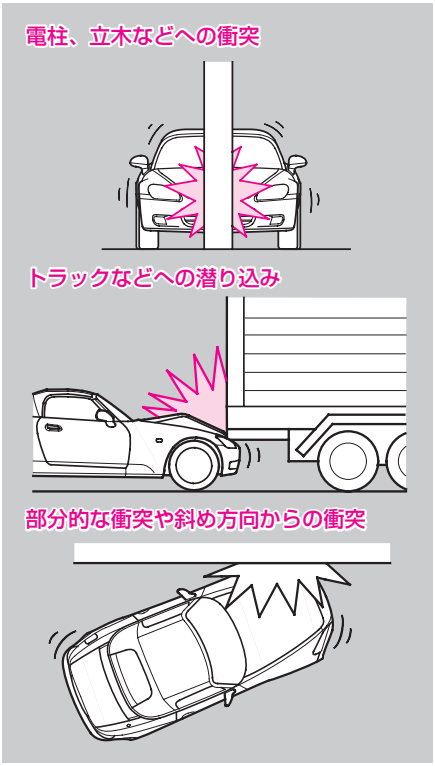


高いところから落ちたとき



作動しないとき

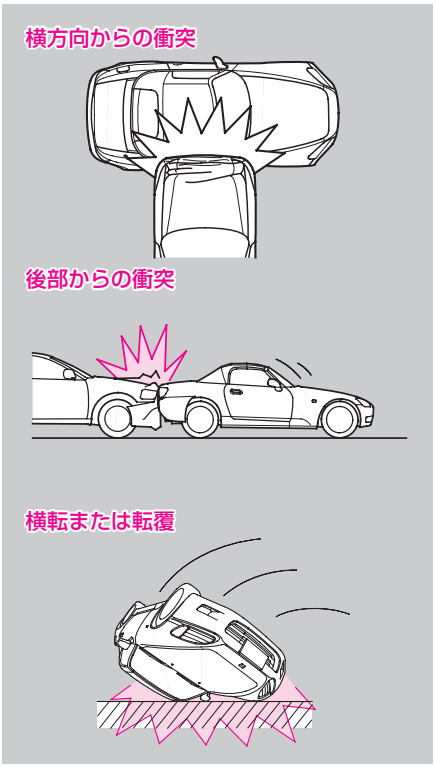
衝突の位置、衝撃の度合い、角度によって、作動しないことがあります。



知 識

- 車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRSエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。



知 識

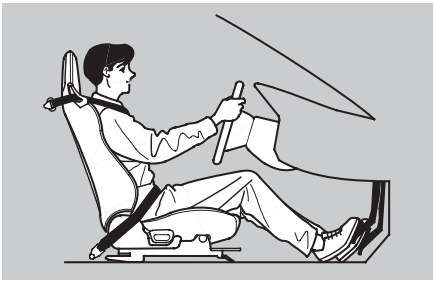
- 事故の状況、形態によっては、SRSエアバッグが作動することがあります。

SRSエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

運転席

正しい運転姿勢（シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態）がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。

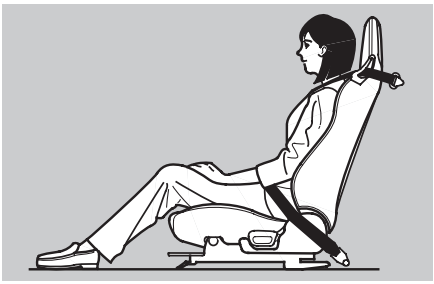


⚠警告

- ハンドルに顔や胸などを近づけていると、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。



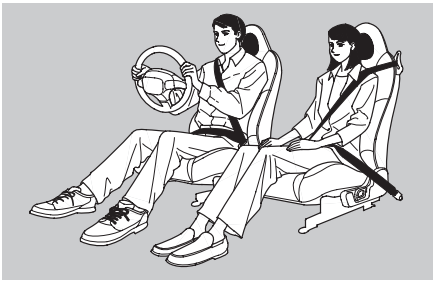
⚠警告

- インストルメントパネルに顔や胸などが近づかないようにシートを後ろに下げてください。また、インストルメントパネルに手や足などを置かないでください。
  SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。



お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

●チャイルドシートの取り付けについて

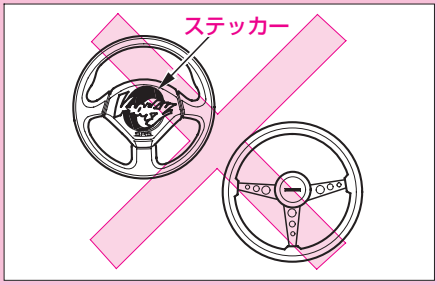
⚠警告

- 助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
  - ・やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。
  - ・乳児用シート、幼児用シート（後ろ向き装着）が必要なお子さまと一緒のときは、これらのシートを取り付けられる別の車をお使いください。

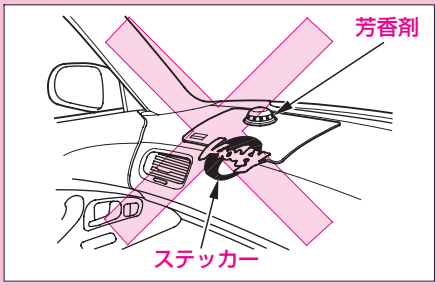
取り扱いについて

⚠注意

- SRSエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりすると正常に機能しなくなります。



- インストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
  フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。
  また、SRSエアバッグと乗員との間にテレビなどの用品を取り付けたり、物を置いたりしないでください。
  正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物がとぶことがあります。

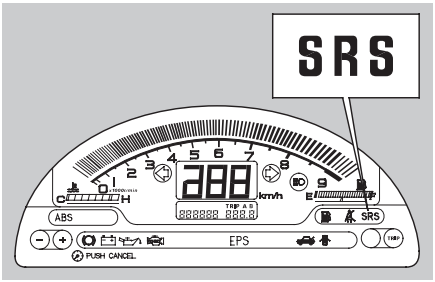


知 識

- ハンドルまわり、インストルメントパネルまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよびダッシュボード周辺の板金塗装および修理をする場合は、SRSエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずホンダベルノ店にご相談ください。
- SRSエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずホンダベルノ店にご相談ください。正しく取り扱わないとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。
- サスペンションの改造をしないでください。車高やサスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながります。（Honda純正品を除く）

●SRSエアバッグシステム警告灯

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダベルノ店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき

必要なときにSRSエアバッグが膨らまないおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーのしくみ

●シートベルトプリテンショナーとは

前方向からの衝突により、シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高める装置です。
SRSエアバッグシステムと同じ条件で作動します。

SRSエアバッグシステム　→86ページ

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃を感知するとシステムが作動し、シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高めます。



⚠注意

●シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとプリテンショナーが十分に効果を発揮しません。
・シートベルトを正しく着用してください。

シートベルト　→50ページ

・正しい運転(乗車)姿勢をとってください。

正しい運転姿勢　→44ページ

知 識

●シートベルトプリテンショナーは一度作動すると、再使用できません。作動すると、シートベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなります。ホンダベルノ店で交換してください。
なお、シートベルトを着用していなくても作動しますので、助手席側も同時に交換してください。

取り扱いについて

⚠注意

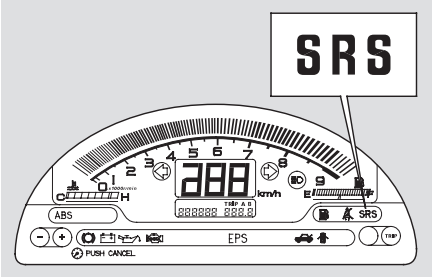
- シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしないでください。
  不適切にあつかうと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。

知 識

- シートベルト引き込み装置やセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよび修理をする場合は、プリテンショナーに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずホンダベルノ店にご相談ください。
- シートベルトプリテンショナー装備車を廃棄するときは、必ずホンダベルノ店にご相談ください。正しく取り扱わないとプリテンショナーとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●シートベルトプリテンショナー警告灯(SRSエアバッグシステム警告灯兼用)

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダベルノ店で点検を受けてください。
  - 運転中に点灯したとき
  - エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき

必要なときにシートベルトが引き込まれないおそれがあります。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

ABSのしくみ

●ABSとは

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする装置です。

●作動について

・ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これはABSが作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。



・低速（約10km/h以下）ではABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。

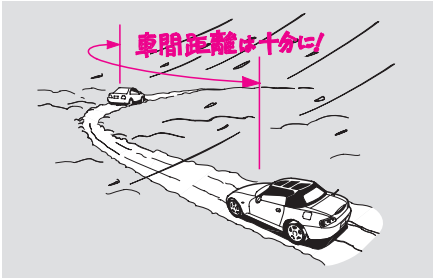
知 識

●エンジン始動後、最初の発進時に、エンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これはシステムの動作チェックをしている音で異常ではありません。

運転のしかた

・この装置は制動距離を短くするためのものではありません。ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
また、ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、ハイドロプレーニング現象が起こりやすい雨天時の高速走行などにおいても過信せず、安全運転に心がけてください。

・悪路、砂利道、深い新雪などの路面では、ABSの装備されていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
このような道路条件では速度は控えめにして車間距離を十分にとって運転してください。



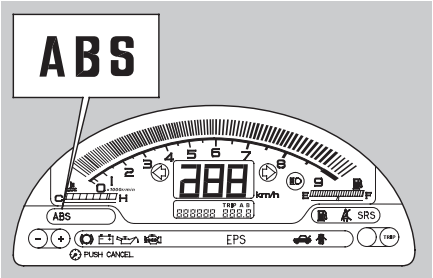
取り扱いについて

知 識

- タイヤは必ず指定サイズのものをお使いください。指定サイズ(外径)以外のタイヤを使用すると、ABSが正常に機能しなくなることがあります。

●アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

メーター内に組み込まれており、ABSが異常のときに点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。
また、運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダベルノ店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき

なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしての作動はしません)

その他の安全装備

ほかに、次のような安全装備を採用しています。

●ハイマウントストップランプ
ストップランプを高い位置にも設置し、後方から見えやすくしています。

●シートベルト警告灯
シートベルトの未着用をランプで知らせ、ベルトの着用を促します。
（→66ページ）

●ドアビーム
側面から外力が加わったときに、ドアの変形を抑える効果があります。

●ロールバー
万一のロールオーバー(転覆)時に備えて、シートのヘッドレスト後方にロールバーを装備しています。

●ロールオーバーバルブ
車が転倒したとき、燃料タンクからの燃料流出を防止します。

●難燃性材料使用の内装
フロアカーペットやシートなどには、燃え広がりにくい素材を採用しています。

4

ドライブを快適にする装備

●エアコン

吹き出し風の調節 ……101
ヒーター・マニュアル式
　エアコン ……102

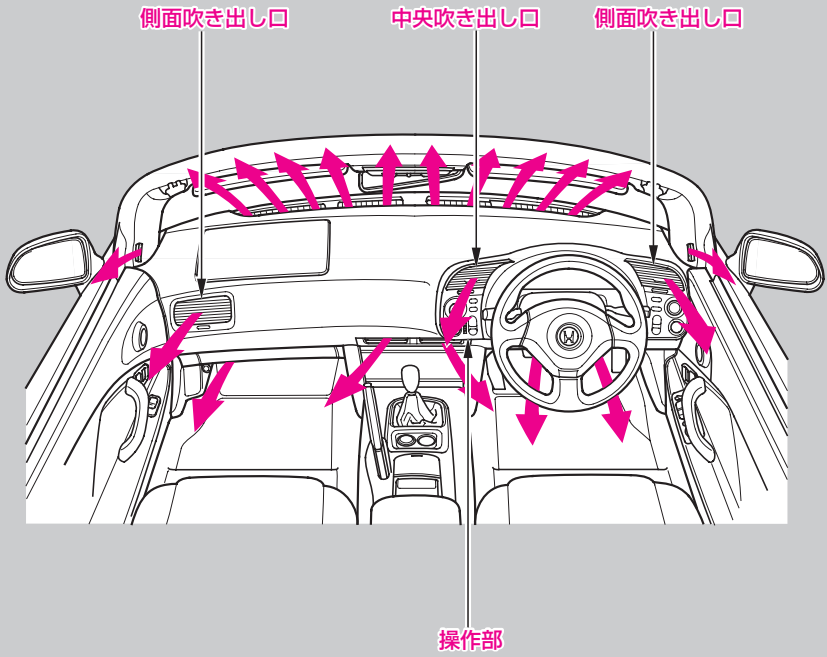
●オーディオ

上手な使いかた ……108
アンテナ ……110
オーディオリッド ……110
オーディオインデックス ……111
AM/FMラジオ一体式CD/MDステレオ
（CDチェンジャー
　コントローラー内蔵）
　……112
オーディオリモート
　コントロールスイッチ ……129

●室内装備品

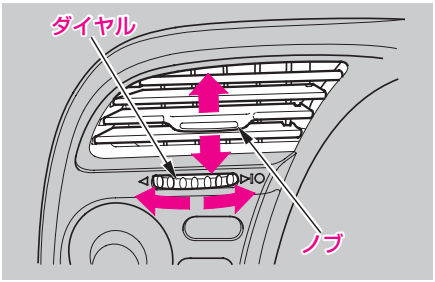
室内灯 ……130
スポットランプ ……131
サンバイザー ……131
灰皿 ……132
カップホルダー ……133
小物入れ ……133
カードホルダー ……134
アクセサリーソケット ……134

エアコン



吹き出し風の調節

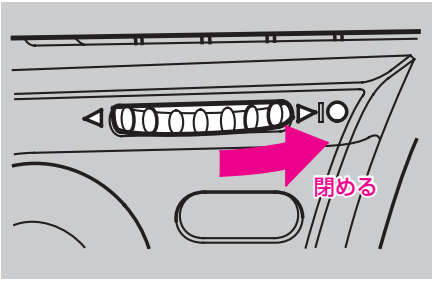
ノブを上下に、ダイヤルを左右に動かして、吹き出し風の向きを調節します。



知 識

- 側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風がガラスに直接当たるよう両側の吹き出し口の向きを調節すれば、より早く曇りを取ることができます。

吹き出し口を閉めるときは、ダイヤルを▶●マークまでいっぱいに回します。



ヒーター・マニュアル式エアコン

エンジンをかけた状態で使います。

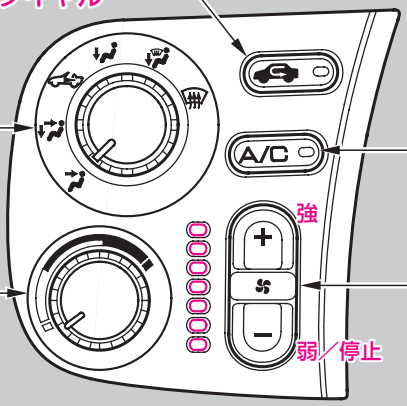
内外気切り換えスイッチ

スイッチを押して外気導入（表示灯消灯）と内気循環（表示灯点灯）を切り換えます。
トンネルや渋滞地域などで汚れている外気を室内に入れたくないときは、内気循環にします。

エアコンスイッチ

ファンスピード切り換えスイッチが“停止”以外のとき、エアコンが作動します。（表示灯点灯）
冷房や除湿暖房をするときに使います。

吹き出し口切り換えダイヤル



温度調節ダイヤル

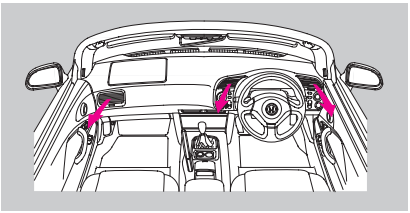
ダイヤルを回して吹き出し風の温度を調節します。

ファンスピード切り換えスイッチ

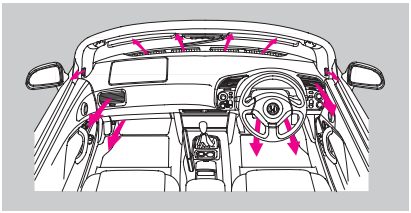
表示灯		
風量	停止	弱↔強

吹き出し口切り換えダイヤル

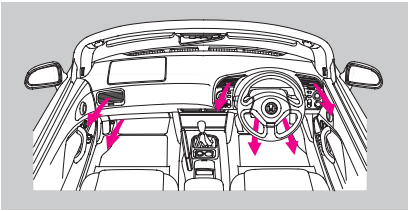
上半身に送風したいとき



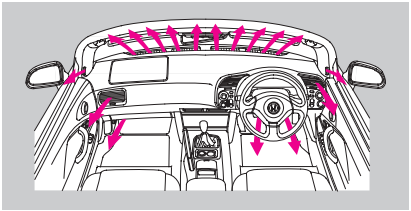
足元に送風したいとき



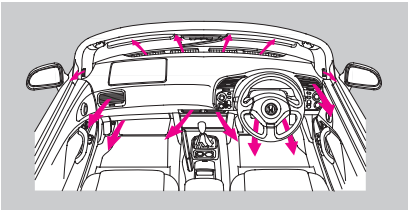
上半身、足元に送風したいとき



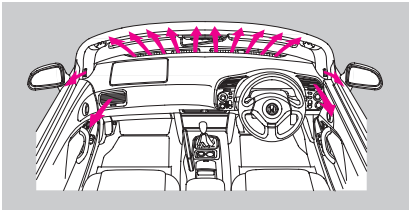
足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき



下半身、足元に送風したいとき
（ルーフを開けているとき）

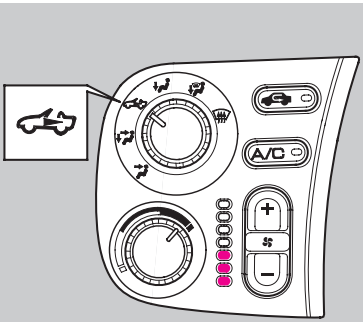


窓ガラスの曇りを取りたいとき

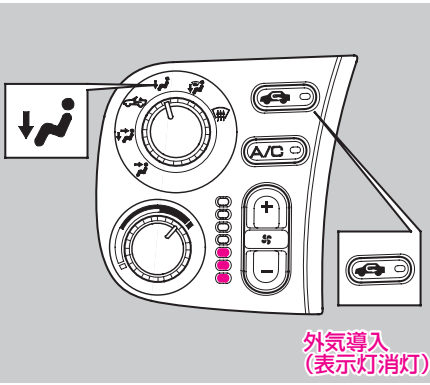


●暖房するとき

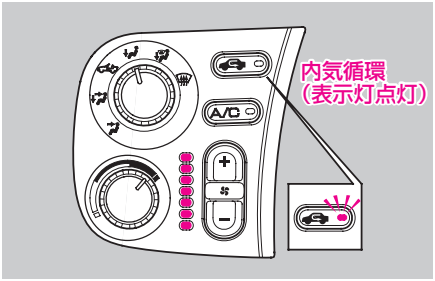
下半身、足元に送風したいとき
（ルーフを開けているとき）



足元に送風したいとき



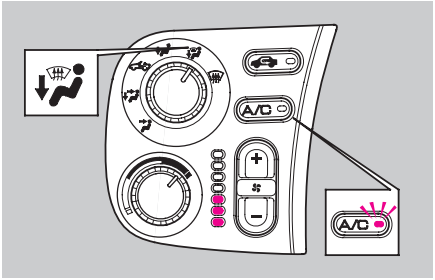
急速に車内を暖めたいとき



知 識

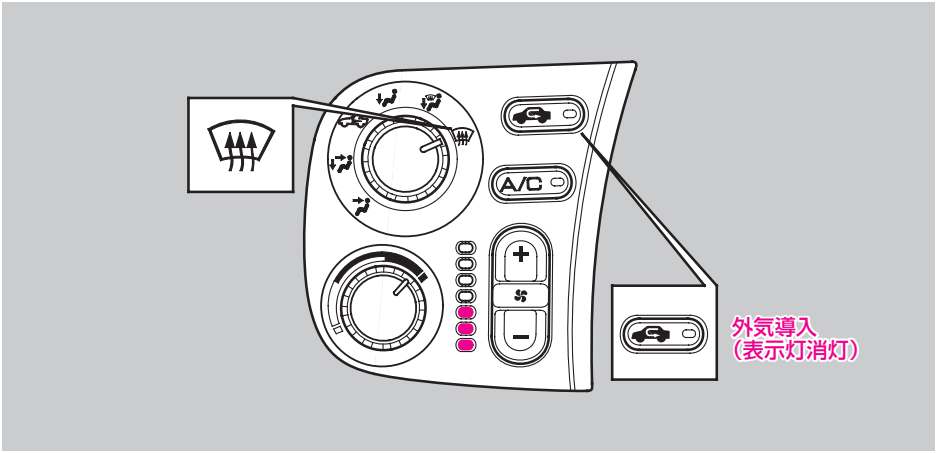
- 内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界のさまたげになります。一度暖めた後は外気導入で使ってください。

曇り止め暖房をしたいとき

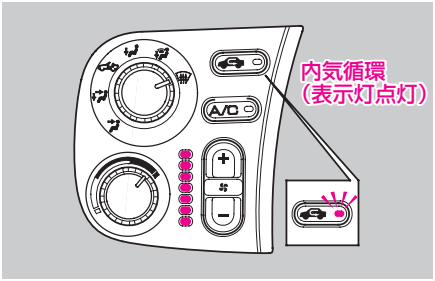


エアコンスイッチを入れると除湿暖房ができます。
春、秋などの雨天でガラスが曇りやすいときに使います。外気が除湿され、乾燥した空気で暖めますので、曇り止めに役立ちます。

●前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）



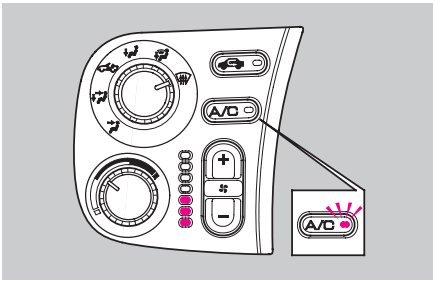
急速に霜を取りたいとき



知 識

●内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界のさまたげになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

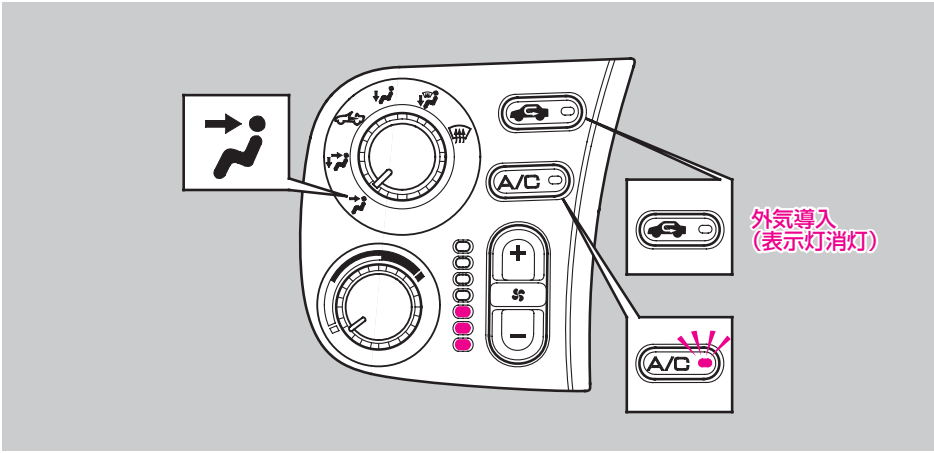
梅雨時など湿度の高いとき



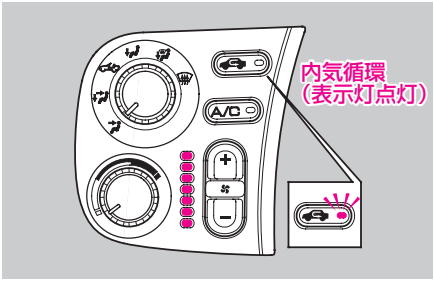
知 識

●エアコンスイッチを入れているときは、温度調節ダイヤルを最大冷房付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇り、視界のさまたげになります。

●冷房するとき



急速に車内を冷やしたいとき



知 識

- 急速冷房で車内が冷えたら外気導入にしてください。内気循環のまま長時間使うと車内の空気が汚れます。

知 識

- 炎天下に駐車していたときは、熱気を追い出すため窓を開け、冷房を開始してください。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。

●エアコンを常用しないとき

装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房をしてください。

知 識

- 室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

オーディオ

上手な使いかた

知 識

- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態では安全運転のさまたげとなります。
  また、運転中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないようにしてください。
- 車内や車の近くで携帯電話や無線機を使うとオーディオに雑音が入ることがあります。

●ラジオについて

ラジオの受信については、車の走行にともない受信状態が刻々と変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

●CD/MDについて

ディスクの変形を避けるため、直射日光や高温多湿を避けてケースに入れ保管してください。

悪路走行などで激しく振動した場合、音とびすることがあります。

寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露(水滴)が生じ、正しく作動しなくなることがあります。その場合、ディスクを取り出し、換気または除湿をしてからお使いください。

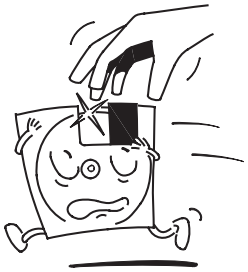
CD
ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。
下記マークのついていないディスクおよび円形以外のディスクは使えません。

COMPACT disc DIGITAL AUDIO

知 識

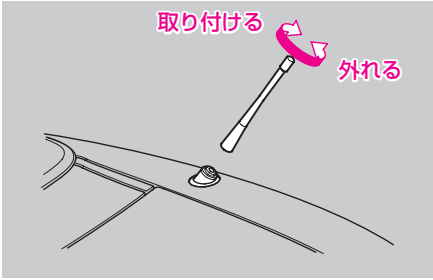
- ディスクは必ず円形のものをお使いください。円形以外のディスクを使用すると故障の原因となります。

MD
シャッターを無理にあけないでください。こわれることがあります。
また、ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。



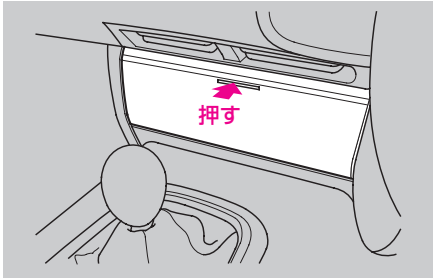
アンテナ

●外しかた



オーディオリッド

●開けかた



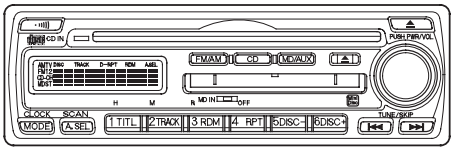
知 識

●オーディオリッド内側にカードホルダーがあります。

カードホルダー →134ページ

オーディオインデックス

AM/FMラジオ一体式CD/MDステレオ

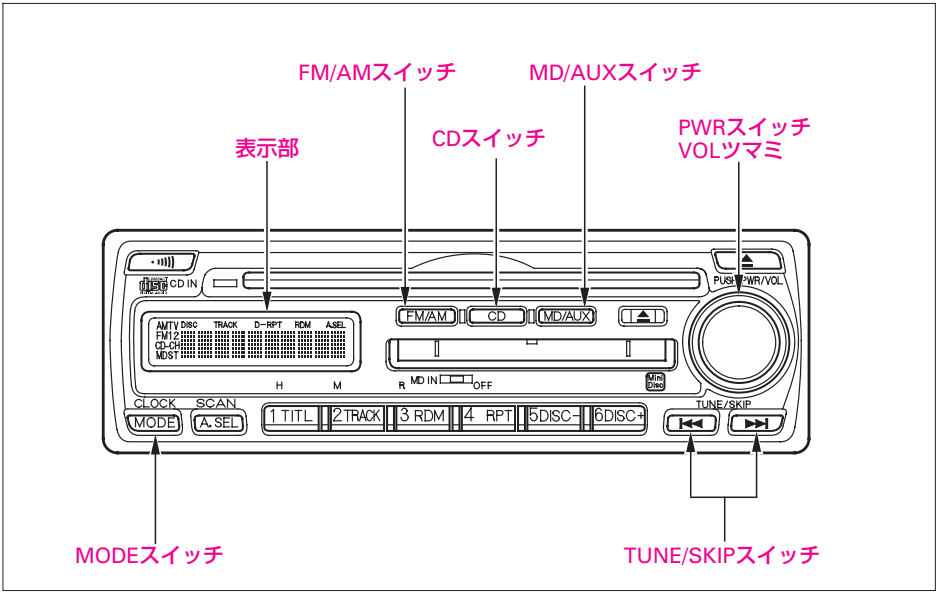


- 電源の入れかた ……112
- 音量調節のしかた ……112
- 音質、バランス調節のしかた ……113
- モードの切り換え ……113
- ラジオの使いかた ……114
- CDプレイヤーの使いかた ……118
- MDプレーヤーの使いかた ……120
- CDチェンジャーコントローラー等の使いかた※ ……124
- エラーコードについて ……127
- 時計 ……128

※：Honda純正のオーディオを接続し、操作することができます。詳しくはホンダベルノ店にご相談ください。

AM/FMラジオ一体式CD/MDステレオ

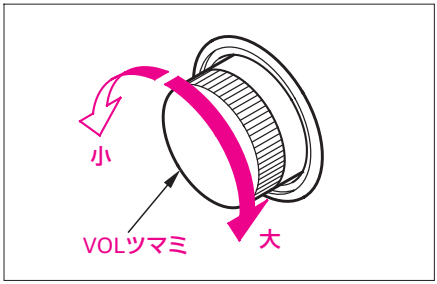
エンジンスイッチが“ I ”または“II”のときに使えます。



●電源の入れかた

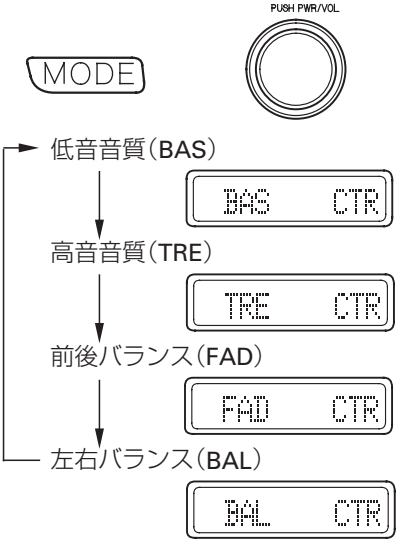
PWRスイッチを押して、電源を入れます。押すたびに“ON”↔“OFF”になります。また、FM/AMスイッチ、CDスイッチまたはMD/AUXスイッチを押して、電源を“ON”にすることもできます。

●音量調節のしかた



●音質、バランス調節のしかた

MODEスイッチを押して切り換え、VOLツマミで調節します。



MODEスイッチを押すたびに切り換わります。
(リヤ用スピーカーは装備していません。)

知 識

- 調節後約5秒すぎると自動的に解除されます。
- 調節位置が中央のときに表示部に“CTR”(センター)を表示します。

●モードの切り換え

各モードスイッチで切り換えます。

・FM/AMスイッチ

FM/AM

ラジオに切り換わります。

・CDスイッチ

CD

本体にCDが入っているときに押すと、CD演奏に切り換わります。

・MD/AUXスイッチ

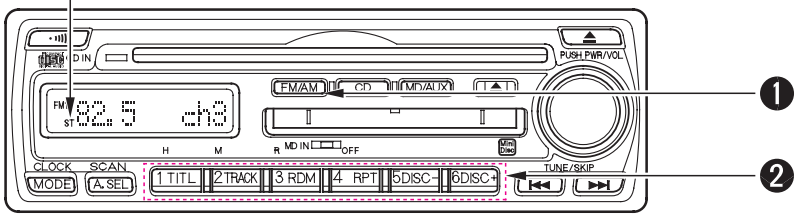
MD/AUX

MD(ミニディスク)が入っているときに押すと、MD演奏に切り換わります。
Honda純正のオーディオを接続しているときに押すと、それらの演奏に切り換わります。

●ラジオの使いかた

ラジオ放送のききかた

FMステレオ放送が感度よく受信できたときは、“ST”が点灯します。



❶ラジオに切り換え、バンドを選ぶ(FM/AMスイッチ)

スイッチを押して、FM1/FM2/AMを選びます。

❷選局する(ワンタッチ選局スイッチ)

あらかじめ放送局をセットしておくと、ワンタッチで選局できます。
FM12局(FM1、FM2それぞれ6局)、AM6局まで記憶できます。

ワンタッチ選局のセットのしかた

①FM/AMスイッチでFM1/FM2/AMを選びます。
②TUNE/SKIPスイッチで選局します。



・スイッチを短く押すと、受信周波数が少しづつ変わります。
・スイッチを“ピッ”と音がするまで押すと、自動選局になり放送を受信すると止まります。

知 識

●受信電波が弱いときは、自動選局できないことがあります。このようなときは手動で選局してください。

③ワンタッチ選局スイッチのいずれか一つを“ピッ”という電子音がするまで(約2秒間)押し続けます。

知 識

●一度電源が切れた場合(車両のバッテリーを外したとき、ヒューズが切れたときなど)、記憶が消去されます。そのときは再度記憶操作をしてください。

自動で放送局を数秒ずつ聞きたいときは(スキャン)

放送局でどんな番組を放送しているかを知りたいときに、操作します。
A.SEL(SCAN)スイッチを“ピッ”と音がするまで(約2秒間)押します。(“SCAN”が点滅)



電波の強い放送局が周波数の低い順から選局され、約5秒間つぎつぎと受信します。

解除するときは、スイッチをもう一度押します。他のモードに切り換えたときも解除されます。

自動で放送局を記憶するには（オートセレクト）

放送局の違う地域へ出かけたときなど、セットされた放送局が聞けなくなった場合に操作します。

A.SELスイッチを押します。（“A.SEL”が点滅）



自動選局された電波の強い放送局が、周波数の低い順からワンタッチ選局スイッチにFM12局、AM 6 局まで自動的に記憶され“A.SEL”が点滅から点灯に変わります。

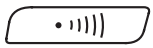
解除するときは、スイッチをもう一度押します。解除すると、ワンタッチ選局スイッチの記憶は、オートセレクトをする前の状態に戻ります。

知 識

- 放送局が 6 局または12局にみたない場合、残りのスイッチには何も記憶されません。記憶されていないスイッチを押すと、周波数が“－－－－”と表示されます。
- オートセレクトされた放送局を個別に変更することもできます。

交通情報をきくとき

•))))) スイッチを押すと、ワンタッチで交通情報を受信できます。



周波数を切り換えるとき（1620kHz↔1629kHz）
…TUNE/SKIPスイッチ |◀◀ ／ ▶▶| で切り換えます。

解除するとき

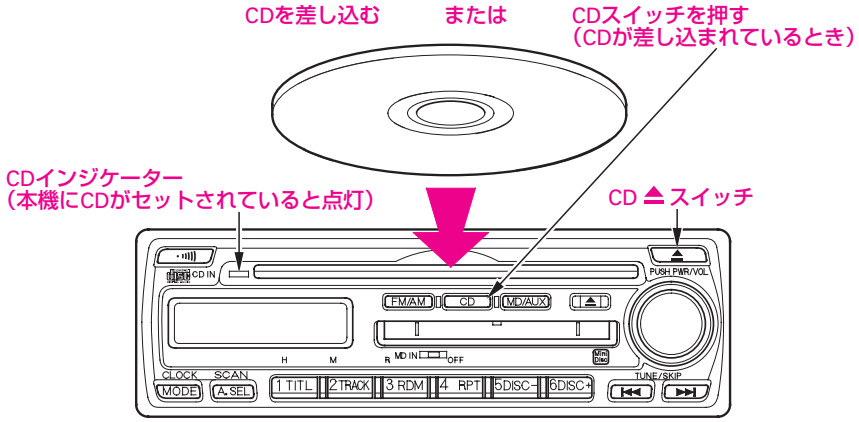
•))))) スイッチをもう一度押します。他のモードに切り換えたときも解除されます。

知 識

- •))))) スイッチにあらかじめセットされている受信周波数を変えることはできません。

●CDプレーヤーの使いかた

CD演奏のききかた



知 識

- 8 cm CDを使用するときはアダプターを使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- ディスクやプレーヤーをゴミやほこりから保護するため、ディスクが押し出されたままで約15秒経過すると、自動的に内部に引き込まれます。

CDを取り出すとき

CD ▲ スイッチを押して、CDを取り出します。



CD演奏中にエンジンスイッチを“0”にした場合でも、CD ▲ スイッチを押せばCDを取り出すことができます。

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

|◀◀ ／ ▶▶| スイッチを押します。



早戻し　早送り

押し続けると、早送り／早戻しになります。
短く押すと、スキップ（先の曲の頭出し）／リプレイ（演奏中、前の曲の頭出し）になります。

ききたい曲を探すとき（スキャン）

A.SEL(SCAN)スイッチを押します。（“SCAN”が点灯します）
各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
ききたい曲のところでスイッチをもう一度押すと、スキャン演奏の機能は解除されます。



知 識

- 全ての曲をスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲から通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（リピート）

RPTスイッチを押します。（“RPT”が点灯）



リピート機能を解除するときは、スイッチをもう一度押します。

1枚のディスクの曲順をランダムに演奏するとき

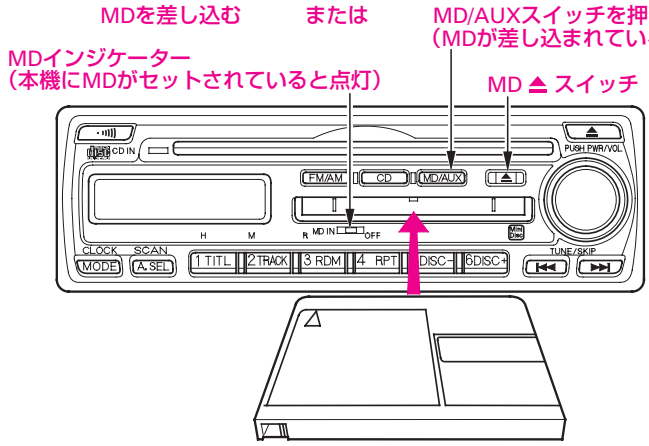
RDMスイッチを押します。（“RDM”が点灯）



ランダム演奏の機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。

●MDプレーヤーの使いかた

MD演奏のききかた



MDはレーベル面を上にして矢印の方向に入れます。

MDを取り出すとき

MD ▲ スイッチを押して、MDを取り出します。



MD演奏中にエンジンスイッチを“ 0 ”にした場合でも、
MD ▲ スイッチを押せばMDを取り出すことができます。

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

I◀◀ ／ ▶▶I スイッチを押します。



早戻し
リプレイ

早送り
スキップ

押し続けると、早送り／早戻しになります。
短く押すと、スキップ(先の曲の頭出し)／リプレイ(演奏中、前の曲の頭出し)になります。

ききたい曲を探すとき（スキャン）

A.SEL(SCAN)スイッチを押します。（“SCAN”が点灯します）
各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
ききたい曲のところでスイッチをもう一度押すと、スキャン演奏の機能は解除されます。



知　識

- 全ての曲をスキャン演奏し終ると、スキャン演奏を開始した曲から通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（リピート）

RPTスイッチを押します。（“RPT”が点灯）



リピート機能を解除するときは、スイッチをもう一度押します。

1枚のディスクの曲順をランダムに演奏するとき

RDMスイッチを押します。（“RDM”が点灯）



ランダム演奏の機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。

演奏中の曲名を表示するとき

TRACKスイッチを押します。（トラックの名称が約 5 秒間点灯）



トラックの名称は10文字ずつ表示されます。

知 識

- ディスクにトラック名称が入力されていない場合は、“NO NAME”を表示します。

ディスクの名称を表示するとき

TITLスイッチを押します。（ディスクの名称が約 5 秒間点灯）



ディスクの名称は10文字ずつ表示されます。

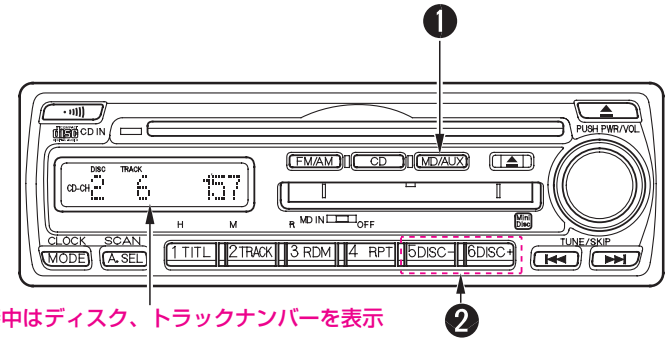
知 識

- ディスクにディスク名称が入力されていない場合は、“NO NAME”を表示します。

●CDチェンジャーコントローラーの使いかた

Honda純正のCDチェンジャー接続時

ディスク演奏のききかた



❶切り換える(MD/AUXスイッチ)

スイッチを押して、切り換えます。スイッチを押すたびに接続されているCDチェンジャーに切り換わります。

MD　（本体MDプレーヤー）
↓
CD-CH CHG1　（CDチェンジャー１）
↓
CD-CH CHG2　（CDチェンジャー２）

❷ディスクを選ぶ(DISC−/DISC＋スイッチ)

DISC−スイッチまたはDISC＋スイッチを押すごとに、ディスクが切り換わります。続けてTUNE/SKIPスイッチを短く押すと、トラックナンバーの指定もできます。

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

I◀◀ ／ ▶▶I スイッチを押します。



押し続けると、早送り／早戻しになります。
短く押すと、スキップ(先の曲の頭出し)／リプレイ(演奏中、前の曲の頭出し)になります。

ききたい曲を探すとき(トラックスキャン、ディスクスキャン)

A.SEL(SCAN)スイッチを押します。



- 短く押すとトラックスキャンになります。(TRACK No.が点滅)演奏中のディスクの各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとディスクスキャンになります。(DISC No.が点滅)ディスクチェンジャー内の全てのディスクの先頭の曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

演奏中の曲を繰り返しきくとき(リピート)

RPTスイッチを押します。



- 短く押すとトラックリピートモードになります。(“RPT”が点灯)
  演奏中の曲を繰り返し演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとディスクリピートモードになります。(“D-RPT”が点灯)
  演奏中のディスクを繰り返し演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

ディスクの曲順をランダムに演奏するとき

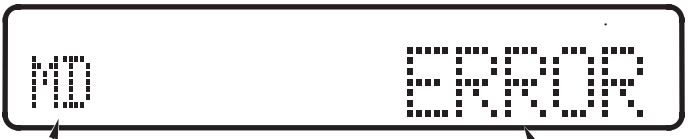
RDMスイッチを押します。



- 短く押すとトラックランダムモードになります。（“RDM”が点灯）
  演奏中のディスクをランダムに演奏します。
  機能を解除するには、RDMスイッチをもう一度短く押します。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとディスクランダムモードになります。（“D-RDM”が点灯）
  チェンジャー内すべてのディスクをランダムに演奏します。
  機能を解除するには、RDMスイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

●エラーコードについて

表示部にエラーコードが表示されたときは、表示されているディスクのチェンジャーの取扱説明書をご覧になり、点検してください。



エラーが発生しているプレーヤーを表します。

CD　（本体CDプレーヤー）
MD　（本体MDプレーヤー）
CD CH　（CDチェンジャー）

エラーコードの種類を表します。

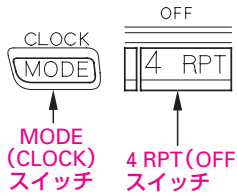
エラーコード	原　因
MECH ERROR	ディスクやディスクマガジンの装着や取り外しができない等、機械的な不具合
HEAT ERROR	プレーヤー内部の温度上昇による一時停止状態
DISC ERROR	ディスクの読み込みができない(露つき、傷、汚れなど)
NO DISC	CDチェンジャー ディスクマガジンにディスクが入っていない
BLANK DISC	MD ディスクに録音されていない

●時計

時計は、エンジンスイッチが“ I ”または“II”のときに表示されます。

表示の切り換え

オーディオ作動時の時計の表示が切り換えられます。



・表示を消すとき

①MODE(CLOCK)スイッチを(2秒間)押します。(時計表示が点滅)

② 4 RPT(OFF)スイッチを押します。

MDプレーヤーなどの演奏中は演奏時間を表示します。

・表示させるとき

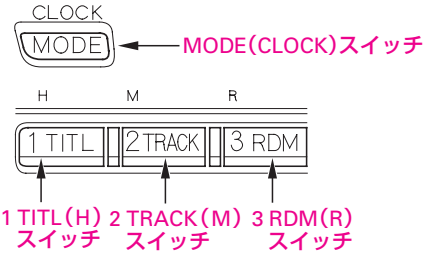
MODE(CLOCK)スイッチを(2秒間)押します。(時計表示が点灯)

表示の合わせかた

①MODE(CLOCK)スイッチを(2秒間)押します。(時計表示が点滅)

②「時」の調整… 1 TITL(H)スイッチを押します。

「分」の調整… 2 TRACK(M)スイッチを押します。



③MODE(CLOCK)スイッチをもう一度押します。

時報合わせ…時計表示が点滅しているときに、時報と同時に 3 RDM(R)スイッチを押します。

(例)　1 :01 ～ 1 :29の場合… 1 :00

　　1 :30 ～ 1 :59の場合… 2 :00

オーディオリモートコントロールスイッチ

CH(チャンネル)スイッチ

ラジオを使用中にスイッチを押すと、押すたびに記憶させてある周波数を順に選局します。

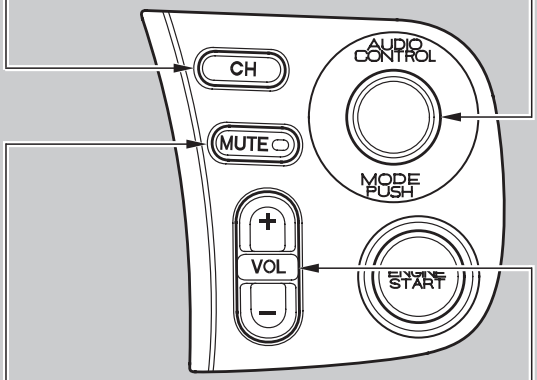
MDやCDなどを使用中にスイッチを押すと、次の曲の頭出しができます。

MODE(モード)スイッチ

FM 1 → FM 2 → AM → CD※ → MD※ → AUX※ → FM 1

スイッチを押すたびに切り換わります。

※：CD/MDのディスクが入っているときや、別売のCDチェンジャー等を接続しているときに切り換わります。



MUTE(ミュート)スイッチ

スイッチを押すと消音します。(表示灯点灯)

また、次の動作をしたときは、消音を解除します。

- 再度、スイッチを押したとき
- エンジンスイッチを“0”にしたとき

音量調節スイッチ

スイッチを＋側に倒す…音量が大きくなります。

スイッチを－側に倒す…音量が小さくなります。

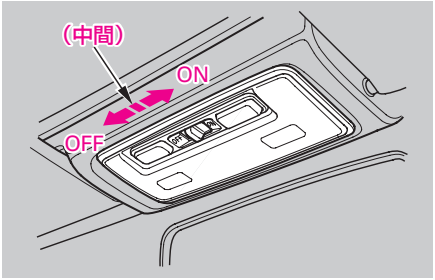
室内装備品

室内灯

“ON”
ドアの開閉に関係なく点灯します。

（中間）
ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。
また、次の場合にも点灯し、その後消灯します。
・運転席ドアを解錠したとき
（ウエルカムライト機能）
・エンジンスイッチからキーを抜いたとき

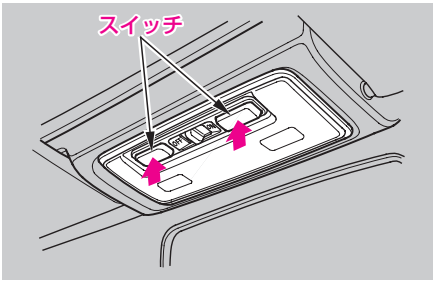
“OFF”
ドアの開閉に関係なく消灯します。



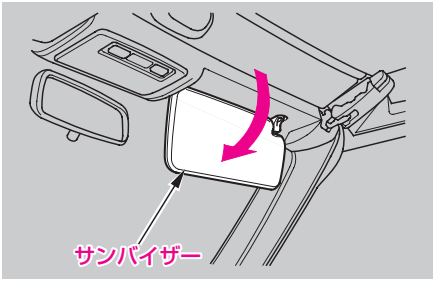
知 識
●エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを解錠しても室内灯は点灯しません。

スポットランプ

室内灯スイッチが“中間”のときにスイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。
夜間、車を止めて地図などを見るときに便利です。

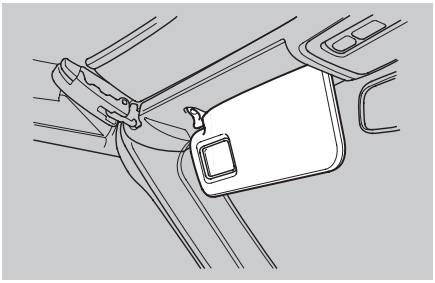


サンバイザー

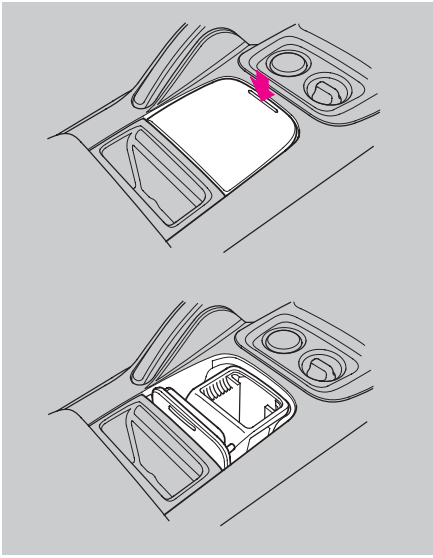


●バニティミラー（化粧鏡）

助手席のサンバイザーに鏡があります。
お化粧のときなどに便利です。



灰皿

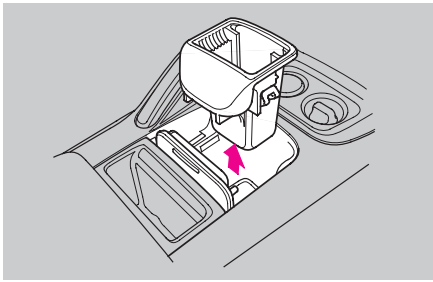


知 識

- 灰皿を外せば、カップホルダーとして使えます。

●清掃するとき

清掃するときは灰皿本体を引き抜けば、取り外すことができます。



⚠注意

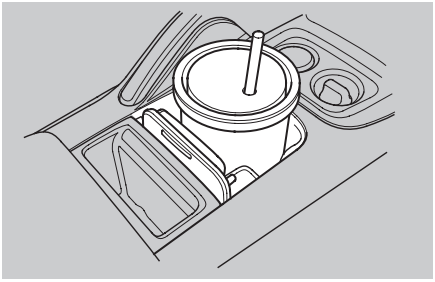
- タバコ、マッチなどは確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。
  また、吸いがらをためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
  タバコなどの火が燃え広がるおそれがあります。

カップホルダー

灰皿を外せば、カップホルダーとして使えます。

知 識

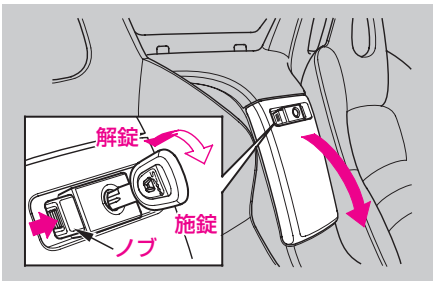
- ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。
  熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。
- 飲み物がオーディオ等にかかると、故障の原因となりますので注意してください。



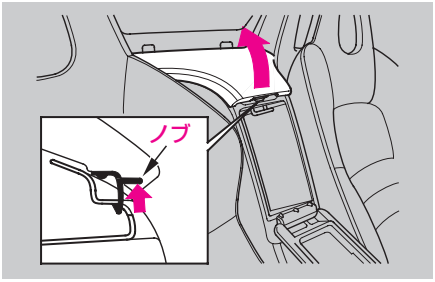
小物入れ

●コンソールボックス

ノブを押しながら開きます。
キーで施錠(解錠)できます。

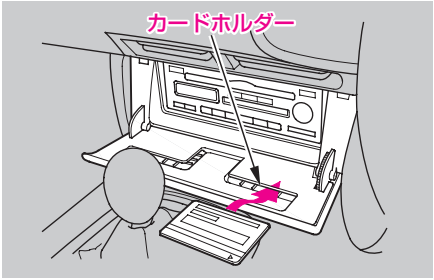


ノブを引くと開きます。



カードホルダー

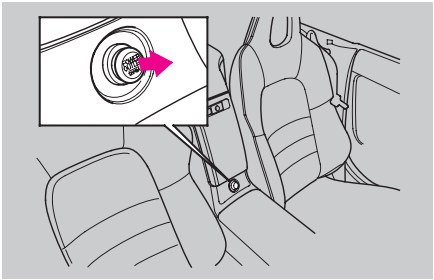
オーディオリッドにカードホルダーがあります。



オーディオリッド　→110ページ

アクセサリーソケット

カバーを開けて使用します。
定格120W（12ボルト、10アンペア）まで使用できます。



知 識

- Honda純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。バッテリーあがりやアクセサリーソケットの損傷の原因となります。
- バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。
- シガレットライターは差し込まないでください。発熱するおそれがあります。
- アクセサリーソケットを使わないときは、異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

5

万一のとき

●工具・スペアタイヤ・発炎筒
格納場所 ……136
工具の種類 ……137
発炎筒について ……137

●故障したとき
踏切で動けなくなったとき …138
高速道路で故障したとき ……138
道路で動けなくなったとき …139
故障の修理について ……139

●事故が起きたとき ……140

●けん引
けん引されるとき
（ロープによるけん引）……142
故障車をけん引するとき ……144

●パンクしたとき
ジャッキの取り扱い ……146
応急用スペアタイヤ ……148
タイヤ交換 ……149

●オーバーヒートしたとき
……154

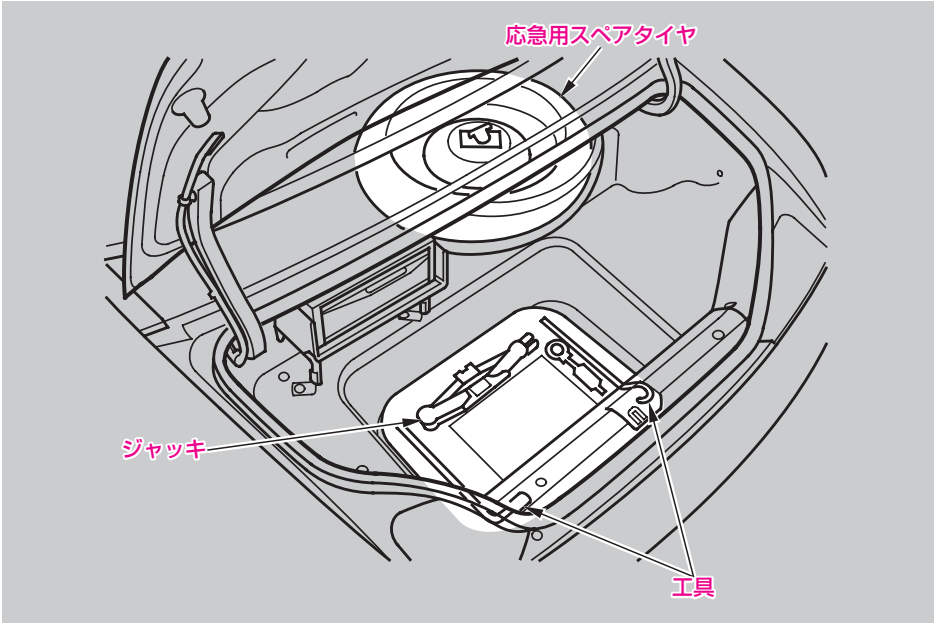
●電気系統が異常のとき
バッテリーあがりのとき ……156
ライト類が点灯しないとき、
電気装置が作動しないとき
……158
ソフトトップが
作動しないとき ……167

＊全国のHonda販売店およびJAFの電話番号は別冊の「サービス網一覧」に記載してあります。

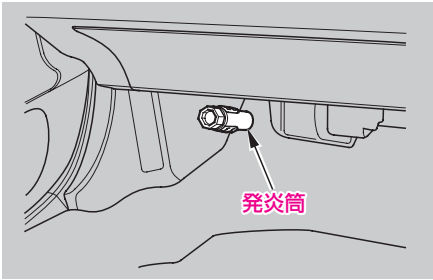
工具・スペアタイヤ・発炎筒

格納場所

●工具・スペアタイヤ

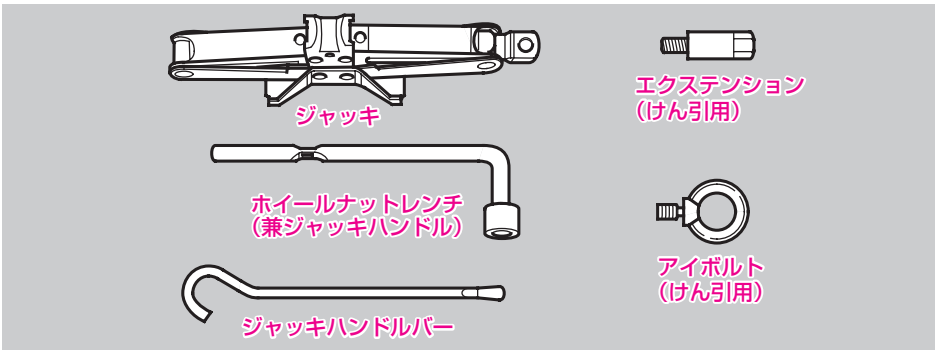


●発炎筒



発炎筒は助手席足元にあります。

工具の種類



知 識

- 工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使いかたなどは万一のとき困らないようあらかじめ確かめておきましょう。
- スペアタイヤ、ジャッキは走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器材による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。

発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

・使いかた　・使用上の注意
・発炎時間　・有効期限

⚠警告

- ガソリンなどの燃えやすいもののそばでは使わないでください。
  火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

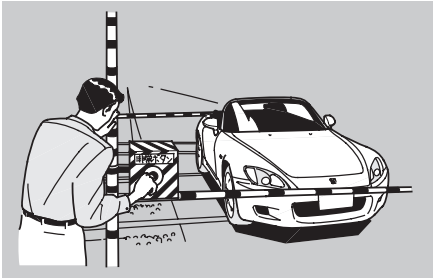
- お子さまにいじらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 発炎筒を使うとき顔やからだに向けるとやけどなどをすることがあるのでおやめください。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。
  トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

故障したとき

車を路肩に停め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（または停止表示灯）、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

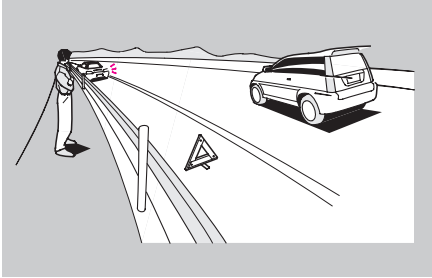
踏切で動けなくなったとき

脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがわからず、緊急を要するときは、発炎筒で合図をしてください。



高速道路で故障したとき

車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、車両後方に停止表示板（または停止表示灯）を置いて表示してください。法律で義務づけられています。



人は車からおりて、安全な場所に避難してください。

道路で動けなくなったとき

一般道路で動けなくなったときは、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

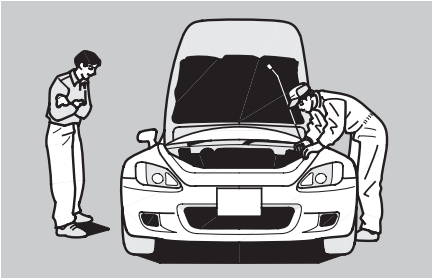


知 識

- この車は、スターターを回して車を動かすことはできません。
  クラッチ・スタートシステム
  →77ページ

故障の修理について

ホンダベルノ店へお申しつけください。



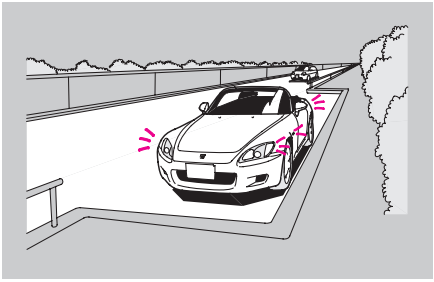
お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。
お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。
遠出などのときは全国どこでもHonda販売店へご連絡ください。
Honda販売店およびJAFの電話番号については別冊の「サービス網一覧」をご覧ください。

事故が起きたとき

あわてずに次の処置をとります。

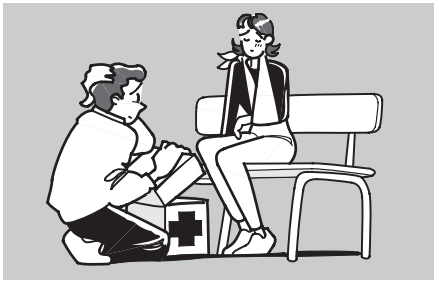
1事故の続発を防ぐ。

他の交通のさまたげにならないような安全な場所(路肩、あき地など)に車を移動させ、エンジンを止めます。



2負傷者がいる場合は、応急手当を行う。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。
この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。



知 識

- 外傷がなくても医師の診断を受けましょう。後になってから後遺症が出るおそれがあります。

3警察へ連絡する。

事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。



4相手方、事故の状況をメモする。

5ご購入された販売店や保険会社へ連絡する。

けん引

けん引は専門業者に依頼し、できるだけ四輪または後輪を持ち上げて行ってください。

アドバイス

- 車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、必ず四輪または後輪を持ち上げてけん引してください。

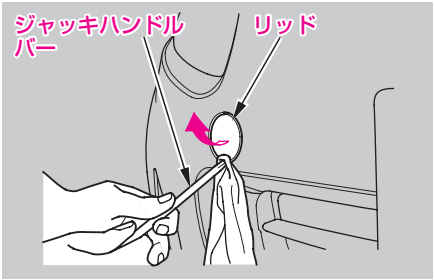
けん引されるとき（ロープによるけん引）

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

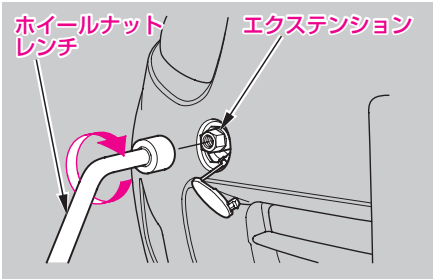
①トランクルームからアイボルト、エクステンション、ホイールナットレンチ、ジャッキハンドルバーを取り出します。

格納場所　→126ページ

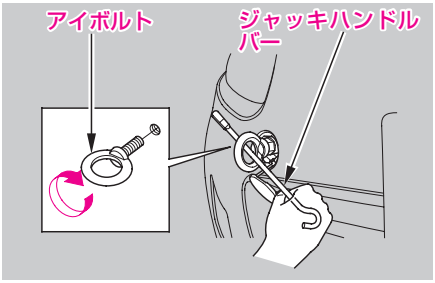
②ジャッキハンドルバーの先でリッドを開けます。



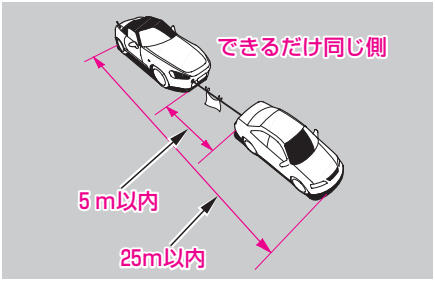
③エクステンションをホイールナットレンチで確実に取り付けます。



④アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーなどをかけて確実に締めつけます。



⑤ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m平方以上)を付けます。



⑥チェンジレバーをN(ニュートラル)に、エンジンスイッチは“Ⅰ”または“Ⅱ”にします。

⑦パーキングブレーキを解除し、けん引されます。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

アドバイス

- アイボルトにロープをかけるときは、車体の破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・アイボルトは確実に取り付けてください。
  - ・アイボルト以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にアイボルトに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

知 識

- エンジンが停止している状態でのけん引は、次のことに気をつけてください。
  - ・ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキのききが悪くなります。
  - ・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなるので、ハンドル操作が重くなります。
  - ・エンジンスイッチを“0”にするとキーが抜けることがあり、ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、事故につながるおそれがあります。
- 長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がりブレーキがきかなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

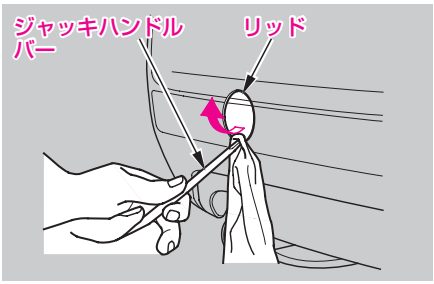
故障車をけん引するとき

やむをえず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。

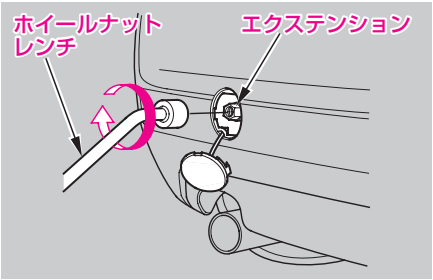
①トランクルームからアイボルト、エクステンション、ホイールナットレンチ、ジャッキハンドルバーを取り出します。

格納場所　→136ページ

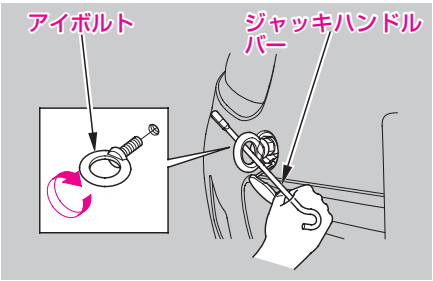
②ジャッキハンドルバーの先でリッドを開けます。



③エクステンションをホイールナットレンチで確実に取り付けます。



④アイボルトがガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバーなどをかけて確実に締めつけます。



アドバイス

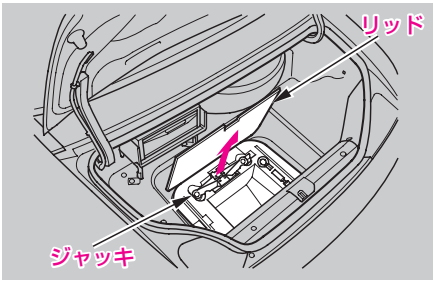
- アイボルトにロープをかけるときは、車体の破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・アイボルトは確実に取り付けてください。
  - ・アイボルト以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にアイボルトに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。

パンクしたとき

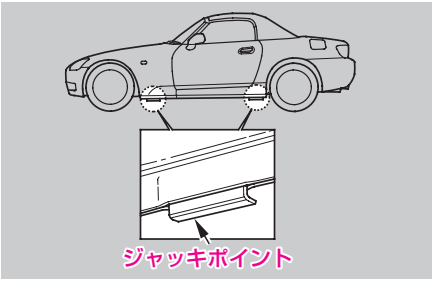
ジャッキの取り扱い

●ジャッキの取り出しかた

リッドを開け、ジャッキを取り出します。



●ジャッキをかける位置

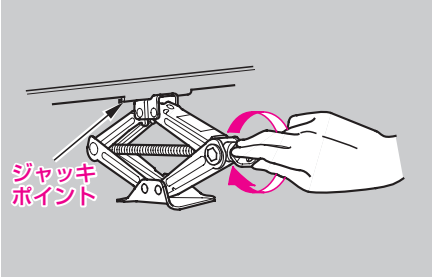


●ジャッキのかけかた

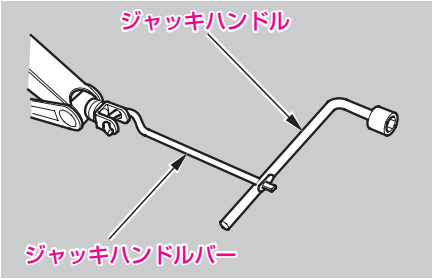
①地面が固い平らなところに車を停めます。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。

③ジャッキを地面に置き、手で回してジャッキの溝がジャッキポイントに入るまで上げます。



④ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。



⚠警告

●車がジャッキだけで支えられているときは、不安定な状態にあるので車の下に入ったりしないでください。
万一、ジャッキが外れると、思わぬ事故につながります。

⚠注意

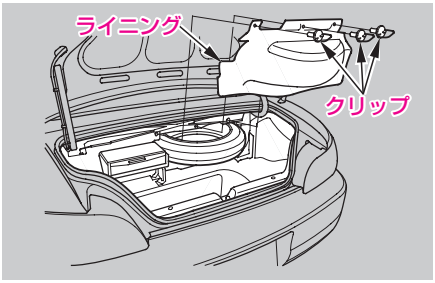
●ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守ってください。
- エンジンをかけたままにしない。
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない。
- 指定された位置以外にかけない。
- 人や荷物をのせたままにしない。
- ジャッキの上や下に物をいれたりしない。
- タイヤ交換やタイヤチェーン着脱以外には使用しない。

知 識

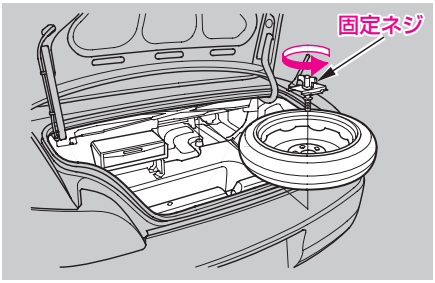
●この車に搭載されているジャッキをお使いください。他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

応急用スペアタイヤ

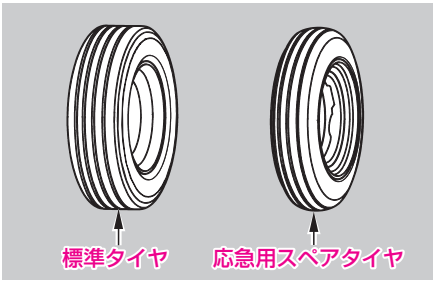
①クリップ(３個)を引き抜き、ライニングを外します。



②固定ネジをゆるめて取り出します。



応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使うタイヤです。



お使いになるときは次のことをお守りください。

知 識

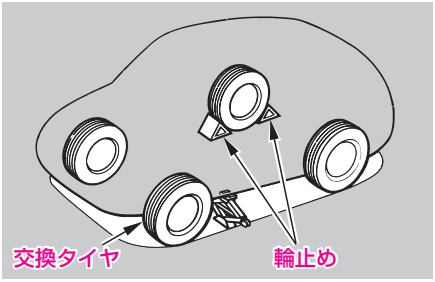
- 空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。
  指定空気圧：
  420 kPa (4.2 kgf/cm^2)
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。
- 後輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを前輪に装着し、外した標準タイヤを後輪に取り付けてください。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に後輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。
  後輪に取り付けた前輪タイヤに後輪用タイヤチェーンを装着した場合は、横ずれなどによる干渉に注意して走行してください。

タイヤ交換

1はじめに

①車を地面が固く平らで安全な場所に停め、工具類、応急用スペアタイヤを取り出します。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。

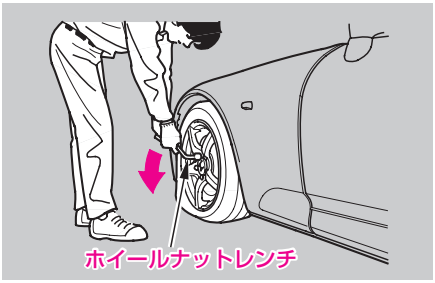


2ジャッキで車体を上げる

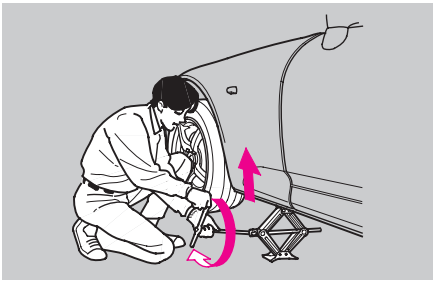
①ジャッキをセットします。

→147ページ

②ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約１回転)ゆるめます。

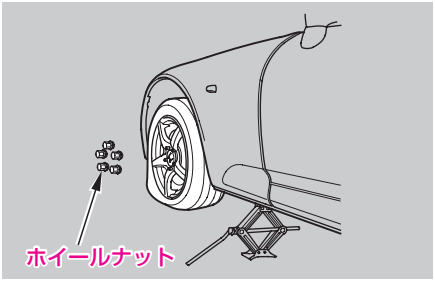


③タイヤと地面が少し離れるまでジャッキで車体を上げます。



3タイヤを交換する

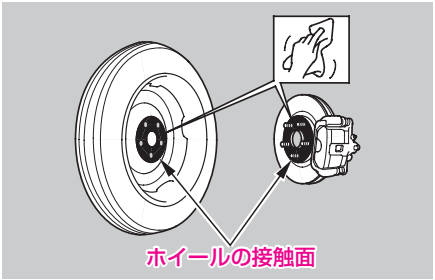
①ホイールナットを外し、タイヤを外します。



知 識

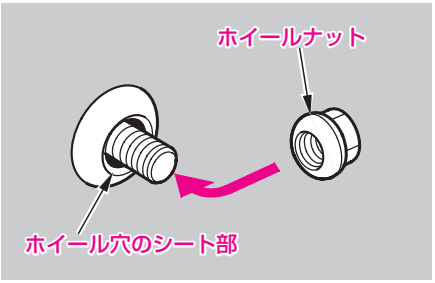
- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②応急用スペアタイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。



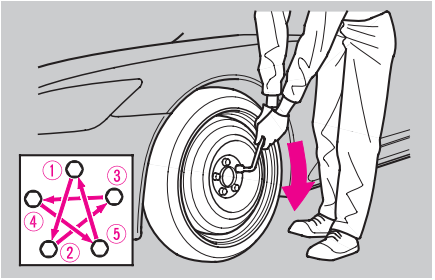
③応急用スペアタイヤを取り付けます。

④ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



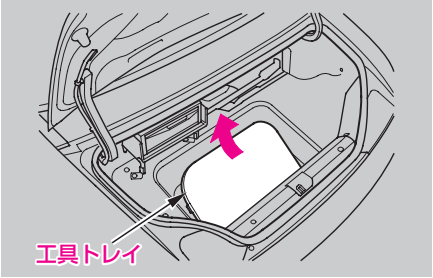
⑤ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク:
98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)

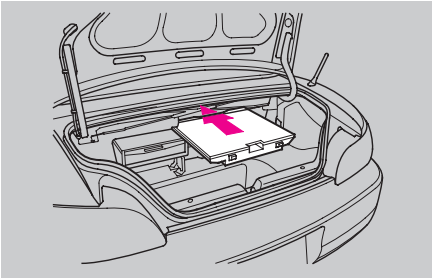


4標準タイヤを収納する

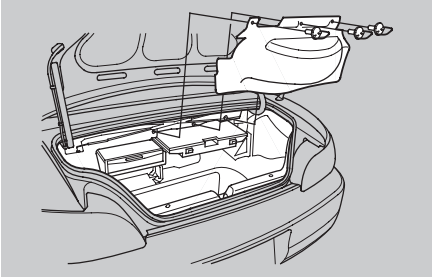
①工具、ジャッキをしまいます。
②工具トレイを取り出します。



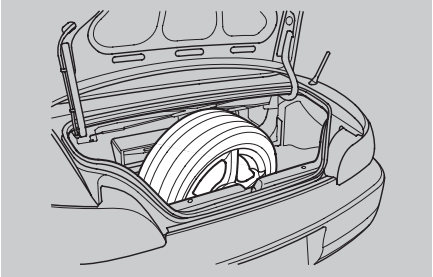
③工具トレイを、応急用スペアタイヤの収納場所に移動します。



④ライニングを取り付けます。

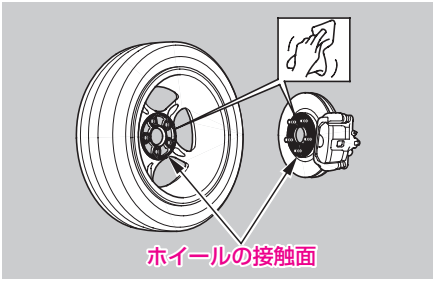


⑤パンクした標準タイヤをトランクにしまいます。



5標準タイヤを取り付けるときは

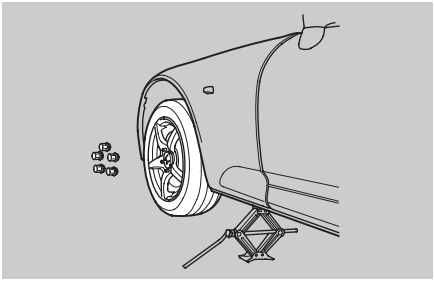
①標準タイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。



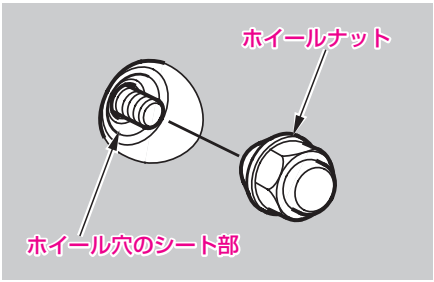
知 識

- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②標準タイヤを取り付けます。

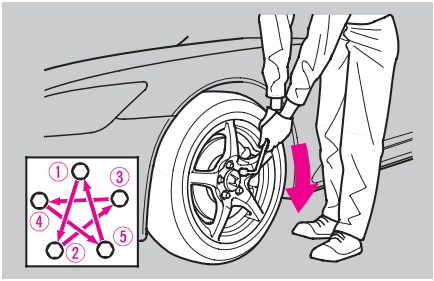


③ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



④ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク:
98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)





アドバイス

- 後輪は左右共、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用するとLSDに悪影響をあたえます。

知 識

- この車専用のホイールをお使いください。
  専用以外のホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずホンダベルノ店にご相談ください。
- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。トルクがかかりすぎることがあります。
- パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらホンダベルノ店で点検を受けてください。
- タイヤ交換は安全のため、地面の硬い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止表示板、非常点滅表示灯を使ってください。
- 必ず指定サイズ、同一種類のタイヤを使ってください。指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損ないます。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。
  やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。

タイヤの空気圧　→207ページ

- パンク修理などでホイールを取り付け直したときには、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。

オーバーヒートしたとき

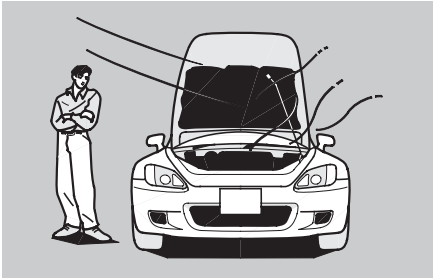
次のようなときは、オーバーヒートです。
・水温計の赤いマークが点灯したり、エンジンの力が急に落ちる。
・エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

⚠警告

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けないでください。
  蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでラジエーターキャップを外さないでください。
  冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●処置のしかた

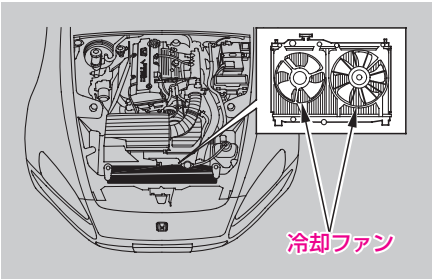
①車を安全な場所に停めます。
②エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。



知 識

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、エンジンを止めます。
  蒸気が出なくなってからボンネットを開け、エンジンをかけてください。

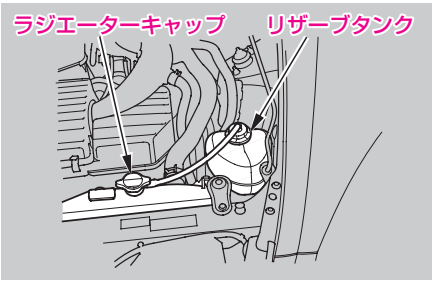
③冷却ファンの作動を確認し、水温計の針が下がってきてからエンジンを止めます。
冷却ファンが作動していないときはすぐにエンジンを止めてください。



アドバイス

- 冷却ファンが作動していない場合は、故障が考えられますので、ホンダベルノ店へご連絡ください。

④エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。



⑤冷却水量が不足していたらラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

アドバイス

- エンジンが熱いときに冷却水を入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。
冷却水はエンジンが冷えてからゆっくりと入れてください。

⑥なるべく早くホンダベルノ店で点検を受けてください。

電気系統が異常のとき

バッテリーあがりのとき

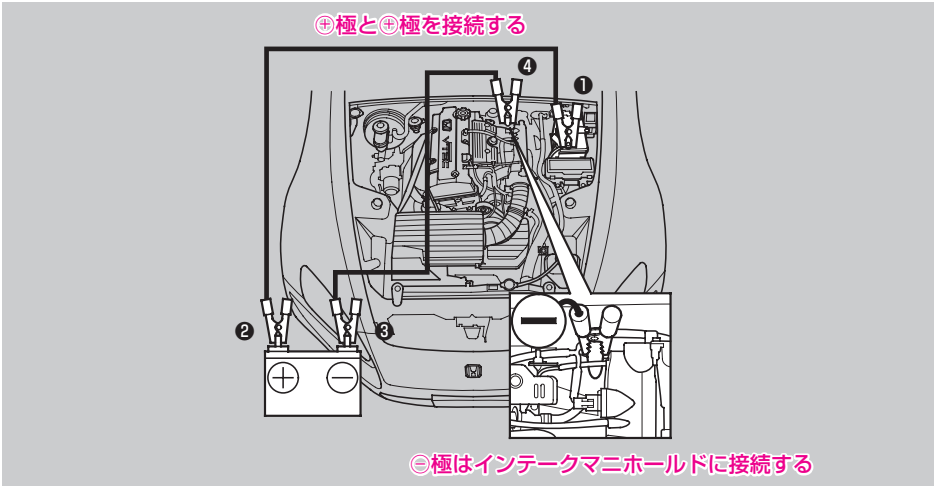
次のようなときは、バッテリーあがりです。
・スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからない。
・ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さい。

●処置のしかた

安全のため、押しがけはしないでください。
救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動させます。
①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

1本目
❶自車のバッテリーの⊕端子
❷救援車のバッテリーの⊕端子

2本目
❸救援車のバッテリーの⊖端子
❹自車のインテークマニホールド



②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
③自車のエンジンをかけます。
④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。
⑤Honda販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。



⚠警告

- バッテリーを取り扱うときは次のことを必ず守ってください。
  バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
  - バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動または充電を行わないでください。
  - 火気を近づけないでください。
  - 帯電した体でバッテリーに触れないでください。
  - 換気に十分注意し、換気の悪い場所では充電を行わないでください。
  - バッテリーを充電するときは、すべてのキャップを外してください。
- ブースターケーブルをつなぐときは次のことを必ず守ってください。火花が出て、バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
  - 自車のバッテリーの㊀端子に直接ケーブルをつながないでください。
  - ㊉端子と㊀端子を間違えないでください。
  - ケーブルの先端どうしを接触させないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに着くとその部分が侵されますので十分注意してください。
  万一、付着したときはすぐに多量の水ですくなくとも 5 分間以上洗浄し、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

知 識

- バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
  バッテリー内部の劣化の進行が促進するおそれがあります。
- ブースターケーブルのクリップは、エンジン始動時などの振動で外れたりしないように確実に固定してください。また、ブースターケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分気をつけてください。
- 救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。
- バッテリー交換などでバッテリーケーブルを取り外すと、ラジオにセットされた周波数が消去されます。また、バッテリーを取り付けた後は運転席パワーウィンドーのオート作動ができなくなります。その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。

はさみ込み防止機構　→39ページ

ライト類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

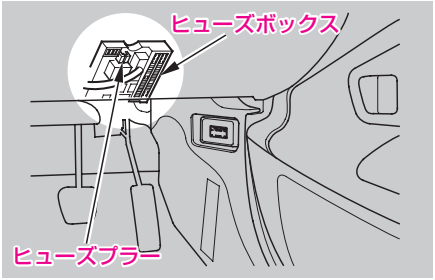
バッテリーがあがっていないときは、ヒューズ切れや電球(バルブ)切れが考えられます。

①エンジンスイッチを“0”の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
・故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示で確認し、点検します。
③必要に応じて、ヒューズや電球を交換します。

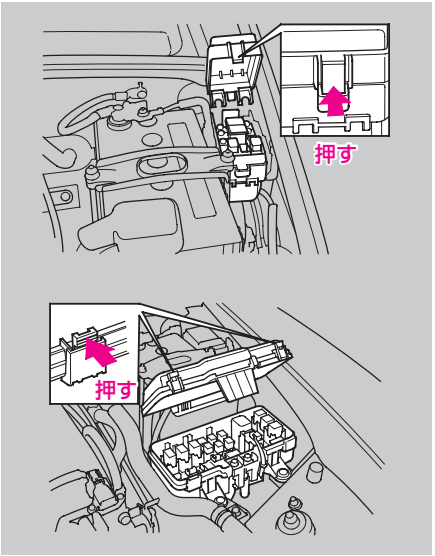
●ヒューズの点検、交換

ヒューズボックスの位置

・運転席足元

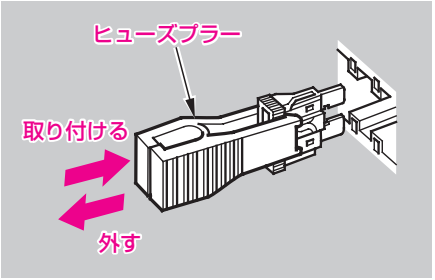


・エンジンルーム内

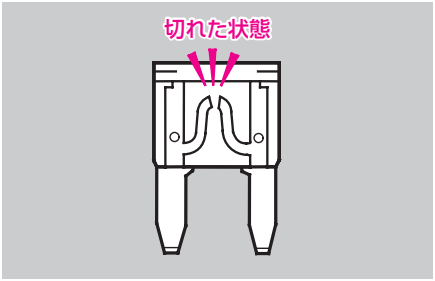


ヒューズの外しかた

備え付けのヒューズプラーでヒューズを外します。



ヒューズが切れているとき



ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

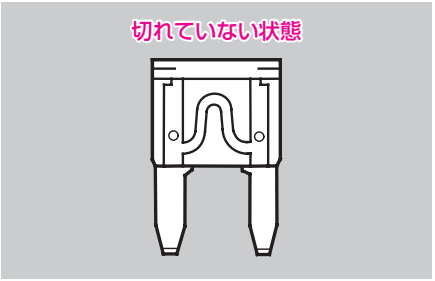
アドバイス

- 規定容量のヒューズ以外のものは絶対に使わないでください。
  配線コードなどを焼損させる原因となります。

知 識

- オーディオのヒューズが切れると、ラジオにセットされた周波数が消去されます。
- 運転席パワーウィンドーのヒューズが切れると、ヒューズを交換した後も運転席パワーウィンドーのオート作動ができなくなります。
  その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。
  はさみ込み防止機構　→39ページ
- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、ホンダベルノ店で点検を受けてください。

ヒューズが切れていないとき



- ライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
  電球を点検し、切れているときは交換してください。

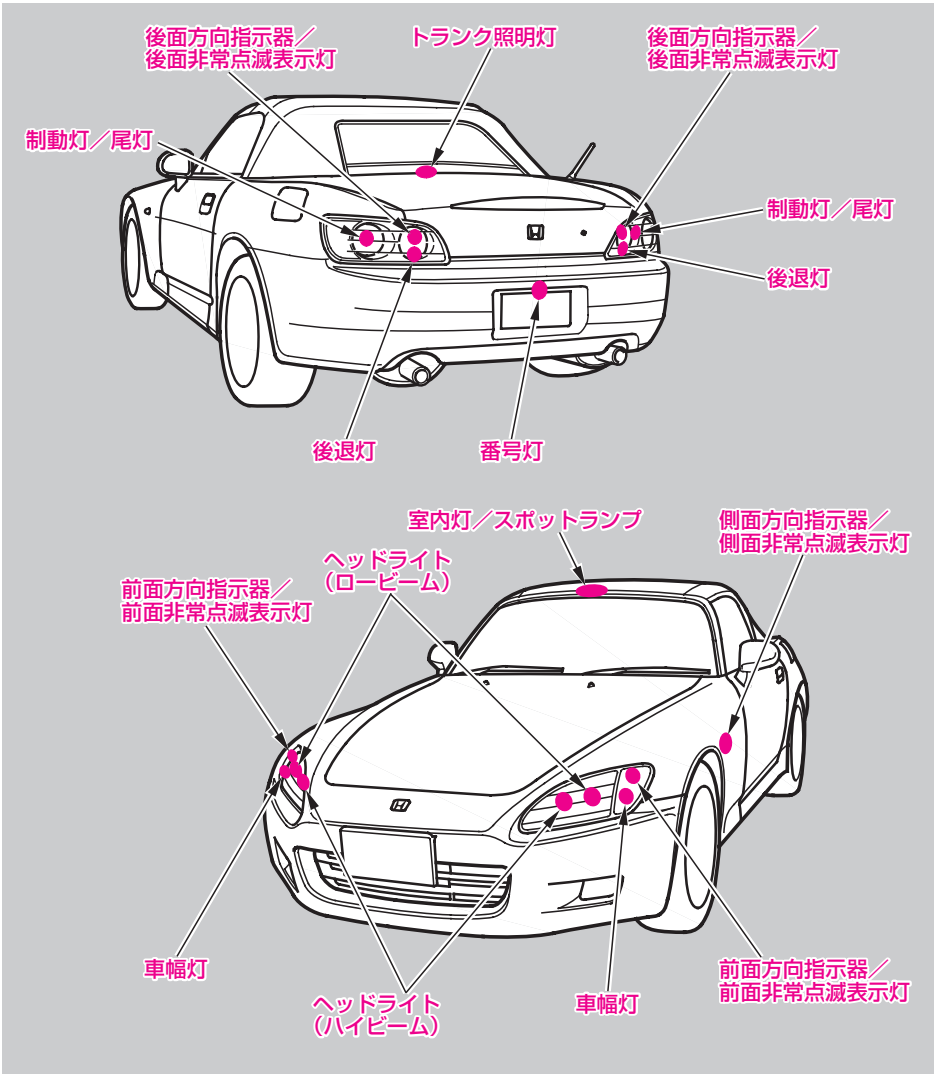
知 識

- 電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、ホンダベルノ店で点検を受けてください。

- ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、ホンダベルノ店で点検を受けてください。

●電球(バルブ)の交換

ヒューズが切れていないのにライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
電球を点検し、切れているときは交換してください。





知 識

- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違うものを使わないでください。

電球のワット数　→204ページ

- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスがとび散ることがあります。
  取り扱いには十分に注意してください。
  また、ハロゲンバルブの電球の表面に手などが、触れないようにしてください。使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。
- ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、ホンダベルノ店にご相談ください。

ヘッドライト(ロービーム)について

ヘッドライト(ロービーム)の電球切れの点検、交換は必ずホンダベルノ店で行ってください。

⚠注意

- ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

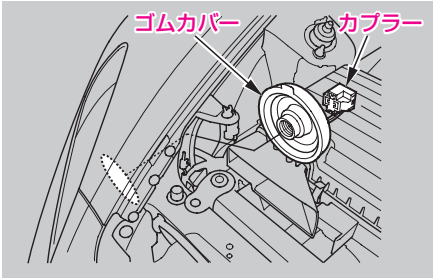
ヘッドライト(ハイビーム)

ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

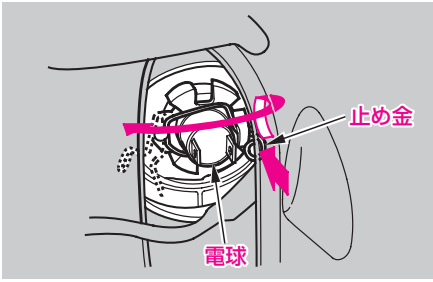
ハロゲンバルブ　→161ページ

・右側

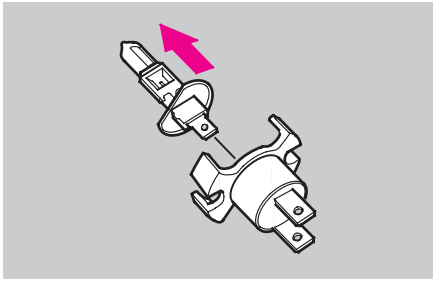
①カプラーを抜き取ります。
②ゴムカバーを外します。



③止め金を外し、電球を外します。

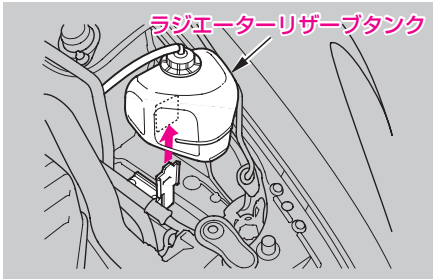


④電球本体を抜き取ります。

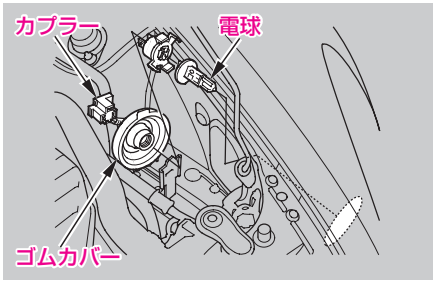


・左側

①ラジエーターリザーブタンクを引き上げて外します。



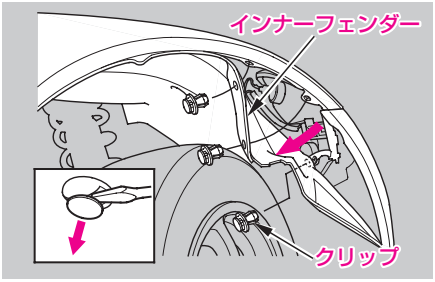
②カプラーを抜き取ります。
③ゴムカバーを外します。
④止め金を外し、電球を外します。
⑤電球本体を抜き取ります。



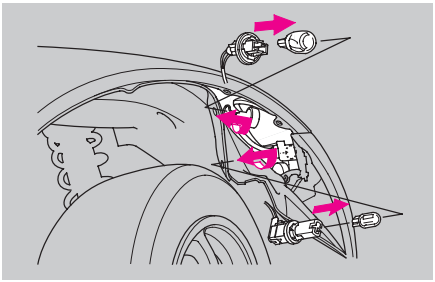
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯、車幅灯

①交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切ります。

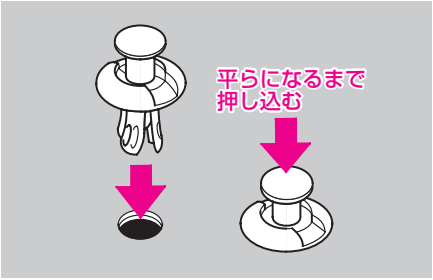
②クリップを外してインナーフェンダーをめくります。



③ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

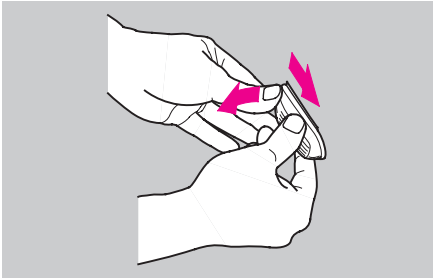


インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。

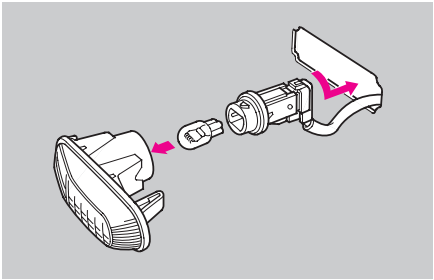


側面方向指示器／側面非常点滅表示灯

①ランプ本体を前方に押しながら抜き取ります。

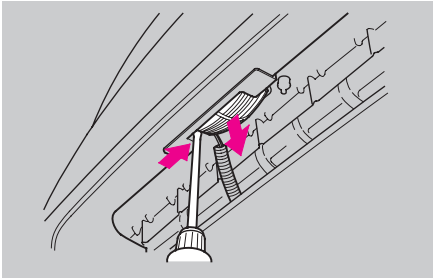


②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

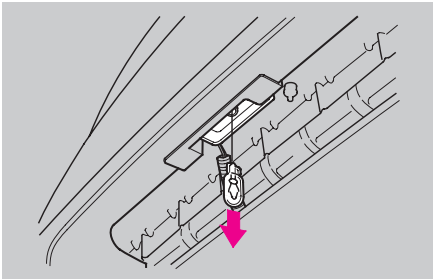


番号灯

①下方より側面を押しながらレンズを外します。

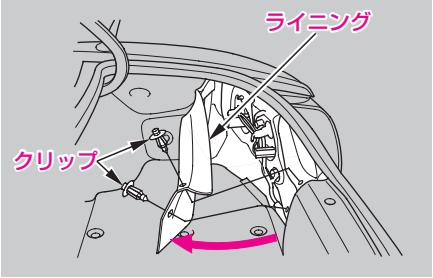


②電球を抜き取ります。

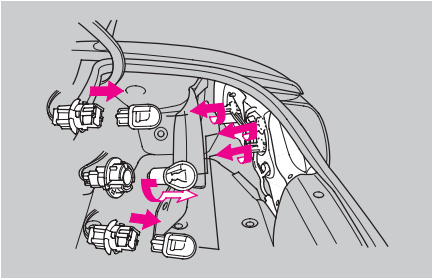


制動灯／尾灯、後面方向指示器／後面非常点滅表示灯、後退灯

①交換する側のライニングからクリップ2個を引き抜き、ライニングをめくります。

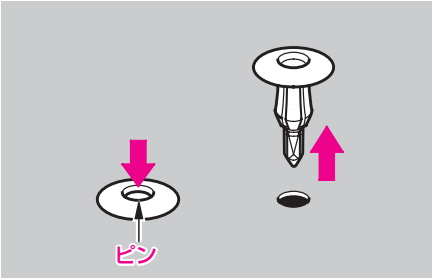


②ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

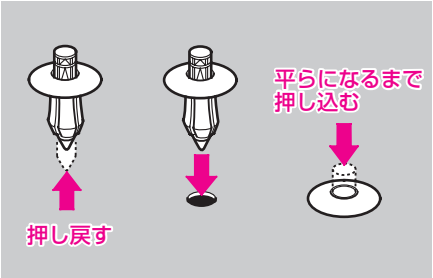


・クリップの脱着のしかた

クリップ中央部のピンを“カチッ”と音がするまで軽く（2 mm程度）押し込んでクリップを引き抜きます。

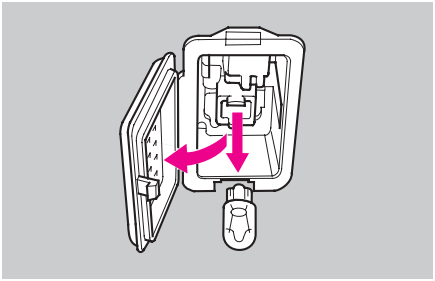


固定するときは、クリップ中央部のピンを押し戻して、取り付けたライニングに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



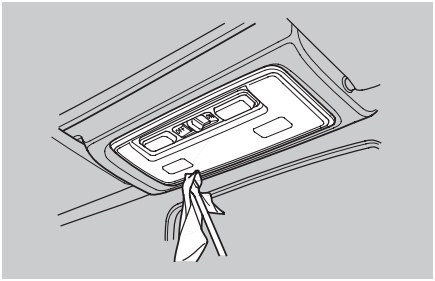
トランク照明灯

カバーを開け、電球を抜き取ります。

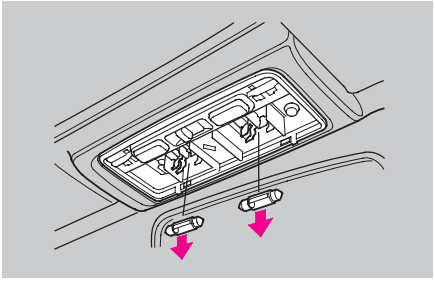


室内灯／スポットランプ

①レンズを外します。



②電球を抜き取ります。



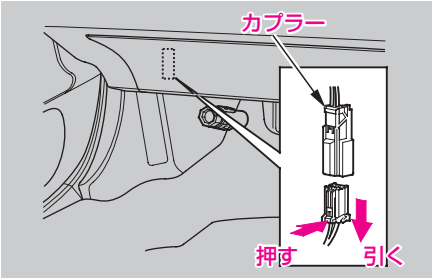
ソフトトップが作動しないとき

万一、電動でソフトトップが閉まらなくなった場合は、応急処置として次の方法で閉めてください。

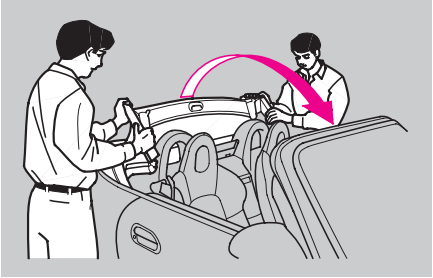
⚠注意

- ソフトトップを閉めるときは、手やゆびなどをはさまないようにしてください。
  ソフトトップにはさまれてけがをするおそれがあります。

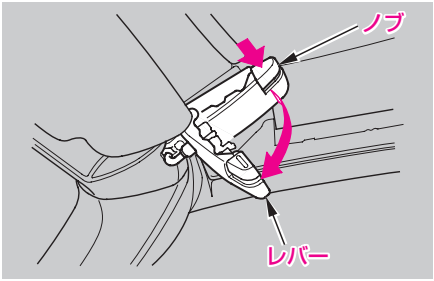
①助手席側インストルメントパネル内側のカプラーを外します。



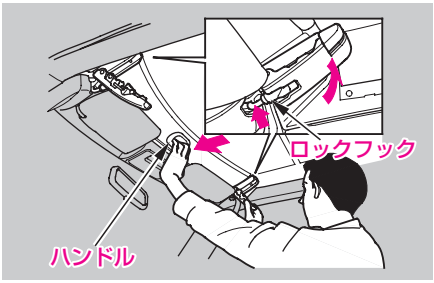
②ソフトトップをゆっくりと引き上げ、閉めます。



③左右 2 ヶ所にあるレバーを、ノブを押しながら下げます。



④ハンドルを下に引きながら、ロックフックをかけ、レバーをカチッと音がするまで戻すと固定します。



知 識

- 応急処置後はホンダベルノ店で点検を受けてください。

6

車の手入れ

●点検・整備について……170

●日常の手入れ
外装の手入れ……174
内装の手入れ……180
タイヤについて……182
アルミホイールについて……184

●車にあった部品の使用…186

点検・整備について

車は走行するにしたがい、また時間が経過するとともに部品の劣化や摩耗などが進んでいき、適切な点検整備を行わないと、安全・快適に乗っていただけなくなるばかりか大気汚染や騒音の増加などを引き起こすことがあります。
このようなことから点検整備が必要であり、ドライバー(運転者)は点検整備を実施することが法律でも義務づけられています。

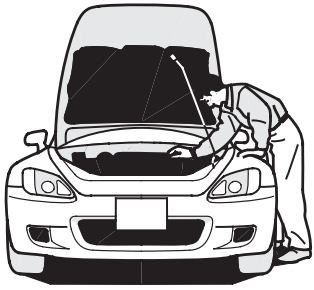


詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載してありますので、よくお読みになり必ず点検整備を行ってください。

●点検整備の種類

日常点検

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
点検時期の目安としては長距離走行前や洗車時、給油時などに実施します。



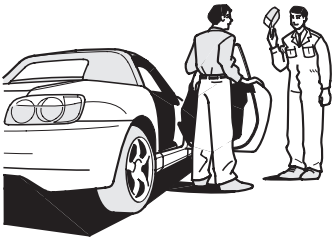
法定定期点検

年間走行距離が10,000km程度の標準的な使用を前提に、12か月および24か月毎に実施する点検です。
法律で定められているものと、Hondaが指定するものがあります。



その他

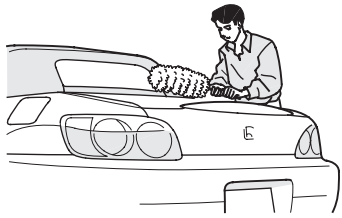
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。



日常の手入れ

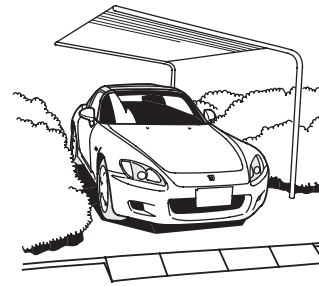
走行後は

- 塗装面に付着したほこりを毛ばたきなどではらい落としましょう。
- とび石などによる塗装面の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。



保管、駐車は

- 風通しのよい車庫や、直射日光があたらない屋根のある場所をおすすめします。



- 台風、大雨のときや屋外に保管しておくときは、室内に水が入るのを防ぐためボディカバーをかけるようにしてください。

洗車を忘れずに

- 少なくとも月に一度は洗車しましょう。
- 次の場合は、必ず洗車してください。
  - 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき、海岸地帯を走行したとき。
    錆の原因となるので車体の下回り、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。
  - コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。
    化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗ってから水で完全に流し、必要に応じてポリシングワックス(ワックス乳液)で磨いてください。
    ポリシングワックスは、Honda純正ケミカル用品をお使いください。
- ソフトトップの手入れも合せてお読みください。

→177ページ

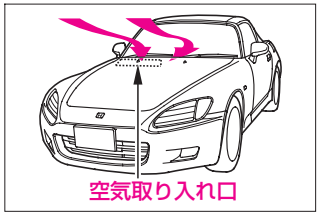


外装の手入れ

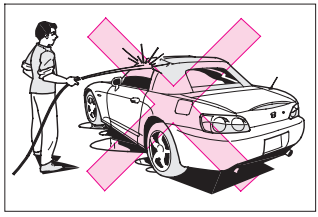
●洗車のしかた

・十分に水をかけながら、下回り、足まわりの汚れを落とします。
・塗装面は屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム皮のような柔らかいもので洗います。
・汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
・水が乾かないうちに拭き取ります。

●ボンネットの裏のインシュレーターには、直接水をかけて洗わないでください。
●故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。
故障のもとになります。



●ドアガラスまわりやソフトトップの合せ目付近には、ホースの先端を絞るなどして水を強くかけないでください。
室内へ水が侵入することがあります。

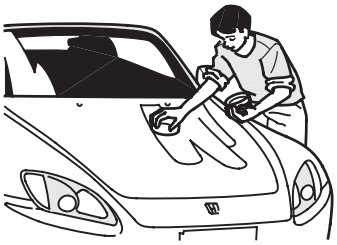


●自動洗車機およびコイン洗車機(スチーム、高圧洗車)は絶対に使わないでください。

●ワックスをかけるとき

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行います。
洗車したあと、日陰か車体表面が体温以下になっているときにワックスをかけます。

・ワックスはHonda純正ケミカル用品をお使いください。



●みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。
塗装面に細かい傷が残ることがあります。

●樹脂塗装部品(バンパーなど)の手入れ

ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。
すみやかに柔らかい布で拭き取ってください。

●樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、ホンダベルノ店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

●ガラスの手入れ

ガラスの油膜を取るときは、ガラスクリーナーをお使いください。

・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

ガラスクリーナーがソフトトップクロスに付着した場合は、すみやかに水で洗い流してください。

リヤガラスの清掃をするとき

ガラスの内側に電熱線が装着されていますので、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

●ソフトトップの手入れ

ソフトトップを長持ちさせるために

ソフトトップには高品質のソフトトップクロスを使用していますが、手入れの方法を誤りますと、硬化、シミ、光沢ムラなどを生じることがありますので十分注意してください。

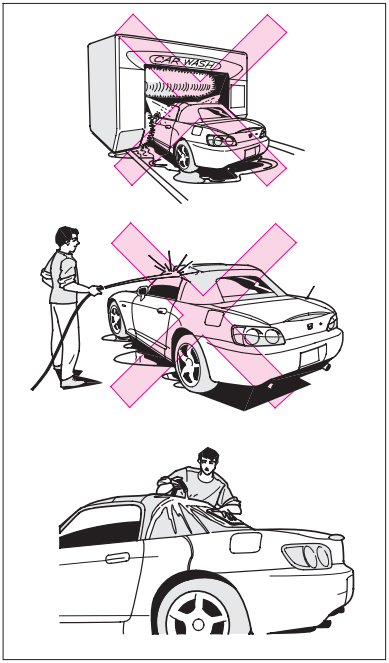
・お手入れは、あまり汚れがひどくならないうちに定期的に行ってください。
汚れたまま長期間放置すると、劣化の原因になります。

洗車のしかた

汚れ(泥、砂など)は柔らかい布を使用してきれいな水で洗い落としてください。

●汚れがひどい場合は、中性洗剤を使用し、柔らかい布などで強くこすらないように注意しながら、洗い流してください。

●自動洗車機およびコイン洗車機（スチーム、高圧洗車）は絶対に使わないでください。



●窓ガラスとソフトトップの合わせ目付近に、直接ホースなどで水をかけないでください。
水が室内に浸入するおそれがあります。

●水は必ずソフトトップの上方からかけるようにしてください。

●ソフトトップが濡れているときは、必ず水気を拭き取って乾燥させてから開けてください。濡れたまま収納すると、車内への水の浸入、ソフトトップクロスの劣化、縮みやカビなどの原因となります。

●市販のレザーワックスの中にはソフトトップクロスの光沢ムラを生じさせたりするものもありますので注意してください。

●ボディ用のワックスをソフトトップクロスに付着させた場合は、タオル地の布か、柔らかなブラシを使用して落としてください。

●ガソリン、シンナー、アルコール類、アセトンなどの有機薬品によるソフトトップクロスの清掃は絶対に避けてください。
ソフトトップクロスの表皮膜が硬化したり、光沢が変化することがあります。

保管のしかた

- 風通しのよい車庫や、直射日光があたらない屋根のある場所をおすすめします。
- 台風、大雨や屋外に保管しておくときは、水の浸入およびソフトトップ、塗装面の保護のためボディカバーをかけるようにしてください。
- 長期間保管時には、屋内でもソフトトップは閉めておいてください。ソフトトップをたたんで収納したままにしておくと、しわができるおそれがあります。

内装の手入れ

①中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
・飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいに拭き取ります。
③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。

●室内に水をかけないでください。電気部品に水がかかると故障の原因となります。



●ケミカル類、液体芳香剤について

ケミカル類、液体芳香剤はその成分によっては、樹脂部品、布材、本革の変色、しみ、ひび割れを起こすことがあります。
取り扱いには十分にご注意ください。

●ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤は使わないでください。
また、ケミカル類には、これらの成分が含まれているおそれがあります。ご使用の前に確認してください。
●ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
また、使用した布はそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。
●液体芳香剤はこぼさないように、容器を確実に固定してください。
芳香剤の使用にあたっては固形タイプのものをおすすめします。

●本革の取り扱い

注文装備

①ウール用中性洗剤の5％水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいにふき取ります。
③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。

- 本革部分に油汚れなどが付くとカビなどの原因となるので、早めに落としてください。
- 本革部分を直射日光に長時間さらすと、変質、縮みの原因となります。駐車するときは、日よけに心がけてください。
- 夏期などは、ビニール類を本革部分の上に置かないでください。
  室内が高温になっていると、ビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。
- 雨などでぬれたときは、早めに水分をふき取り風通しのよい日陰で乾燥させてください。
  シート表面に水分が残っていると、皮革の硬化、収縮の原因となります。

タイヤについて

タイヤの異常摩耗、亀裂、損傷および指定外の空気圧は、乗り心地、操縦性、タイヤの寿命を損ないます。また、摩耗したタイヤは雨天時の高速走行で通常よりもハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

・安全のため、こまめに点検を行ってください。
　また、必ず指定サイズ、同一種類のタイヤをお使いください。

⚠警告

●次のようなタイヤは使わないでください。
　コントロールを失うことがあり、思わぬ事故につながります。
　・摩耗限度を超えたタイヤ
　・指定空気圧に調整されていないタイヤ
　　タイヤの空気圧
→207ページ

⚠注意

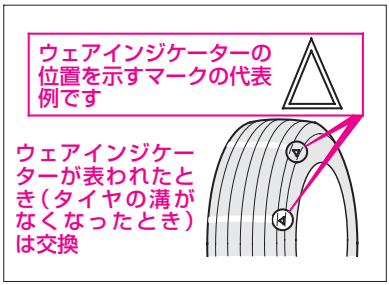
●タイヤの空気圧を調整するときは、規定圧力を守ってください。
　空気を入れ過ぎると、タイヤが破裂しけがをするおそれがあります。

●後輪は左右共、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用するとLSDに悪影響を与えます。

摩耗限界表示（ウェアインジケーター）

ウェアインジケーターが表れたらタイヤを交換してください。

・ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。

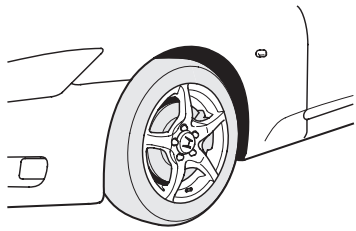


●位置交換（タイヤローテーション）

前後輪で、タイヤサイズが異なります。また、回転方向が指定されているため左右のタイヤが異なります。したがって、前後、左右、それぞれ専用タイヤとなっていますので、タイヤの位置交換はできません。

アルミホイールについて

アルミホイールは一般的なスチールホイールと取り扱いかたが異なります。
アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。



●取り扱い

- この車専用のホイールをお使いください。専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずホンダベルノ店にご相談ください。
- パンク修理などでホイールを取り付け直した際には、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- アルミホイールは傷つきやすいので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを避けてください。
- バランスウェイトやバルブはHonda純正のアルミホイール専用品をお使いください。ホイールに傷をつけたり、機能を損なうことがあります。
- タイヤチェーンを装着するときは、正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールに傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。



●手入れ

- アルミホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水や道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落としてください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミホイールは傷つきやすいので、砂入り石鹸や硬いブラシを使わないでください。高速洗車機（ホイール専用ブラシ付きのもの）によるホイールの洗浄は避けてください。
- スチーム洗浄などで、熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。
  光沢を失うおそれがあります。

車にあった部品の使用

車の性能、品質を維持するために、Honda車に最も適したHonda純正部品をお使いください。
純正部品は厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。
お求め、装着に際しては、ホンダベルノ店にご相談ください。

・純正部品には下のマークがついています。



・Honda純正部品以外の車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
・車の改造はしないでください。
不正改造は、法律に触れることはもちろん思わぬ事故を起こす場合があります。

7

車との上手なつきあいかた

●積雪・寒冷時の取り扱い

運転するまえ ……188
運転するとき ……190
駐車するとき ……194
冬期の手入れ ……196

●こんなときは

雨の日の運転 ……198
夏場の取り扱い ……200
経済走行のために ……201

積雪・寒冷時の取り扱い

運転するまえ

●車に積もった雪や着氷は取り除く

屋根に積もった雪

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげとなり危険です。走行するまえに取り除いてください。

・氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。氷が溶けてから取り除いてください。



ガラス面の雪や霜

雪や霜を落として視界を確保してください。

・プラスチックの板などを使うとガラスに傷をつけずに落とすことができます。

足まわりの着氷

足まわりなどに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。

●凍結しているとき

ドアの凍結

無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれたりするので、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。このとき、沸騰した湯は使わないでください。ソフトトップにかかるとソフトトップクロスを傷める場合があります。

・ドアキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結すると、キーが差し込めなくなります。



お湯をかけたあとは、凍結防止のために水分をよく拭き取ってください。

ワイパーの凍結(ガラス面が着氷、積雪しているとき)

ワイパーブレード(ゴム部)を損傷したり、モーターの故障となりますので、氷や雪を取り除いてから動かしてください。

●乗車するとき

靴にこびりついた雪をよく落としてから、乗車してください。

・ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。

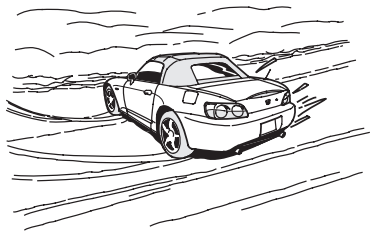


運転するまえに

ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

運転するとき

●雪道や凍結路では、たいへん滑りやすくなっているので、速度を落とし車間距離を十分とって運転しましょう。
また、ハンドルやブレーキの操作は特に慎重にしてください。
・急加速、急減速、急ブレーキや急ハンドルは横すべりを起こして方向性を失います。



●冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着して走行してください。
タイヤチェーンについて
→192ページ
・冬用タイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類で標準タイヤと同じサイズのものに交換してください。
・地区条例により違いがありますので、その地区の条例に従ってください。

●冬用タイヤを装着したときには、安全のため高速走行は避けてください。

●ブレーキのききについて

ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキのききが悪くなることがあります。
その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。



- ブレーキのききが回復しないときは、ブレーキ系統に異常が考えられますので、ただちにホンダベルノ店で点検を受けてください。

●ウォッシャー液を噴射するとき

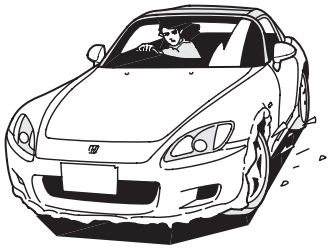
先にヒーターを使ってフロントガラスを暖めてからウォッシャー液を噴射します。

⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ハンドルのきれについて（タイヤまわりの着氷）

フェンダー裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。
ときどき確認し、着氷が大きくなる前に取り除いてください。



●パンクしたとき（タイヤチェーン装着時）

応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
チェーン装着時に後輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。
後輪に取り付けた前輪タイヤに後輪用タイヤチェーンを装着した場合は、横ずれなどによる干渉に注意して走行してください。

●タイヤチェーンについて

推奨タイヤチェーン

フェンダーやホイール表面を傷つけるおそれがありますので、Honda純正スーパーグリップチェーンをお使いください。
お求めはホンダ販売店へお申し付けください。

●タイヤチェーンはタイヤに合った適正なものをお使いください。
推奨タイヤチェーン以外のものを使うと、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

標準的なタイヤチェーンの取り付けかた

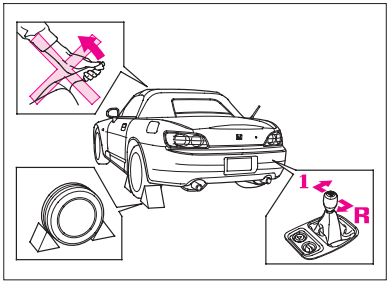
タイヤチェーンは、駆動輪の後輪に装着してください。
タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。



- タイヤチェーンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けてください。
  必要に応じて非常点滅表示灯などを使ってください。
- タイヤチェーンを取り付けたときには、安全のため雪道、凍結路では30km/h以下の速度で運転してください。
  なお乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したままで走行するのは避けてください。チェーンの摩耗を早めます。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に後輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを前輪に装着し、外した前輪タイヤを後輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。
  後輪に取り付けた前輪タイヤに後輪用タイヤチェーンを装着した場合は、横ずれなどによる干渉に注意して走行してください。

駐車するとき

パーキングブレーキの凍結を防ぐために、パーキングブレーキは使わないでください。
ギヤをR(後退)か1に入れます。
石などで輪止めをしておきます。



●屋外に駐車するとき

- エンジンの冷えすぎを防ぐために、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて停めてください。
  - ・エンジンが冷えすぎると始動しにくくなることがあります。
- 落雪や積雪を避けるために、軒下や樹木の下などには停めないでください。
  - ・車の屋根などがへこむことがあります。
- ワイパーアームは起こしてください。
  - ・雪の重みでアームの取り付け部がこわれることがあります。
- 吹雪の場合などは、室内へ雪が入ることがあるのでボディカバーをかけるようにしてください。

●長期間使わないで屋外におくとき

ソフトトップや塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

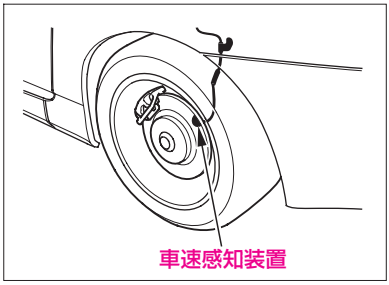
⚠注意

- 格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。
  そのまま走行すると、火災のおそれがあります。

冬期の手入れ

●雪道走行後の手入れ

・フェンダー裏側や足まわりに付着した泥、雪は周囲の部品を損傷しないように取り除いてください。足まわり（前、後輪の 4 か所）に車速感知装置が取り付けてありますので、傷をつけないように特に注意してください。



・積雪時には道路に凍結防止剤がまかれていることがあります。錆の原因になりますので、走行後はすぐに洗車してください。特に下回りは念入りに行ってください。

●点検・整備

バッテリーについて

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。

冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

● 点検方法はメンテナンスノートを参照し、交換はホンダベルノ店にご相談ください。

こんなときは

雨の日の運転

雨の日は視界が悪くなるうえ、窓ガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなるなど悪条件が重なるので通常より注意深い運転が必要です。

- 急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、晴れの日よりも速度を落とし、車間距離を十分にとって運転しましょう。
- ハイドロプレーニング現象に注意しましょう。
- 雨の降り始めの舗装道路は滑りやすいので特に気を付けましょう。
- 冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。
  エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

⚠警告

- 滑りやすい路面では、急加速、急ブレーキや急ハンドルは避けてください。
  車のコントロールを失い思わぬ事故につながります。

ハイドロプレーニング現象とは

路面が水でおおわれているところを高速で走行しようとしたときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。

- このような状態になると、ハンドルやブレーキがきかなくなり、非常に危険です。

●ガラスの曇りをとりたいとき

ガラスが曇って外が見にくいときは、エアコンのデフロスターを使って曇りをとります。

リヤガラスの曇りは

リヤデフロスタースイッチを押して、曇りをとります。

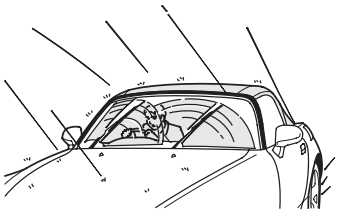
●ガラスの油膜をとりたいとき

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。
ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにします。

・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

●ワイパーのふきむらがあるとき

ワイパーブレードのラバーが傷んでいると、ふきむらが出て視界のさまたげとなります。また、ガラス面を傷つけることがありますので、早めに交換してください。

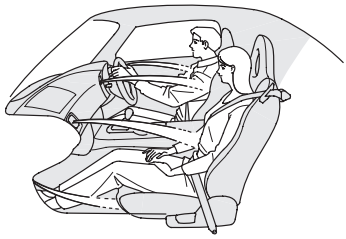


夏場の取り扱い

●エアコンの上手な使いかた

・冷媒(ガス)が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検、補充をしておきましょう。
・室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。
・エアコンの冷やしすぎは健康上良くありません。

● この車の冷媒は、環境保護のため、新冷媒HFC-134a（R-134a)を使用しています。
補充・交換が必要な場合は、ホンダベルノ店にご相談ください。



●炎天下に駐車するときは

・ボディーに覆いをかけたり、ハンドルやシートにタオルなどをかけて、室内温度の上昇を抑えましょう。
・フロントガラスにアルミ光沢性の日除けバイザーを使うと、反射光が集光し、インストルメントパネルなどが変色、変形することがあります。

●海から帰ってきたときは

海に出かけた後は車も塩分を浴びています。錆の原因になりますので早めに洗車してください。下回りも念入りに洗いましょう。

●オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足しないように、こまめに点検します。

・走行中、水温計の赤いマークが点灯した場合は、オーバーヒートのおそれがあります。安全な場所に停車してエンジンを冷やしてください。

オーバーヒートしたとき
→154ページ

経済走行のために

●不必要な急加速、急減速などアクセルペダルをバタつかせるような運転をしないでください。

●変速位置の選択は、走行速度に応じて適切に行ってください。

●チェンジレバーの操作は、クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでから確実に行ってください。
・クラッチペダルの足のせ運転、半クラッチの連続使用はしないでください。



●長すぎる暖機運転をしないようにしましょう。

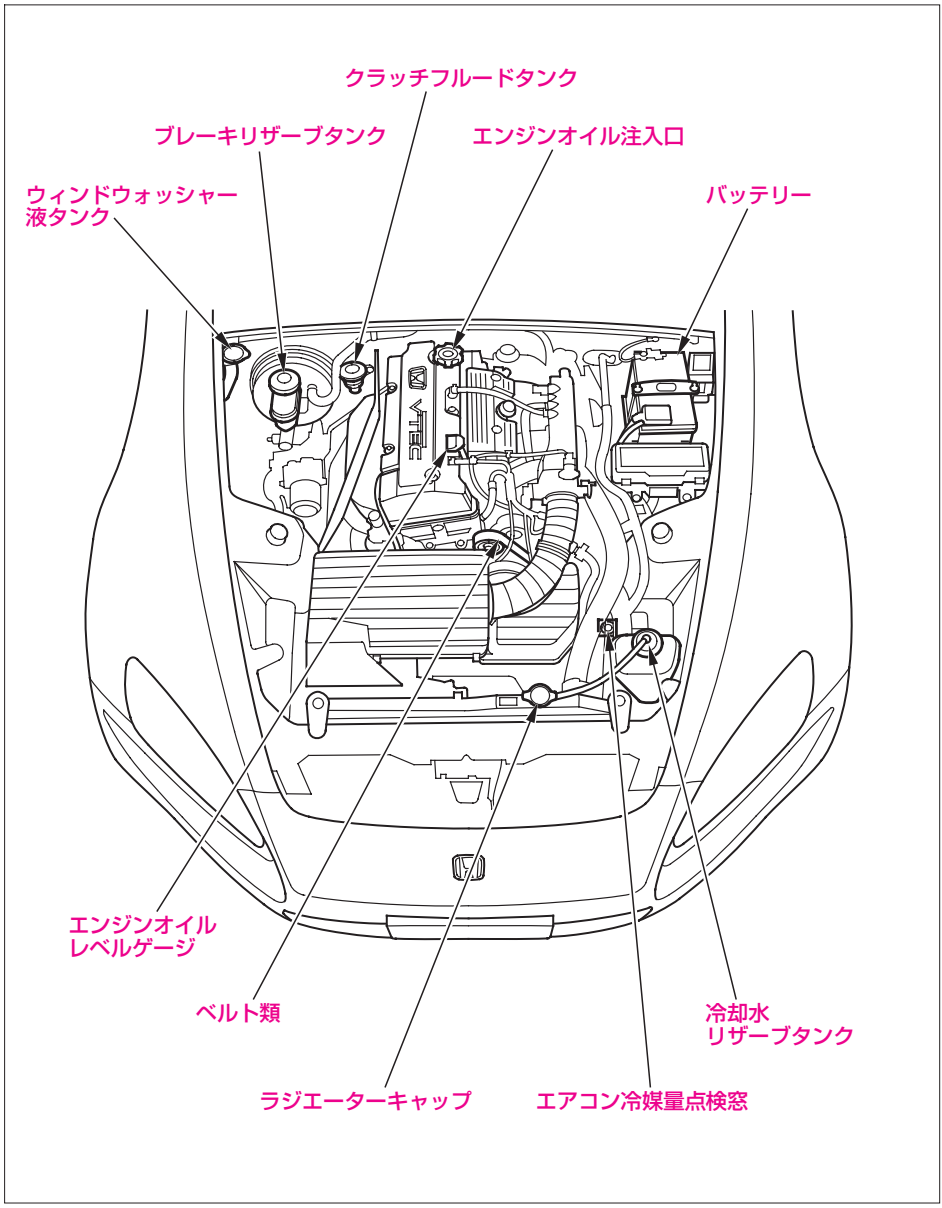
●高速道路でも不必要な高速走行は避けましょう。

●車間距離は十分にとり、不必要なブレーキをかけないようにしましょう。

●トランクルームには不必要な荷物は載せないようにしましょう。

●駐車時にはエンジンを止めましょう。

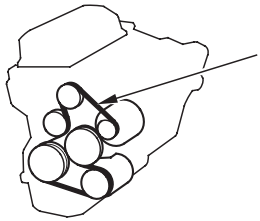
サービスデータ


クラッチフルードタンク
ブレーキリザーブタンク
エンジンオイル注入口
ウィンドウォッシャー
液タンク
バッテリー
エンジンオイル
レベルゲージ
ベルト類
冷却水
リザーブタンク
ラジエーターキャップ
エアコン冷媒量点検窓

点検整備については「メンテナンスノート」も合せてご覧ください。

項目		サービスデータ	
点火プラグ※	タイプ	NGK	PFR7G-11S
		DENSO	PK22PR-L11S
	電極のすき間	1.0－1.1 mm （限度値）：1.3 mm	

※：ISO（国際標準化機構）規格品を使用しています。 のマークがついています。
白金プラグを使用していますので、次のことに注意してください。
・白金チップの微粒子膜を損傷するおそれがあるので、ワイヤーブラシ等による清掃は行わないでください。
・プラグギャップは調整できません。限度値をこえているものは交換してください。
（清掃はクリーナーにて20秒以下で行ってください。）

項　目		サ　ー　ビ　ス　デ　ー　タ	
ベルトのたわみ量			
	発電機ベルト	自動調整式 （インジケーター内の基準内にあること）	
ブレーキペダル	遊び	1－5 mm	
	床板とのすき間	150 mm 以上 {約196N（20kgf）の力}	
	カーペットとのすき間（参考値）	122 mm 以上 {約196N（20kgf）の力}	
クラッチペダル	遊び	9－17 mm	
	床板とのすき間	119 mm 以上（クラッチが切れたとき）	
	カーペットとのすき間（参考値）	89 mm 以上（クラッチが切れたとき）	
パーキングブレーキ	引きしろ	9 －13回 {約196N（20kgf）の力}	
エアクリーナエレメント	タイプ	湿式	
バッテリー	容量／タイプ	VGS非装備車	28AH(5)／38B19L
		VGS装備車	36AH(5)／55B24L
電球（バルブ）	W（ワット）数	ヘッドライト（外側）・・・・・・・・・・・・・ 12V－35W※1 （内側）・・・・・・・・・・・・・ 12V－55W※2 前面方向指示器／前面非常点滅表示灯・・ 12V－21W(橙色) 車幅灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－5W 側面方向指示器／側面非常点滅表示灯・・ 12V－5W（橙色） 後面方向指示器／後面非常点滅表示灯・・ 12V－21W 番号灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－5W 制動灯／尾灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－21/5W 後退灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－21W 室内灯／スポットランプ・・・・・・・・・・ 12V－5W トランク照明灯・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－5W	

※1：ディスチャージヘッドライト
※2：ハロゲンバルブ

項目		サービスデータ	
エンジンオイル	推奨オイル	Honda純正オイル（4サイクル四輪車用） ウルトラGOLD SL（API SL級SAE 5W-40） ウルトラMILD SL（API SL/GF-3級SAE 10W-30）	
	規定量	オイル交換時	4.5ℓ
		オイル、オイルフィルター同時交換時	4.8ℓ

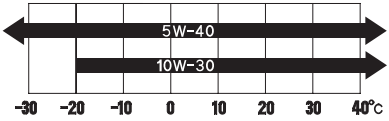
推奨エンジンオイル

Honda純正エンジンオイルまたはAPI SJ級以上か、オイル缶にAPI CERTIFICATION（エーピーアイ　サーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイルをお使いください。



API CERTIFICATIONマーク

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

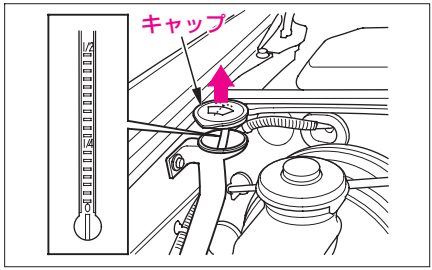


（外気温）

項目		サービスデータ
燃料	指定燃料	無鉛プレミアムガソリン(無鉛ハイオク)
	タンク容量	50 ℓ
トランスミッションオイル	指定オイル	Honda純正オイルウルトラMTF-II
	規定量(交換時)	1.5 ℓ
デファレンシャルオイル	指定液	Honda純正ウルトラHGO-III
	規定量(交換時)	0.74 ℓ
冷却水	指定液	Honda純正ウルトラeクーラント
	規定濃度	50%
	規定量(交換時リザーブタンク0.6ℓ含む)	6.4 ℓ
ブレーキ液	指定液	Honda純正ウルトラブレーキフルードDOT 3 またはDOT 4
クラッチ液	指定液	Honda純正ウルトラブレーキフルードDOT 3 またはDOT 4
ウォッシャー液	タンク容量	2.5 ℓ

ウォッシャー液の量の点検

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²) 前輪	タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²) 後輪	リムサイズ※ アルミホイール	リムサイズ※ スチールホイール
標準タイヤ	205/55R16 89V	220 (2.2)		16×6½JJ	
	225/50R16 92V		220 (2.2)	16×7½JJ	
応急用スペアタイヤ	T125/70D16 96M	420 (4.2)			16×4T

タイヤの溝の深さ	1.6 mm 以上

※：この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換に際しては、必ずホンダベルノ店にご相談ください。

名称	排気量(cm³)	車体形状	乗車定員(人)
S2000	1,997	2 ドア コンバーチブル	2

さくいん

ア

アクセサリーソケット ····· 134
雨の日の運転 ····· 198
アルミホイール ····· 184
アンチロックブレーキシステム(ABS)
　運転のしかた ····· 96
　ABSのしくみ ····· 96
　警告灯 ····· 97
　取り扱いについて ····· 97
アンテナ ····· 110

イ

イグニッション(エンジン)
　キー ····· 28
　スイッチ ····· 68
イルミネーションコントロール ····· 59

ウ

ウィンカー
　スイッチ ····· 71
　電球の交換 ····· 163・164・165
　表示灯 ····· 61
　W(ワット)数 ····· 204
ウィンドー ····· 38
ウォッシャー液
　スイッチ ····· 72
　タンクの容量 ····· 206
　冬期の手入れ ····· 197
　補給 ····· 206
運転のしかた ····· 76

エ

エアクリーナーエレメント ····· 204
エアコン ····· 100
　使いかた ····· 102
　吹き出し風の調節 ····· 101
　ベルト ····· 204
AM/FMラジオ一体式CD/MDステレオ ··· 111
MDプレーヤーの使い方 ····· 120
SRSエアバッグシステム
　お子さまを乗せるときは ····· 91
　SRSエアバッグシステムのしくみ ····· 86
　警告灯 ····· 93
　作動しないとき ····· 89
　作動するとき ····· 88
　取り扱いについて ····· 92
エレクトリックパワーステアリング(EPS)
　警告灯 ····· 65
エンジンオイル・フィルター
　オイル量 ····· 205
　冬期の手入れ ····· 196
エンジンキー(キー) ····· 28
エンジンスイッチ ····· 68
エンジンスタートスイッチ ····· 69
エンジンのかけかた ····· 76
エンジンブレーキ ····· 18
エンジンルーム ····· 202

オ

応急用スペアタイヤ
　格納場所 ····· 136
　空気圧 ····· 207
　サイズ ····· 207
　スペアタイヤについて ····· 148
オーディオ ····· 108
　インデックス ····· 111
　上手な使いかた ····· 108
オーディオリッド ····· 110
オーディオリモートコントロール ····· 129
オーバーヒートしたとき ····· 154
オドメーター ····· 57

カ

カードホルダ …… 134
外装の手入れ …… 174
学童用(ジュニア)シート …… 15・52
カップホルダー …… 133
換気 …… 13
寒冷時の取り扱い …… 188

キ

キー …… 28
キー抜き忘れ警告ブザー …… 69
キーレスエントリー …… 30

ク

曇り取り(デフロスター) …… 105
クラッチ液 …… 206
クラッチ・スタートシステム …… 77
クラッチペダル …… 204
車にあった部品の使用 …… 186

ケ

警告灯
　警告灯類 …… 62
　電球切れの点検 …… 67
経済走行 …… 201
けん引
　けん引されるとき …… 142
　故障車をけん引するとき …… 144

コ

工具(ツール)
　格納場所 …… 136
　種類 …… 137
高速道路で故障したとき …… 138
後退灯(バックランプ)
　電球の交換 …… 165
　W(ワット)数 …… 204
故障したとき …… 138
故障の修理について …… 139
小物入れ …… 133
コンソールボックス …… 133

サ

サービスデータ ····· 202
三点式シートベルト ····· 50
サンバイザー ····· 131

シ

シート ····· 46
シートベルト ····· 50
　ガイド ····· 52
　警告灯 ····· 66
　種類 ····· 52
　着用のしかた ····· 54
シートベルトプリテンショナー
　警告灯 ····· 95
　装置について ····· 94
　取り扱いについて ····· 95
CDプレーヤーの使いかた ····· 118
CDチェンジャーコントローラー、
CD/MDプレーヤーの使いかた ····· 124
事故が起きたとき ····· 140
室内灯(ルームランプ)
　使いかた ····· 130
　電球の交換 ····· 166
　W(ワット)数 ····· 204
霜取り・曇り止め
　前面・側面ガラス ····· 105
　リヤガラス ····· 74
ジャッキの取り扱い ····· 146
車幅灯(ポジションランプ)
　電球の交換 ····· 163
　W(ワット)数 ····· 204
充電警告灯 ····· 64
樹脂塗装部品 ····· 175
ジュニア(学童用)シート ····· 15・52
純正部品 ····· 186

ス

水温計 ····· 58
スイッチの使いかた ····· 68
スノータイヤ(冬期タイヤ) ····· 190
スパークプラグ(点火プラグ) ····· 203
スピードメーター ····· 57
スペアタイヤ
　格納場所 ····· 136
　空気圧 ····· 207
　サイズ ····· 207
　スペアタイヤについて ····· 148
スポットランプ
　使いかた ····· 131
　電球の交換 ····· 166

セ

制動灯(ブレーキランプ)
　電球の交換 ····· 165
　W(ワット)数 ····· 204
整備 ····· 170
積雪・寒冷時の取り扱い
　運転するとき ····· 190
　運転するまえ ····· 188
　駐車するとき ····· 194
　冬期の手入れ ····· 196
洗車 ····· 174
前照灯(ヘッドライト)
　上向きと下向きの切り換え ····· 70
　上向き表示灯 ····· 61
　追い越し合図(パッシング) ····· 70
　スイッチ ····· 70
　電球の交換 ····· 161
　W(ワット)数 ····· 204

ソ

速度計 ····· 57
速度範囲 ····· 81
その他の安全装備 ····· 98
ソフトトップ
　開けかた ····· 42
　閉めかた ····· 43
　作動しないとき ····· 167
　手入れ ····· 177

タ

タイヤ
位置交換(ローテーション) …… 183
ウェアインジケーター …… 183
応急用スペアタイヤ …… 148
空気圧 …… 207
交換 …… 149
サイズ …… 207
スノータイヤ …… 190
チェーン …… 192
点検 …… 182
タコメーター …… 57
正しい運転姿勢 …… 44

チ

チェーン …… 192
チェンジレバーの操作 …… 80
チャイルド(幼児用)シート …… 15・52
駐車
坂道 …… 21
積雪・寒冷時の取り扱い …… 194
駐車ブレーキ(パーキングブレーキ)
警告灯 …… 63
積雪・寒冷時の取り扱い …… 194
操作 …… 78

テ

デファレンシャルオイル …… 206
点火プラグ …… 203
電気系統が異常のとき …… 156
電気装置が作動しないとき …… 158
電球(バルブ)
交換 …… 160
W(ワット)数 …… 204
点検・整備について …… 170
電動リモコンドアミラー …… 48

ト

ドア
開閉警告灯 …… 66
施錠・解錠 …… 28
積雪・寒冷時の取り扱い …… 189
ドアミラー …… 48
冬期の手入れ …… 196
道路で動けなくなったとき …… 139
塗装の手入れ …… 172
トランク
開閉 …… 34
開閉警告灯 …… 66
トランク照明灯
電球の交換 …… 166
W(ワット)数 …… 204
トランスミッション
オイルの容量 …… 206
トリップメーター …… 57

ナ

内装の手入れ ····· 180
夏場の取り扱い ····· 200

ニ

日常の手入れ ····· 172
乳児用(ベビー)シート ····· 15・52

ネ

燃料(ガソリン)
　指定燃料 ····· 36・206
　タンク容量 ····· 36・206
　燃料計 ····· 58
　燃料残量警告灯 ····· 66
　補給口 ····· 36

ハ

パーキングブレーキ
　警告灯 ····· 63
　積雪・寒冷時の取り扱い ····· 194
　操作 ····· 78
灰皿 ····· 132
ハイドロプレーニング現象 ····· 198
ハイビーム表示灯 ····· 61
ハザードランプ(非常点滅表示灯)
　スイッチ ····· 71
　電球の交換 ····· 163・164・165
　W(ワット)数 ····· 204
発炎筒
　格納場所 ····· 136
　発炎筒について ····· 137
バックミラー(後写鏡)
　使いかた ····· 48
バッテリー
　充電 ····· 157
　冬期の手入れ ····· 196
　バッテリーあがり ····· 156
　容量／タイプ ····· 204
発電機ベルト ····· 204
バニティミラー(化粧鏡) ····· 131
バリアブルギヤレシオステアリング(VGS)
　警告灯 ····· 83
　装置について ····· 82
パワーウィンドー ····· 38
パワードアロック(オートドアロック) ···· 28
パンク
　積雪・寒冷時の取り扱い ····· 191
　パンクしたとき ····· 146
番号灯(ライセンスランプ)
　電球の交換 ····· 164
　W(ワット)数 ····· 204

ヒ

PGM-FI警告灯 ····· 64
ヒーター・マニュアル式エアコン ····· 110
非常点滅表示灯(ハザードランプ)
　スイッチ ····· 73
　電球の交換 ····· 163・164・165
　W(ワット)数 ····· 204
尾灯
　電球の交換 ····· 165
　W(ワット)数 ····· 204
ヒューズ ····· 158
表示灯 ····· 60

フ

吹き出し風の調節 ····· 101
踏切で動けなくなったとき ····· 138
フューエルリッド ····· 36
プラグ ····· 203
ブレーキ
　警告灯 ····· 63
　積雪・寒冷時の取り扱い ····· 191
　倍力装置 ····· 18
　ペダル ····· 204

ヘ

ヘッドライト
　上向きと下向きの切り換え ····· 70
　上向き表示灯 ····· 61
　追い越し合図(パッシング) ····· 70
　スイッチ ····· 70
　電球の交換 ····· 161
　W(ワット)数 ····· 204
ベビー(乳児用)シート ····· 15・52
ベルトのたわみ量 ····· 204

ホ

ホーンスイッチ ····· 75
ホイールサイズ ····· 207
芳香剤 ····· 180
方向指示器(ウィンカー)
　スイッチ ····· 71
　電球の交換 ····· 163・164・165
　表示灯 ····· 61
　W(ワット)数 ····· 204
ボンネット ····· 32

マ

万一のとき ····· 135

ミ

ミラー
　ドアミラー ····· 48
　ルームミラー ····· 48

ム

無線装置 ····· 23

メ

メーター(計器類) ····· 56

ユ

油圧警告灯 ····· 63
雪道走行後の手入れ ····· 196

ヨ

幼児用(チャイルド)シート ····· 15・52

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー ····· 70
ライトスイッチ ····· 70
ライト類が点灯しないとき ····· 158
ラジオの使いかた ····· 114

リ

リミテッドスリップデフ(LSD)
　LSDのしくみ ····· 84
　取り扱いについて ····· 84
リムサイズ ····· 207
リヤデフロスター ····· 74

ル

ルームミラー(防眩式室内後写鏡) ····· 48

レ

冷却水(ラジエーター液)
　水量 ····· 206
　冬期の手入れ ····· 197
レザークリーナー ····· 180

ワ

ワイパー
　スイッチ ····· 72
　積雪・寒冷時の取り扱い ····· 189
ワックスがけ ····· 175

A

ABS(アンチロックブレーキシステム)
運転のしかた ····· 96
ABSのしくみ ····· 96
警告灯 ····· 97
取り扱いについて ····· 97
A/C(エアコン)
使いかた ····· 102
吹き出し風の調節 ····· 101
ベルト ····· 204

C

CDプレーヤーの使い方 ····· 118

E

ELR付三点式シートベルト ····· 52
EPS(エレクトリックパワーステアリング)
警告灯 ····· 65

H

HFC-134a(エアコン冷媒) ····· 200

I

INT(間欠ワイパー) ····· 72

L

LSD(リミテッドスリップデフ)
LSDのしくみ ····· 84
取り扱いについて ····· 84

M

MDプレイヤーの使い方 ····· 120
MT(マニュアルトランスミッション)
オイル ····· 206
チェンジレバー ····· 80

P

PGM-FI警告灯 ····· 64
PRESS(シートベルトバックル) ····· 54

S

SRSエアバッグシステム
お子さまを乗せるときは …… 91
SRSエアバッグシステムのしくみ …… 86
警告灯 …… 93
作動しないとき …… 89
作動するとき …… 88
取り扱いについて …… 92

T

TRIP(トリップメーター) …… 57

V

VGS(バリアブルギヤレシオステアリング)
警告灯 …… 83
装置について …… 82

W

W数(ライト類の電球のワット数) …… 204

お問い合わせ、ご相談は、お買い求めのベルノ店もしくは全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターがお受け致します。

フリーダイヤル　　0120-112010（イイフレアイオ）

本田技研工業株式会社　お客様相談センター
受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00
〒107-8556　東京都港区南青山２－１－１
・所在地、電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。

こんなことでお困りのとき

●キーが回せない

“0”から“I”に回らないとき

・ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

エンジンスイッチ　→68ページ

●エンジンがかからない

・ガソリンが入っていますか。（メーター内の燃料計で確認してください。）

・バッテリーがあがっていませんか。

バッテリーあがりのとき　→156ページ

・クラッチペダルをいっぱいに踏み込んでいますか。

クラッチ・スタートシステム　→77ページ

●ドアを開けるとブザーが鳴る

・キーをエンジンスイッチに差し込んだままになっていませんか。

キー抜き忘れ警告ブザー　→69ページ

・ライトを消し忘れたままになっていませんか。

ライト消し忘れ警告ブザー　→70ページ

●キーを閉じ込めてしまった

・Honda販売店またはJAFへご連絡ください。

●水温計の赤いマークが点灯した
●エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

・オーバーヒートのおそれがあります。
（安全な場所に停車して、エンジンを冷やしてください）

オーバーヒートしたとき　→154ページ

●走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

・ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。
（ホンダベルノ店で点検を行ってください。）